

■ 前提条件および注意事項

- 移行元に展開したミドルウェア、アプリケーション等は移行先に新規にインストールする必要があります。ミドルウェア、アプリケーション等の移行手順は、提供元のベンダーにお問合せください。
※SQL Serverについては、本手順にて移行先環境構築やDB移行を行います。
- 本手順では、データ移行にデータボリュームを利用します。
- バックアップおよびリストア作業に、Arcserve Unified Data Protectionを利用します。
- 本手順では、SQL Server Management Studio(以降「SSMS」と記載)および「sqlcmd」を利用します。以下の構成を前提として手順を記載しています。
 - サーバ : 1台
 - SqlServerインスタンス : 1つ
 - 操作対象のデータベース : 1つお客様環境において、同一サーバ上に複数のSqlServerインスタンスまたは各インスタンス配下に、複数のデータベースが存在する場合は、手順内で示す「インスタンス名」および「データベース名」をお客様環境の構成に合わせて読み替えて実行してください。
- 移行作業にかかる時間は、データの容量やネットワーク環境によって異なります。

1.1.4 仮想サーバーインスタンス新環境移行（Windows Server+SQL Server）データ移行手順

■ 移行作業内容

1. 移行先環境の作成
2. バックアップデータ保存用ボリュームの作成
3. Arcserveの導入
4. バックアップ作業
5. バックアップデータ保存用ボリュームの移行
6. リストア作業
7. バックアップデータ保存用ストレージ・移行元サーバの削除

1. 移行先環境の作成

以下リンクを参照して、移行先サーバーを作成します。
[サーバーインスタンス構築手順](#)

下記を参照して、データボリュームを作成します。
[データボリュームの新規作成方法](#)

下記を参照して、NWインターフェイスを追加します。
[インスタンスへNWインターフェイスを追加する](#)

下記を参照して、NTPサーバへ接続します。
[NTPサーバに接続する](#)

下記を参照して、OSライセンスのアクティベーション実施します。
[OSライセンスのアクティベーションを実施する](#)

2. バックアップデータ保存用ボリュームの作成

以下リンクを参照して、バックアップデータ保存用のボリュームを作成します。
データボリュームの新規作成

作成するデータボリュームは、以下の通りです

- ・ボリュームソース : ソースの指定なし(空のボリューム)
- ・サイズ : 移行元インスタンス作成時のデータボリュームの容量
- ・ボリューム種別 : Type-A

以下リンクの「4.1.2インスタンスへのデータボリュームのアタッチ」を参照して、バックアップデータ保存用のボリュームを移行元サーバのインスタンスへ接続します。

[4.1.データボリュームの新規作成方法 - サーバーインスタンス チュートリアル](#)

※ボリュームのアタッチ/デタッチは仮想サーバーインスタンスを“停止”した状態で行ってください。

<https://sdpf.ntt.com/faq/virtual-server-35/>

2. バックアップデータ保存用ボリュームの作成

SDPFポータルへログインし、[仮想サーバー]>[サーバーインスタンス]>[インスタンス]メニューを開きます。



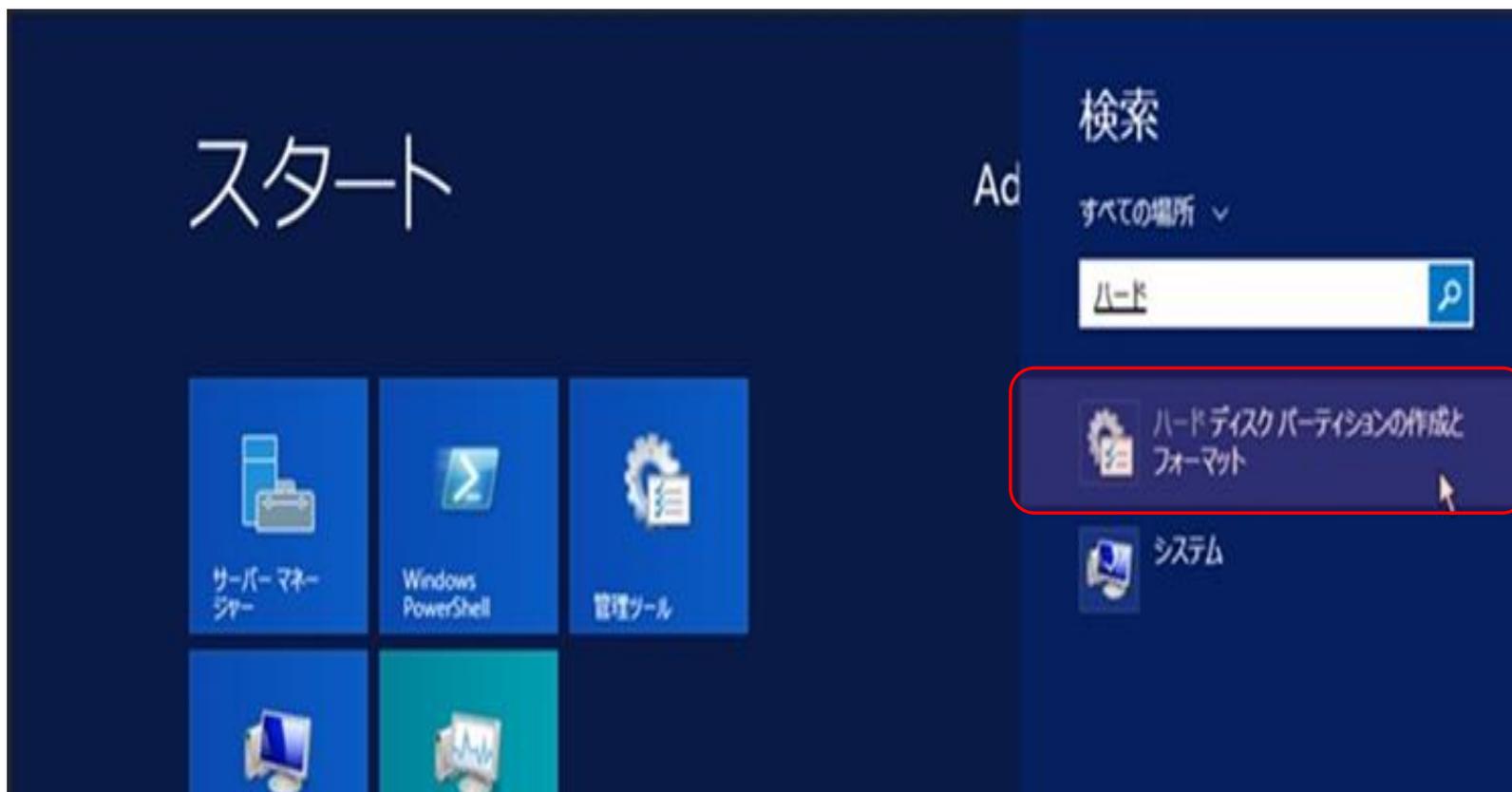
2. バックアップデータ保存用ボリュームの作成

移行元サーバを選択し、詳細画面を開き、[コンソール]タブを選択します。

The screenshot displays the 'Smart Data Platform' interface for 'docomo Business'. The top navigation bar includes the 'Smart Data Platform' logo, the 'docomo Business' logo, and a 'メニュー' (Menu) dropdown. The main content area is titled 'インスタンスの詳細:' (Instance Details). On the left, a sidebar menu lists 'テナント情報' (Tenant Information), '仮想サーバー' (Virtual Server), '物理サーバー' (Physical Server), and 'ハイパーバイザー' (Hypervisor). Below the title, there are three tabs: '概要' (Overview), 'セキュリティグループ' (Security Group), and 'コンソール' (Console). The 'コンソール' tab is highlighted with a red rectangular border.

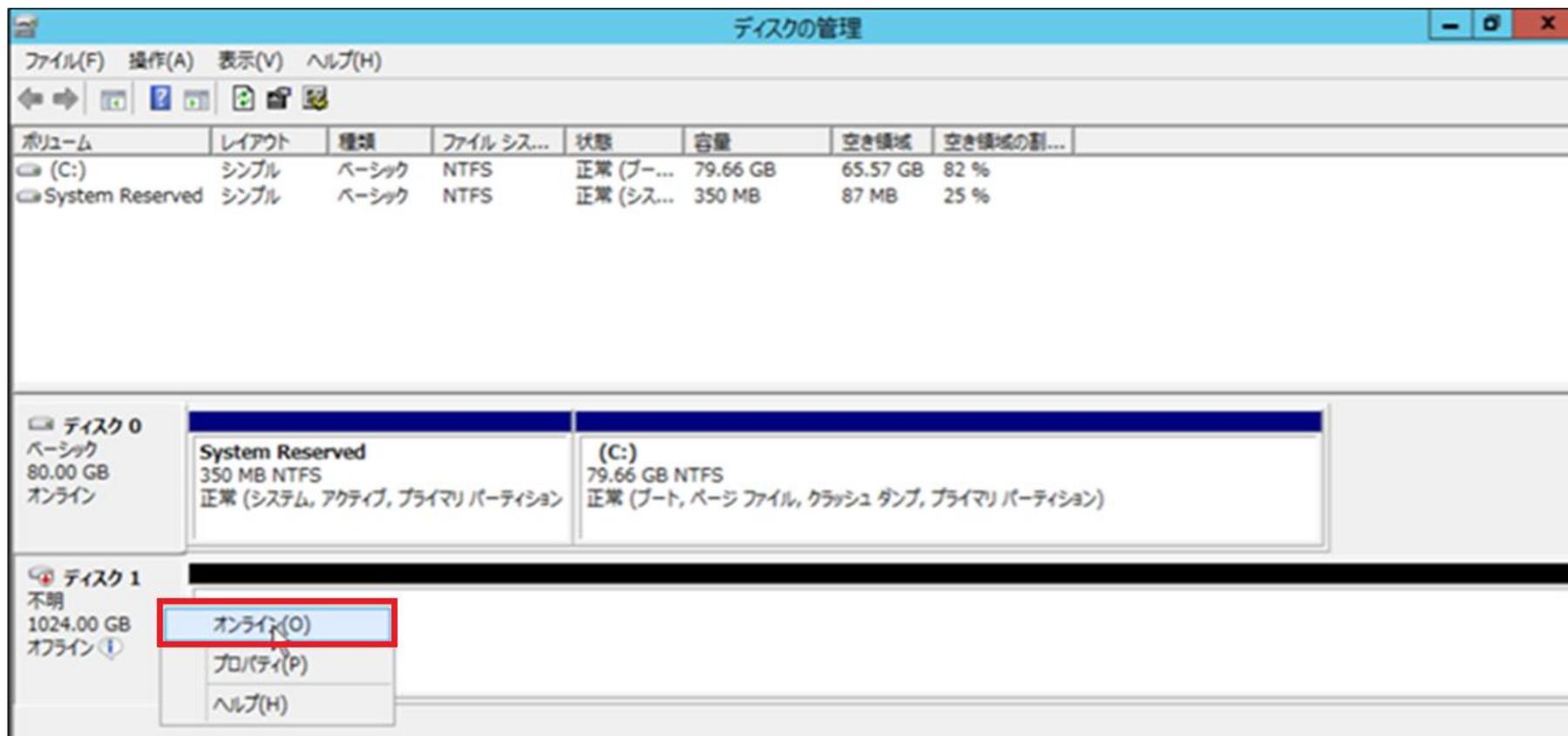
2. バックアップデータ保存用ボリュームの作成

移行元サーバーにログインして、「検索」ボックスから「ハード ディスク パーティションの作成とフォーマット」を検索し、結果の一覧で、「ハード ディスク パーティションの作成とフォーマット」を開きます。



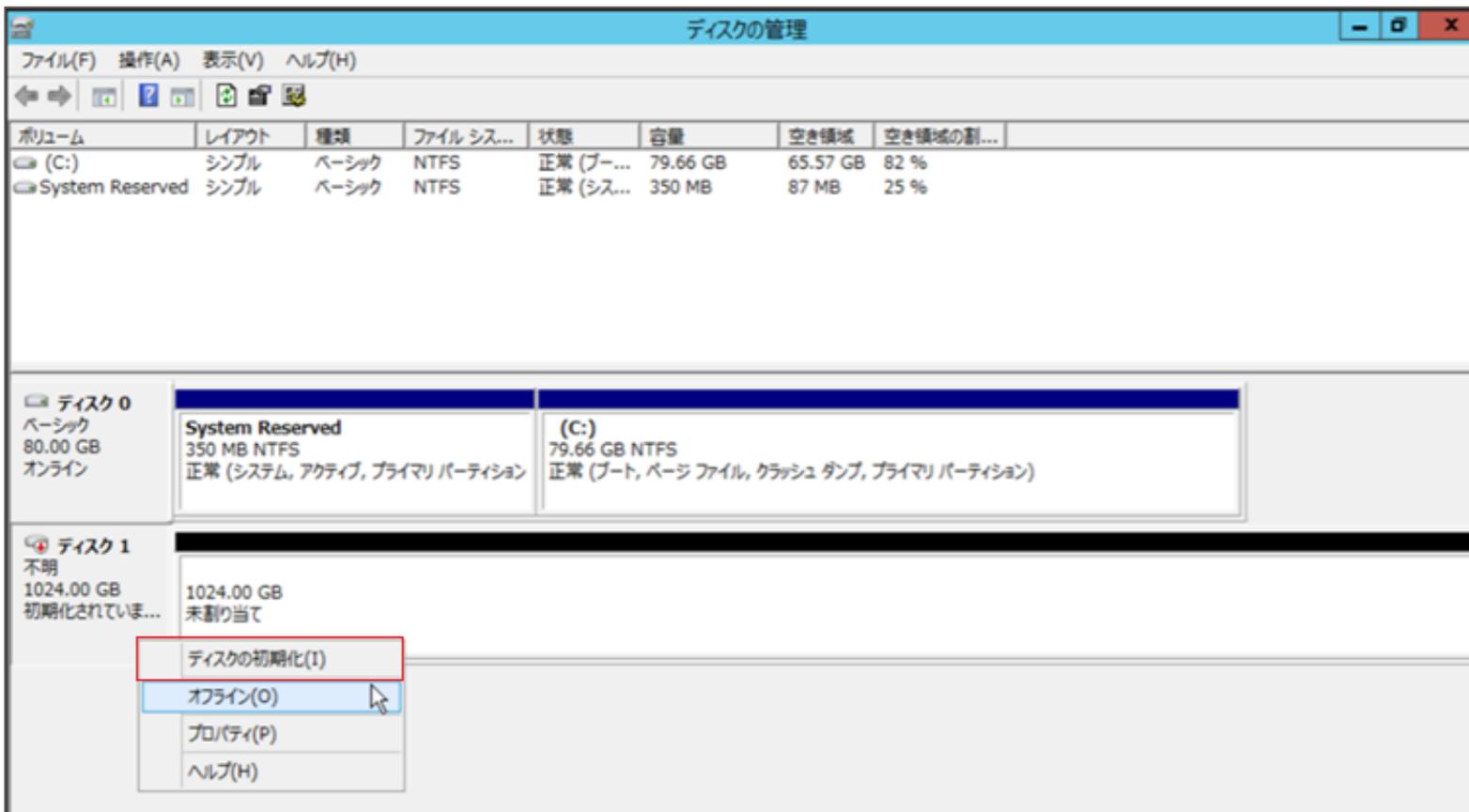
2. バックアップデータ保存用ボリュームの作成

「ディスクの管理」が開くので、初期化するディスク上で右クリックをし、「オンライン」を押下します。



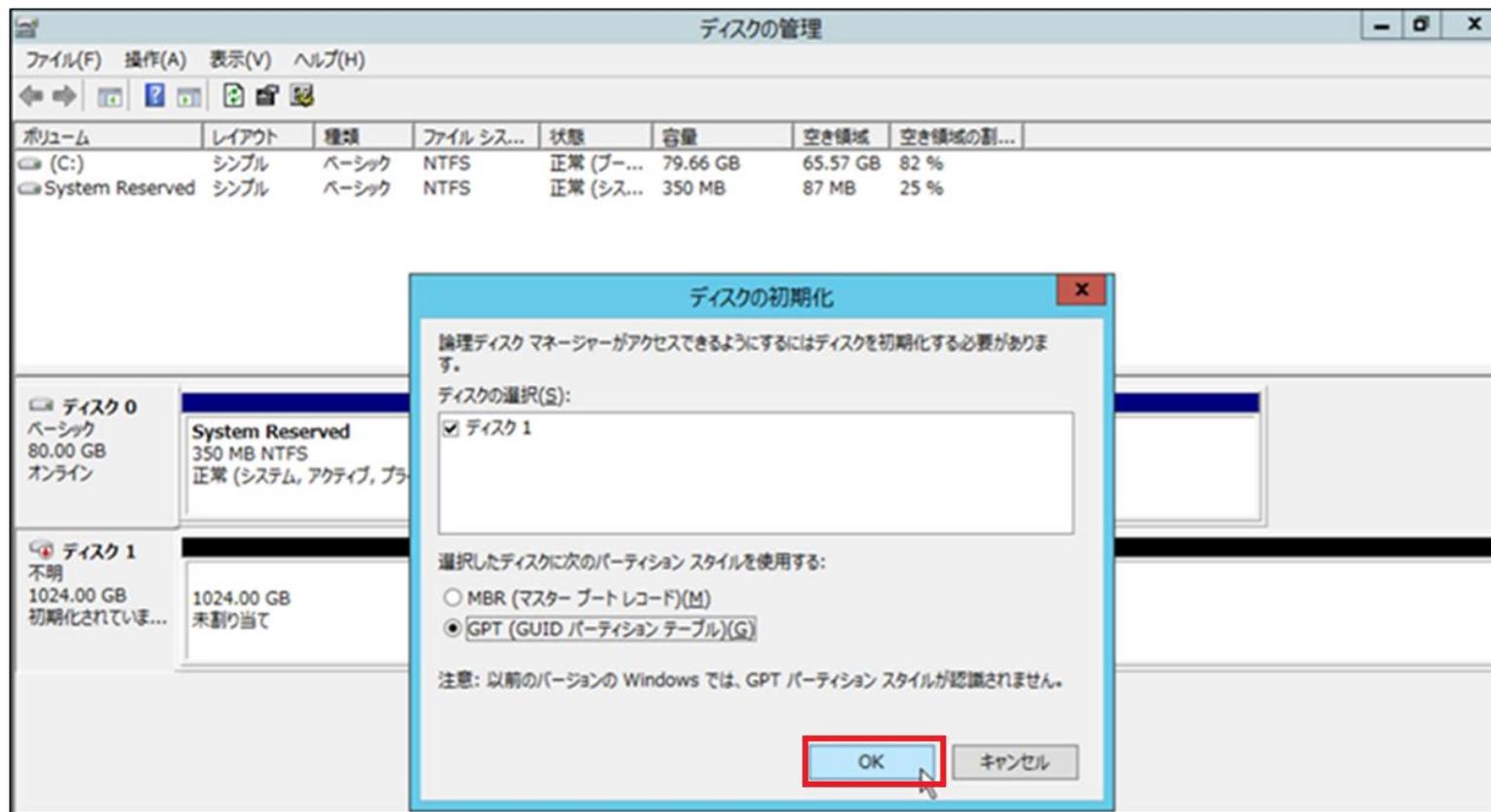
2. バックアップデータ保存用ボリュームの作成

「オンライン」押下後、再度、初期化するディスク上で右クリックをし、「ディスクの初期化」を押下します。



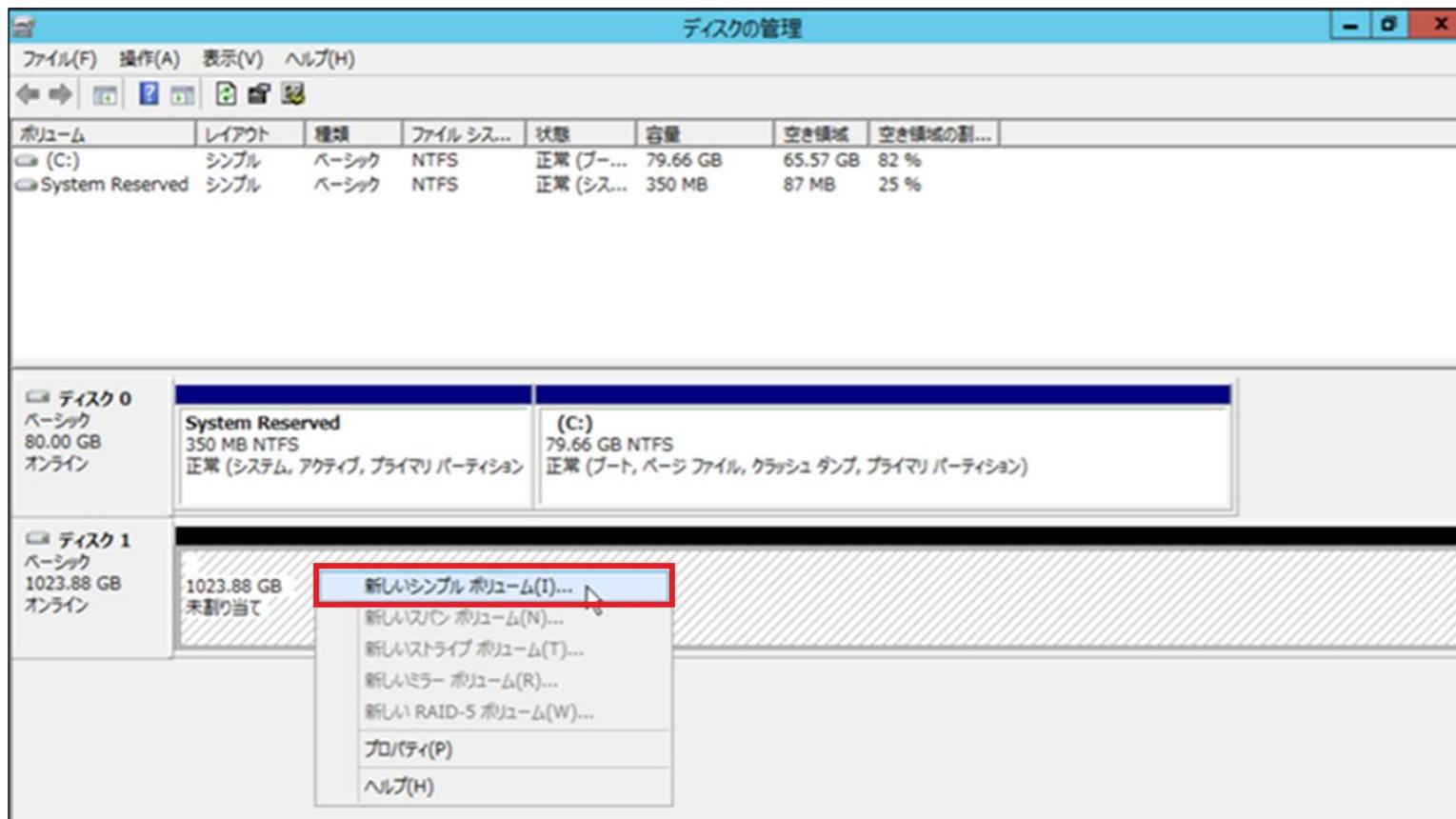
2. バックアップデータ保存用ボリュームの作成

「ディスクの初期化」画面が表示されるので、「GPT (GUIDパーティション テーブル)」を選択して、「OK」を押下します。



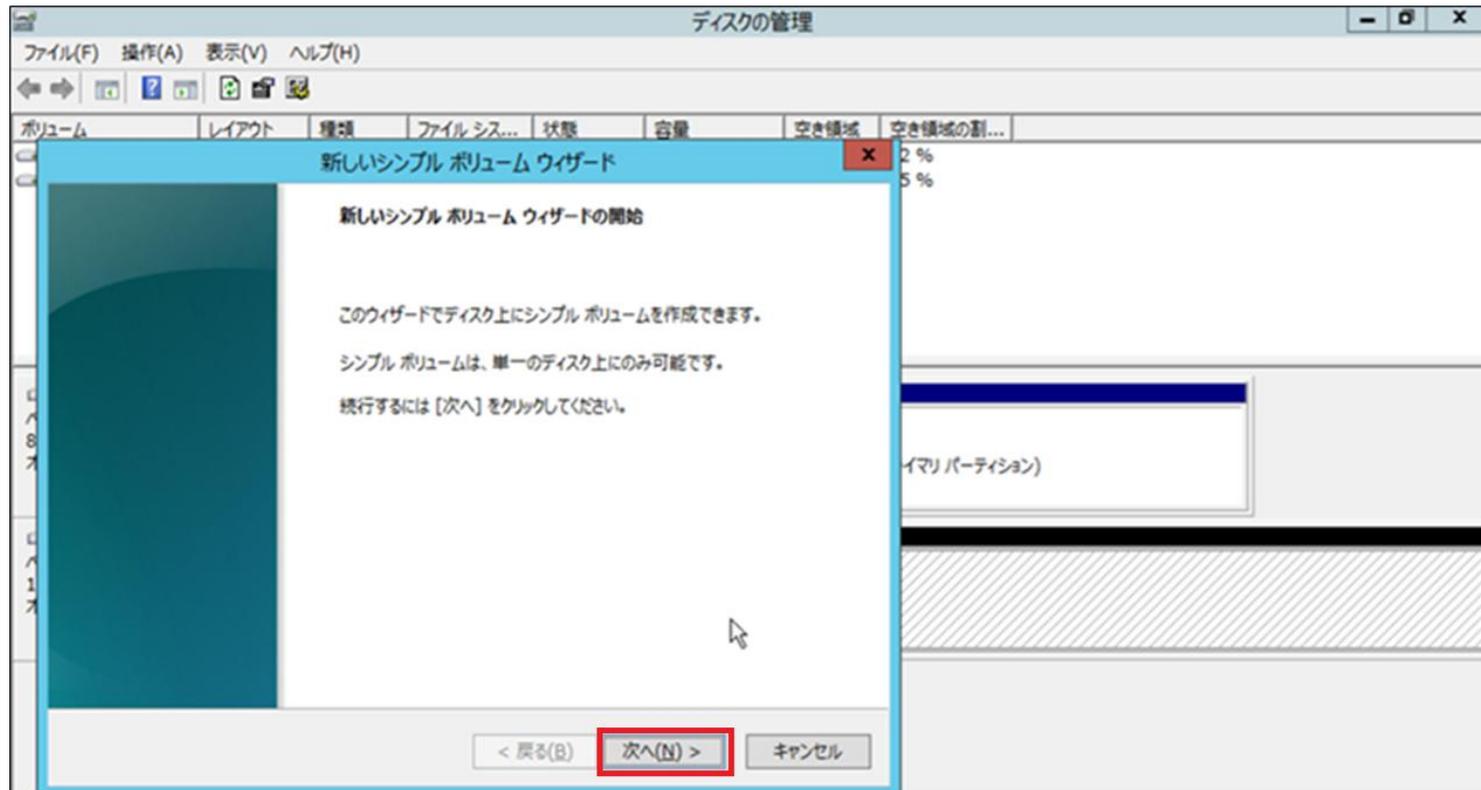
2. バックアップデータ保存用ボリュームの作成

初期化するディスク上で右クリックをし、「新しいシンプルボリューム」を押下します。



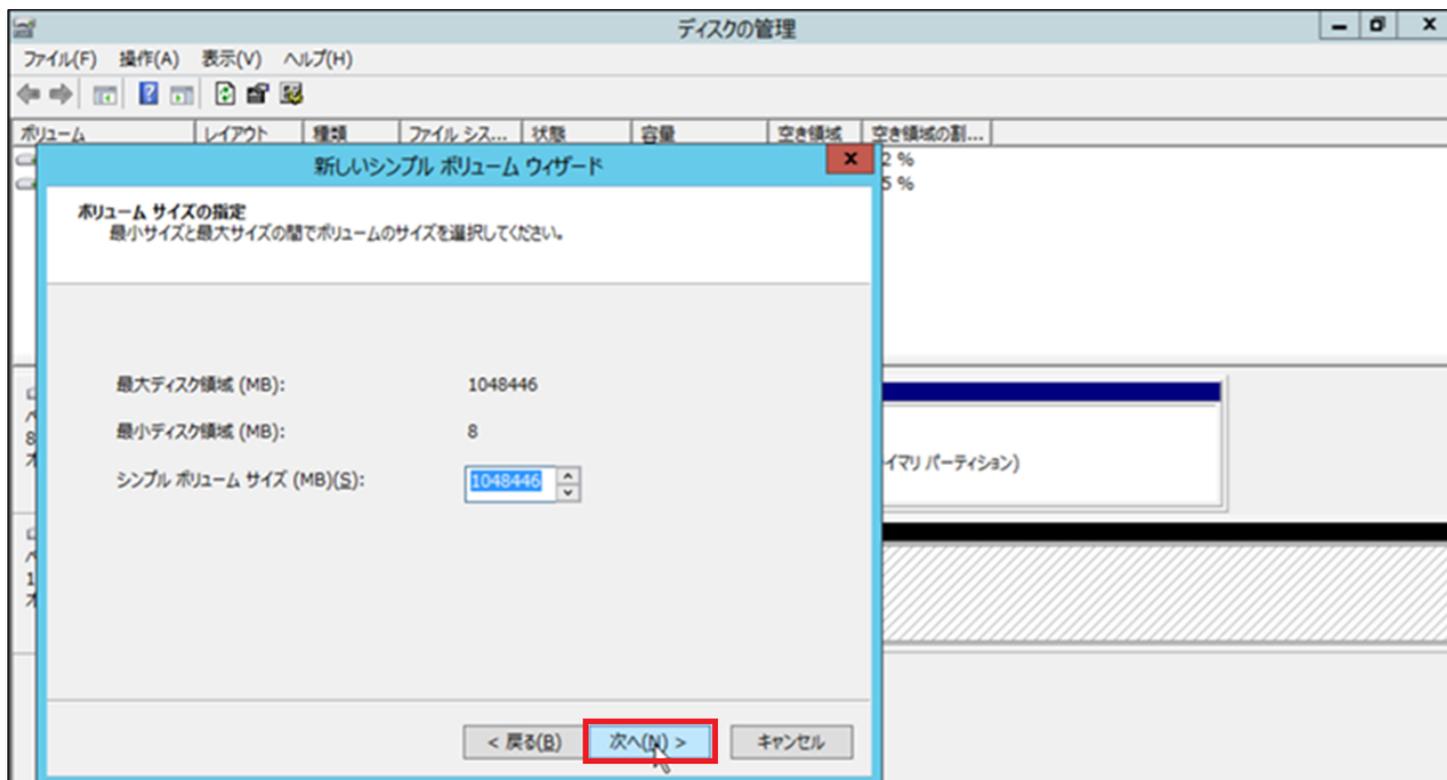
2. バックアップデータ保存用ボリュームの作成

「新しいシンプル ボリューム ウィザード」画面が表示されるので、「次へ」を押下します。



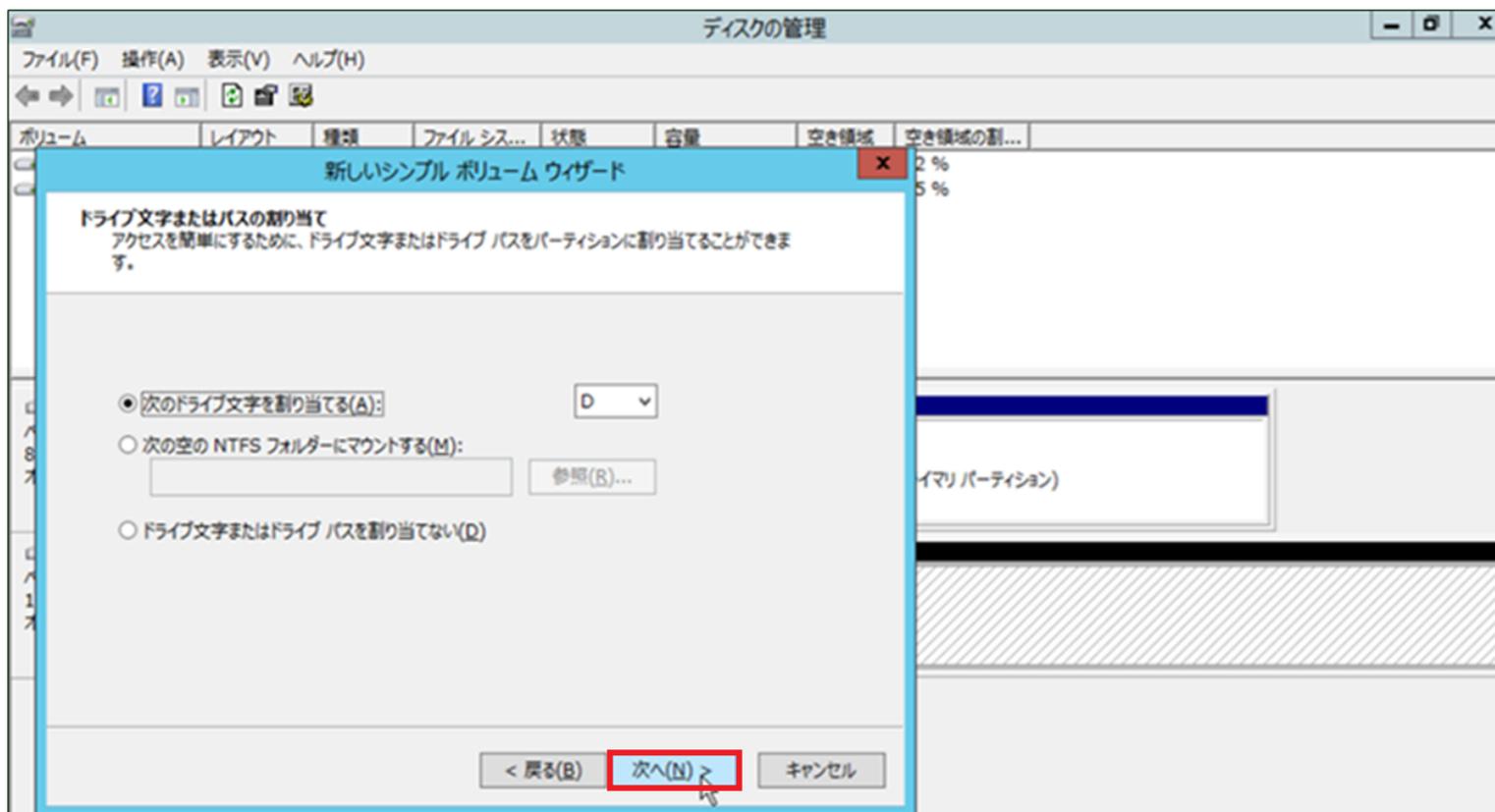
2. バックアップデータ保存用ボリュームの作成

「シンプルボリューム サイズ」を確認して、「次へ」を押下します。



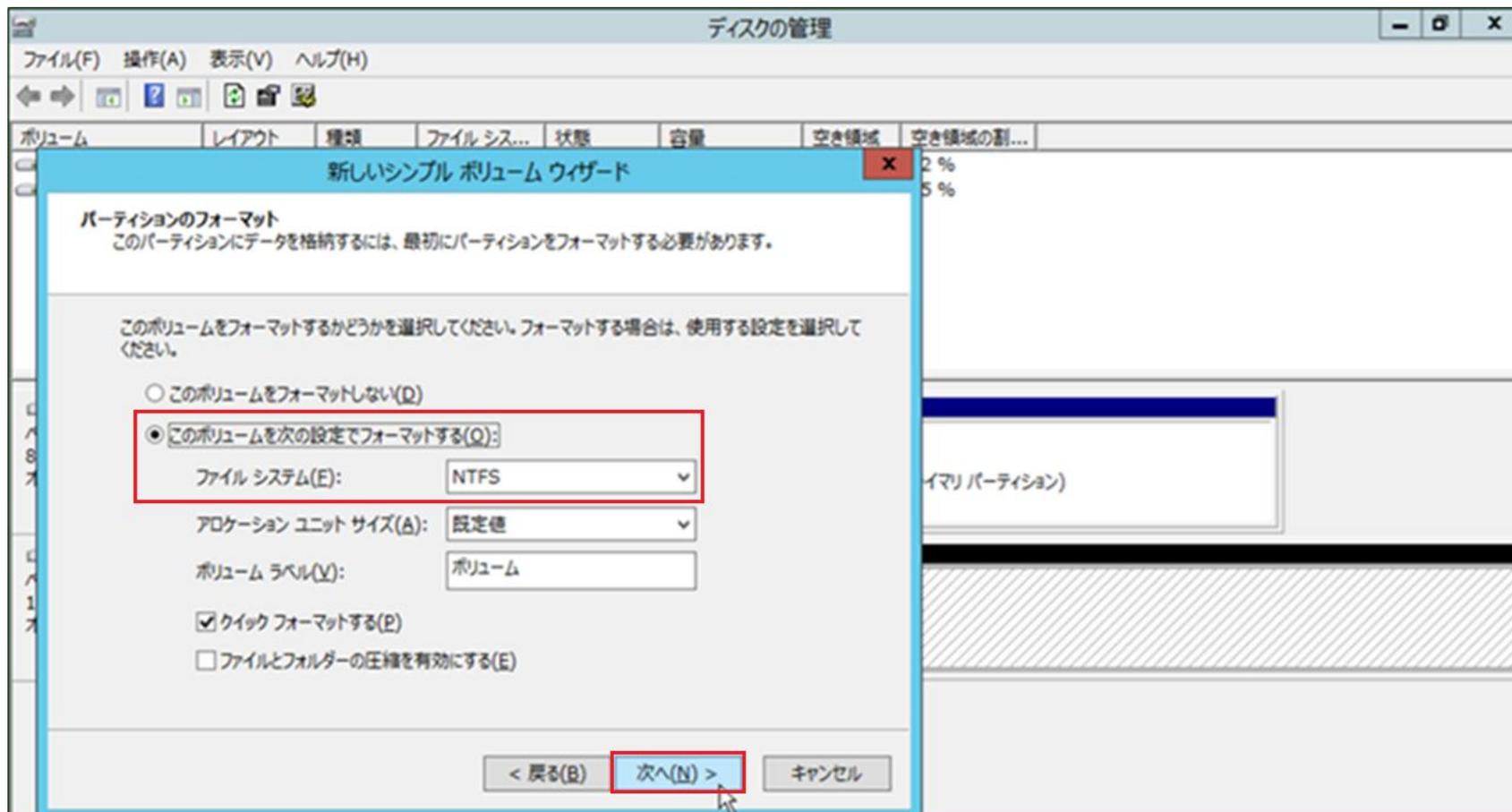
2. バックアップデータ保存用ボリュームの作成

「次のドライブ文字を割り当てる」でドライブ文字を指定して「次へ」を押下します。



2. バックアップデータ保存用ボリュームの作成

「このボリュームを次の設定でフォーマットする」で任意のファイルシステムを選択し、「次へ」を押下します。
※手順では、NTFSを選択しています。



2. バックアップデータ保存用ボリュームの作成

一覧にフォーマット済のボリュームが追加された事を確認します。

The screenshot shows the Windows Disk Management console. The top table lists the volumes on the disks. The 'ボリューム (D:)' row is highlighted with a red border, indicating it is the focus of the operation. Below the table, the details for 'ディスク 1' (Disk 1) are shown, with the 'ボリューム (D:)' section also highlighted by a red border. The details for 'ボリューム (D:)' show it is a 1023.87 GB NTFS volume that is '正常 (プライマリパーティション)' (Healthy (Primary Partition)).

ボリューム	レイアウト	種類	ファイル シス...	状態	容量	空き領域	空き領域の割...
(C:)	シンプル	ベーシック	NTFS	正常 (ブー...	79.66 GB	65.57 GB	82 %
System Reserved	シンプル	ベーシック	NTFS	正常 (シス...	350 MB	87 MB	25 %
ボリューム (D:)	シンプル	ベーシック	NTFS	正常 (プラ...	1023.87 GB	1023.6...	100 %

ディスク	パーティション	容量	ファイル システム	状態
ディスク 0 ベーシック 80.00 GB オンライン	System Reserved	350 MB	NTFS	正常 (システム, アクティブ, プライマリパーティション)
	(C:)	79.66 GB	NTFS	正常 (ブート, パージファイル, クラッシュ ダンプ, プライマリパーティション)
ディスク 1 ベーシック 1023.88 GB オンライン	ボリューム (D:)	1023.87 GB	NTFS	正常 (プライマリパーティション)

3. Arcserveの導入

移行元サーバーで以下を実施します。

以下リンクを参照して、Arcserveをダウンロードします。

[4.3.1. UDPコンソール・復旧ポイントサーバー・Windowsエージェント - ユースケース ユースケース | Smart Data Platform Knowledge Center](#)

以下リンクを参照して、Arcserveをインストールします。

[4.4.3. Windowsエージェント - ユースケース ユースケース | Smart Data Platform Knowledge Center](#)

3. Arcserveの導入

移行先サーバーに、Arcserveをダウンロード・インストールを実施します。

移行先サーバーにログインし、以下リンクを参照して、Arcserveをダウンロードします。

[4.3.1. UDPコンソール・復旧ポイントサーバー・Windowsエージェント - ユースケース ユースケース | Smart Data Platform Knowledge Center](#)

以下リンクを参照して、Arcserveをインストールします。

[4.4.3. Windowsエージェント - ユースケース ユースケース | Smart Data Platform Knowledge Center](#)

4. バックアップ作業

Windows serverの場合

4. バックアップ作業

移行元サーバに移動し、バックアップデータ作成を行います。

以下ユースケースを参考に手順実施します。

[4.6.1. Windows Server \(単体型\) - ユースケース ユースケース | Smart Data Platform Knowledge Center](#)

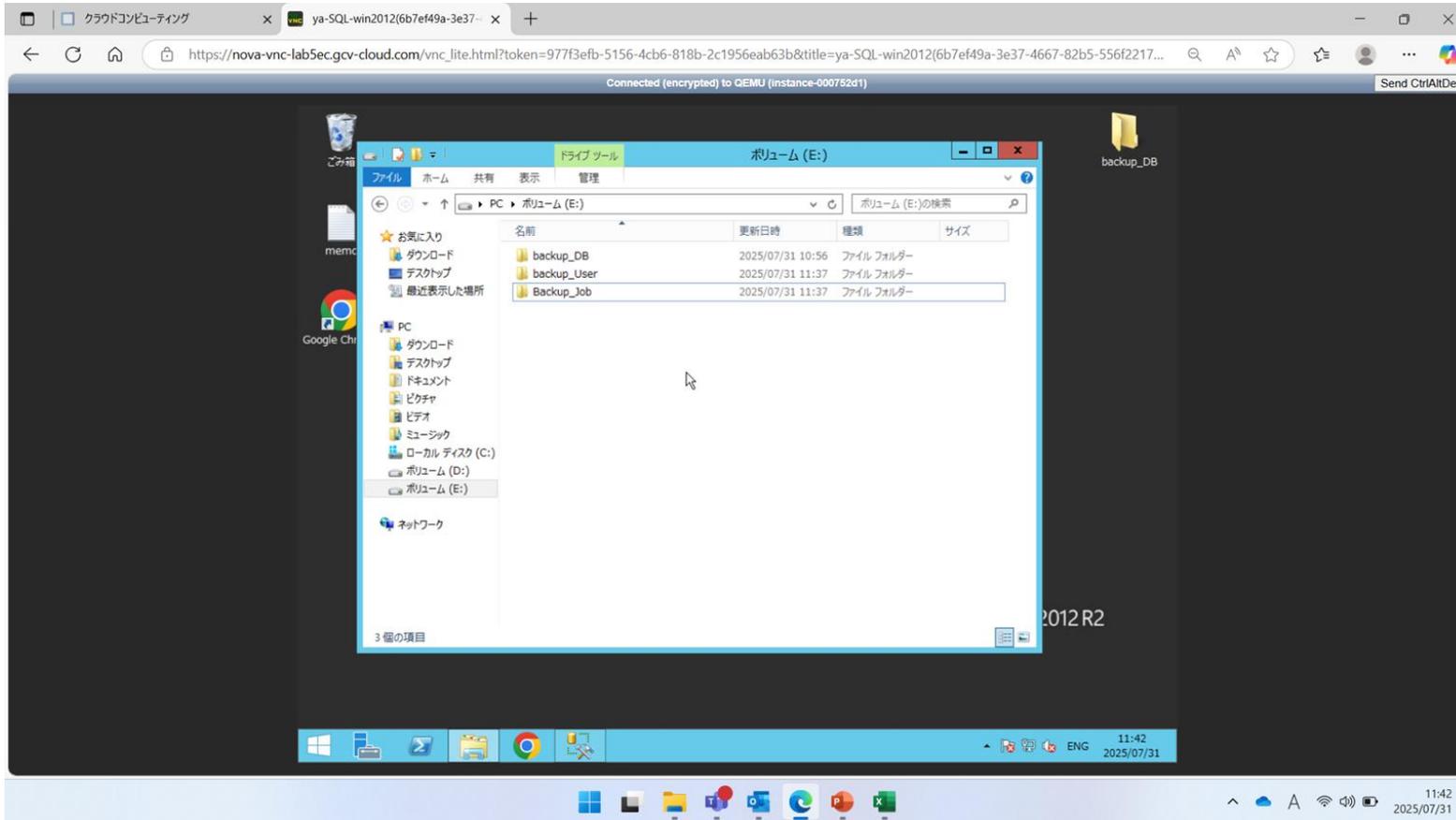
4. バックアップ作業

SQL Serverの場合

4. バックアップ作業

エクスプローラーから先ほど接続したバックアップデータ保存用ボリュームを開きます。
任意の名称で下記のフォルダを作成します。

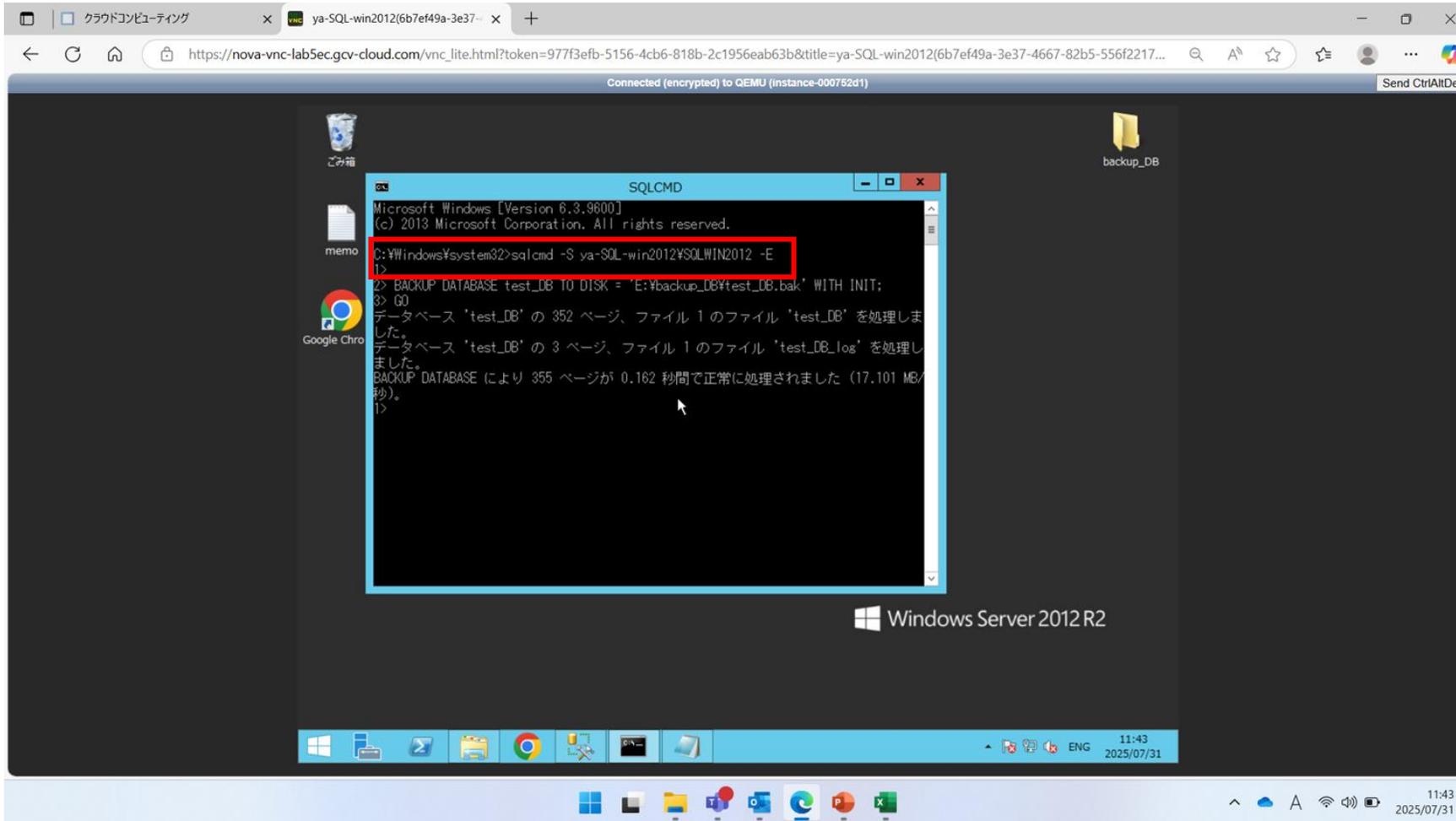
- ・ DBのエクスポートデータ保存先
- ・ ログイン情報のエクスポートデータ保存先
- ・ ジョブのエクスポートデータ保存先



4. バックアップ作業

下記のコマンドを実行して、DBに接続します。

```
sqlcmd -S <サーバー名¥DB名> -E
```

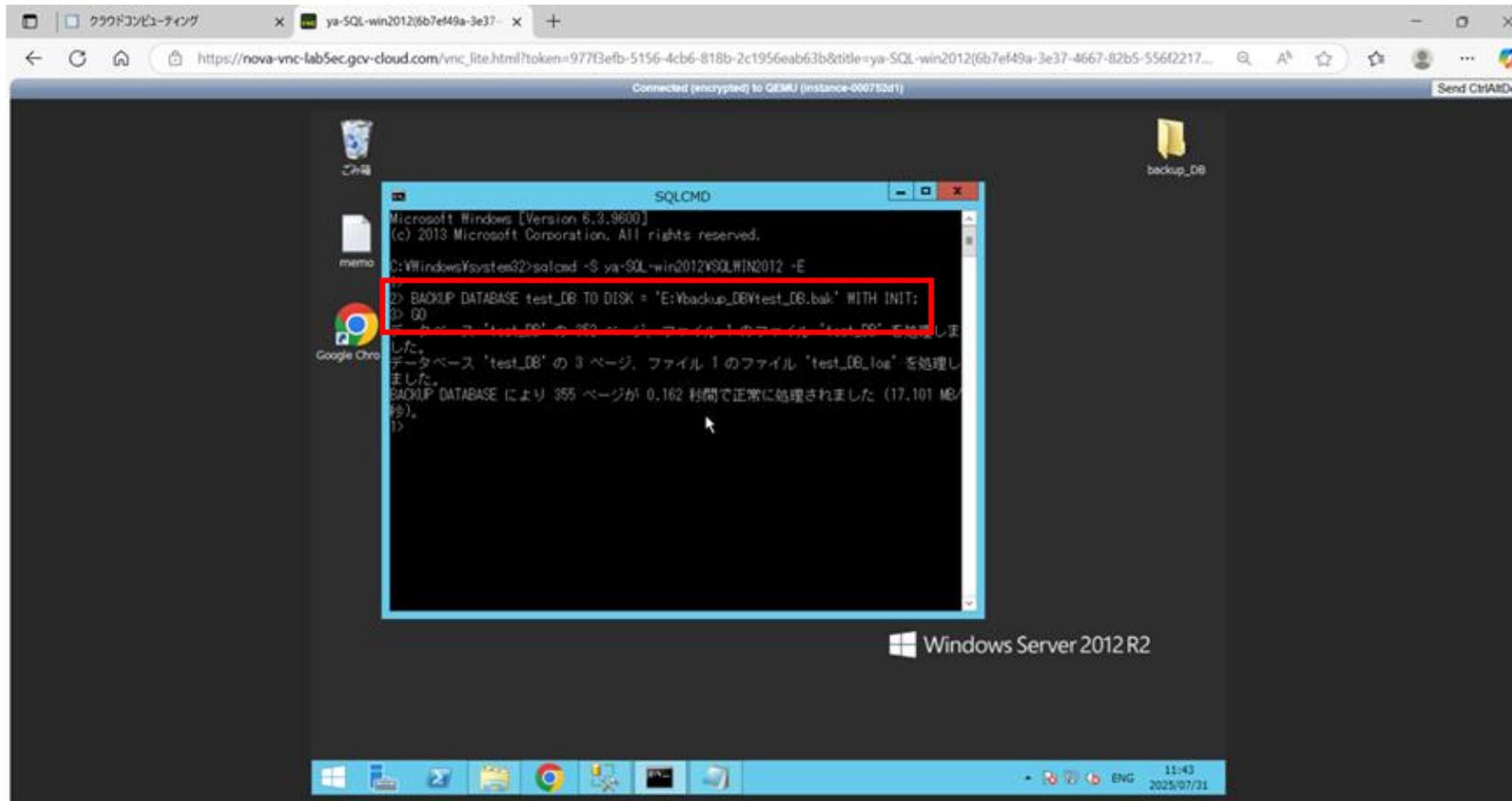


4. バックアップ作業

下記のコマンドを実行して、先ほど作成したフォルダへDBをエクスポートします。

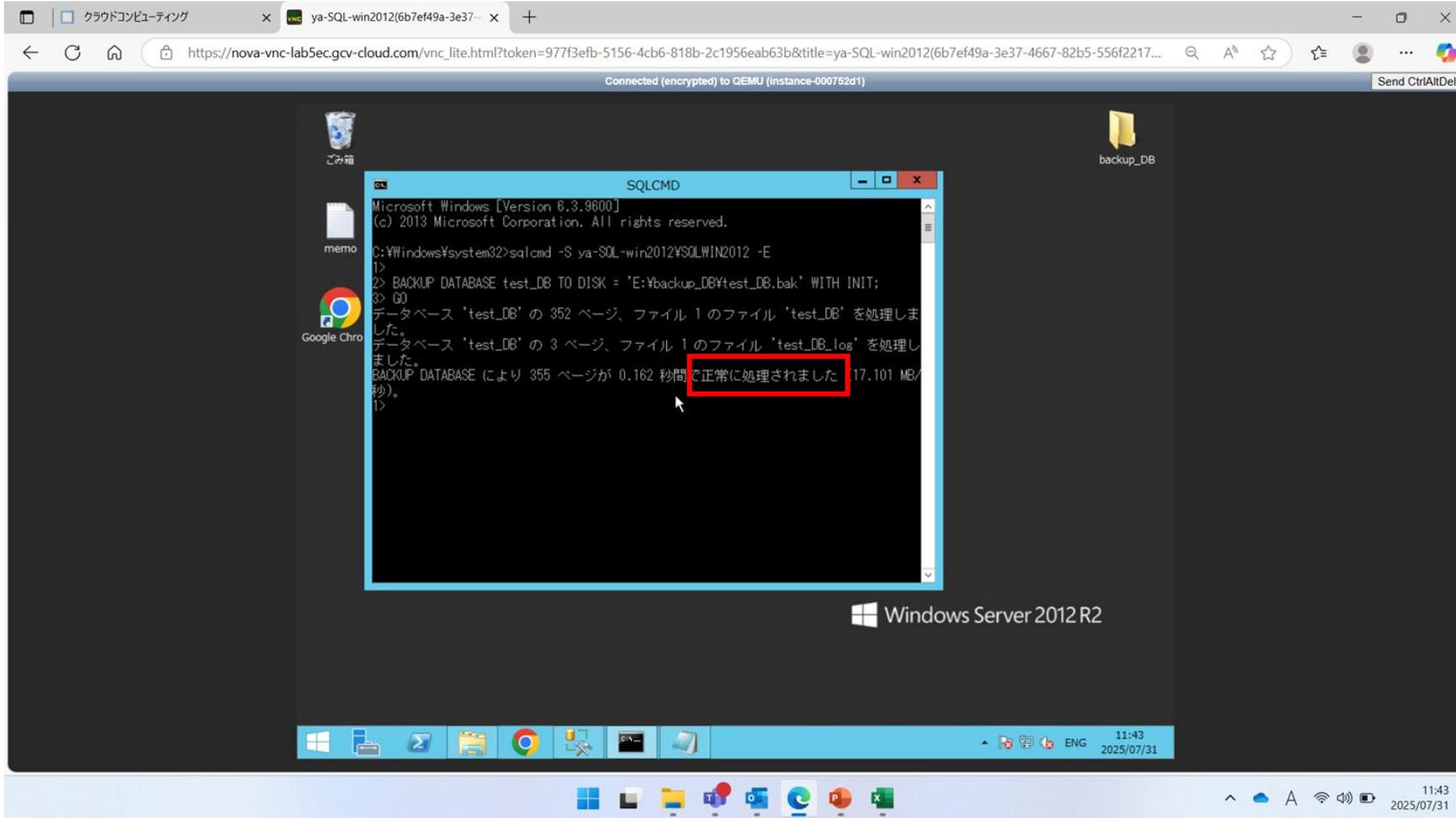
※複数のインスタンス（複数のデータベース）がある場合、データベース毎にコマンド実行してください。

```
BACKUP DATABASE [DB名] TO DISK = '<DBのエクスポートデータ保存先>%DB名.bak' WITH INIT;  
GO
```



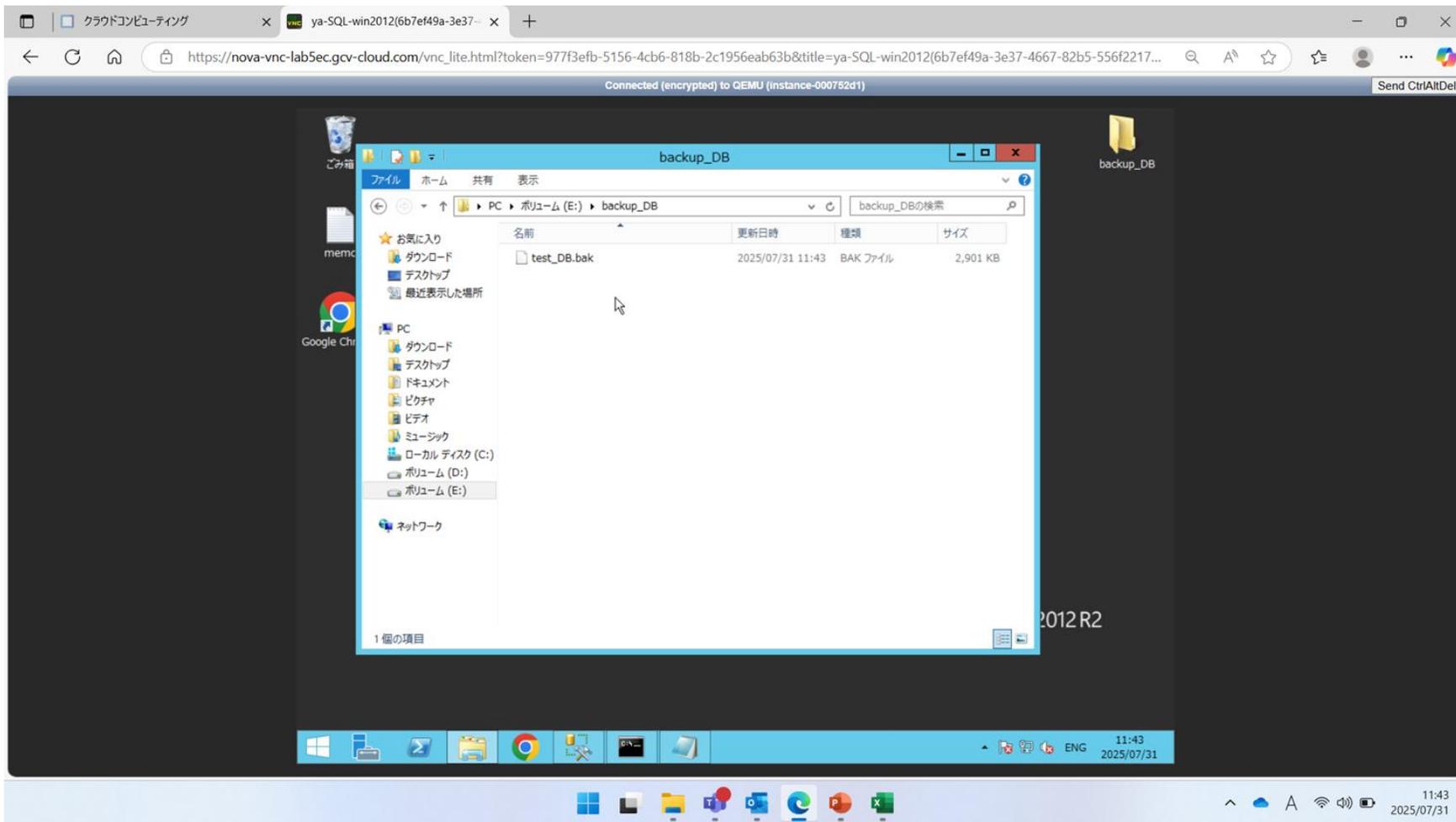
4. バックアップ作業

「正常に処理されました」のメッセージが表示されることを確認します。



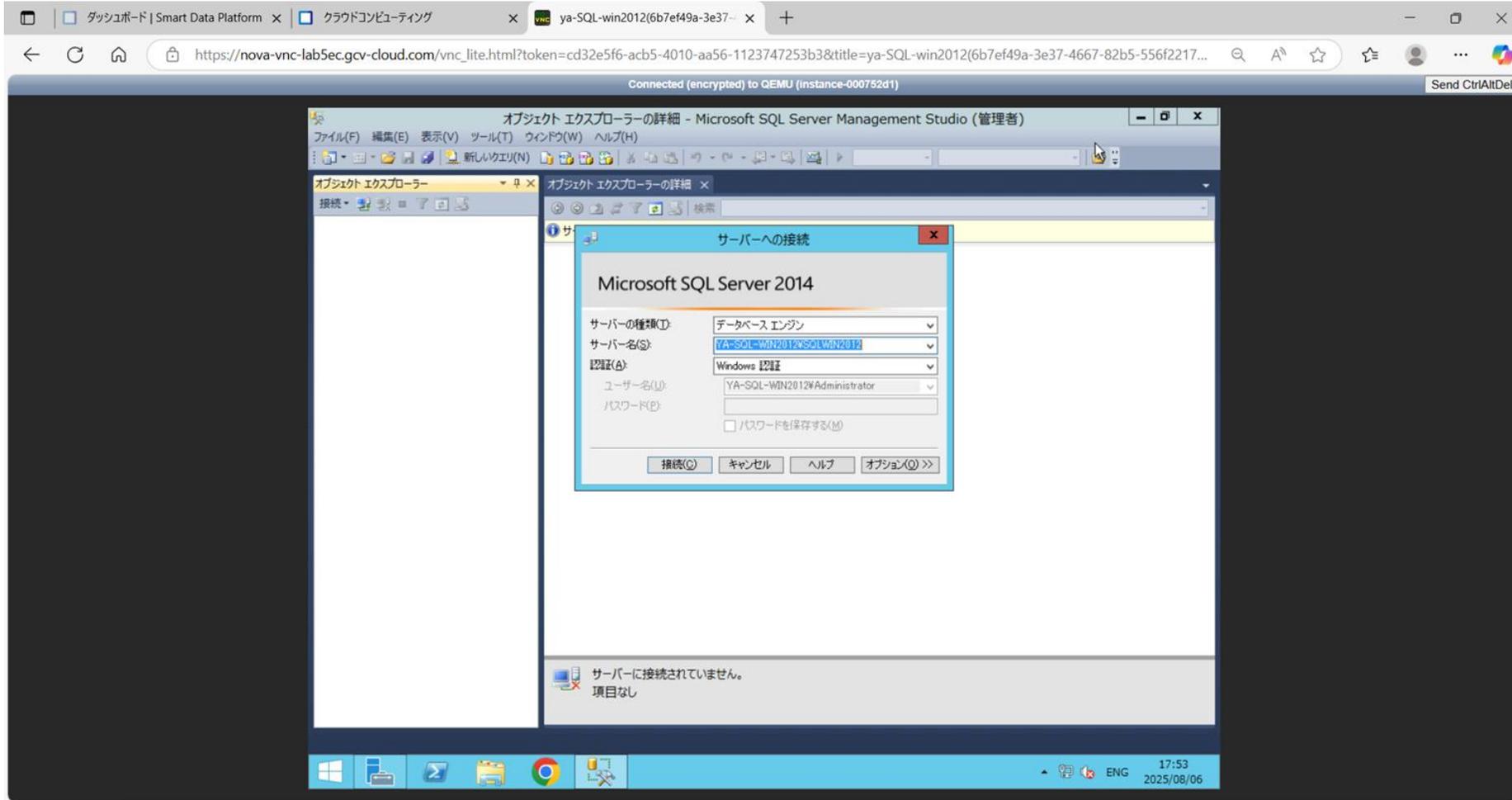
4. バックアップ作業

エクスプローラーからDBのエクスポートデータ保存先フォルダを開き、.bakファイルが保存されていることを確認します。



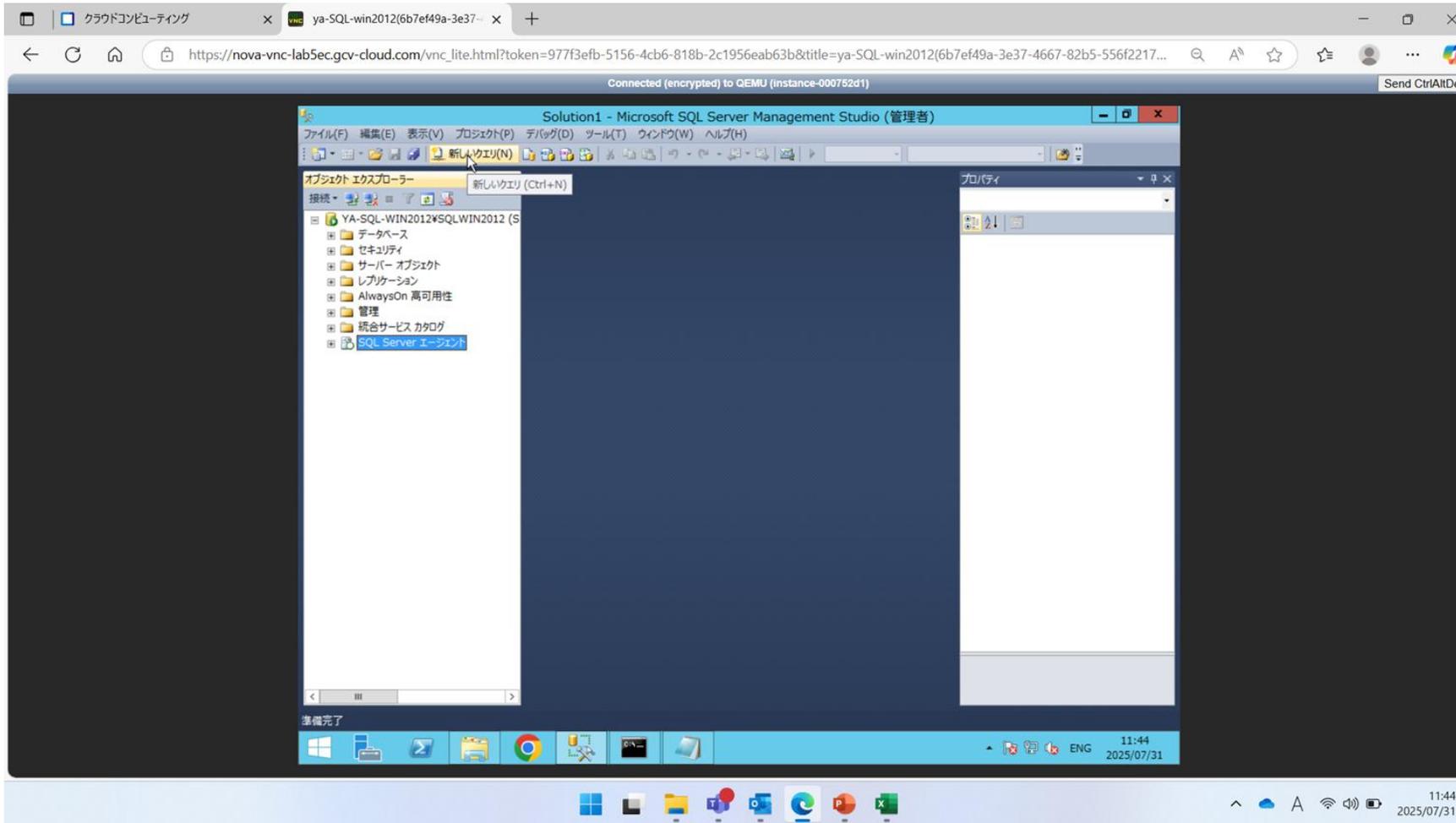
4. バックアップ作業

SQL Server Management Studioを起動し、必要な情報を入力し「接続」を選択する。



4. バックアップ作業

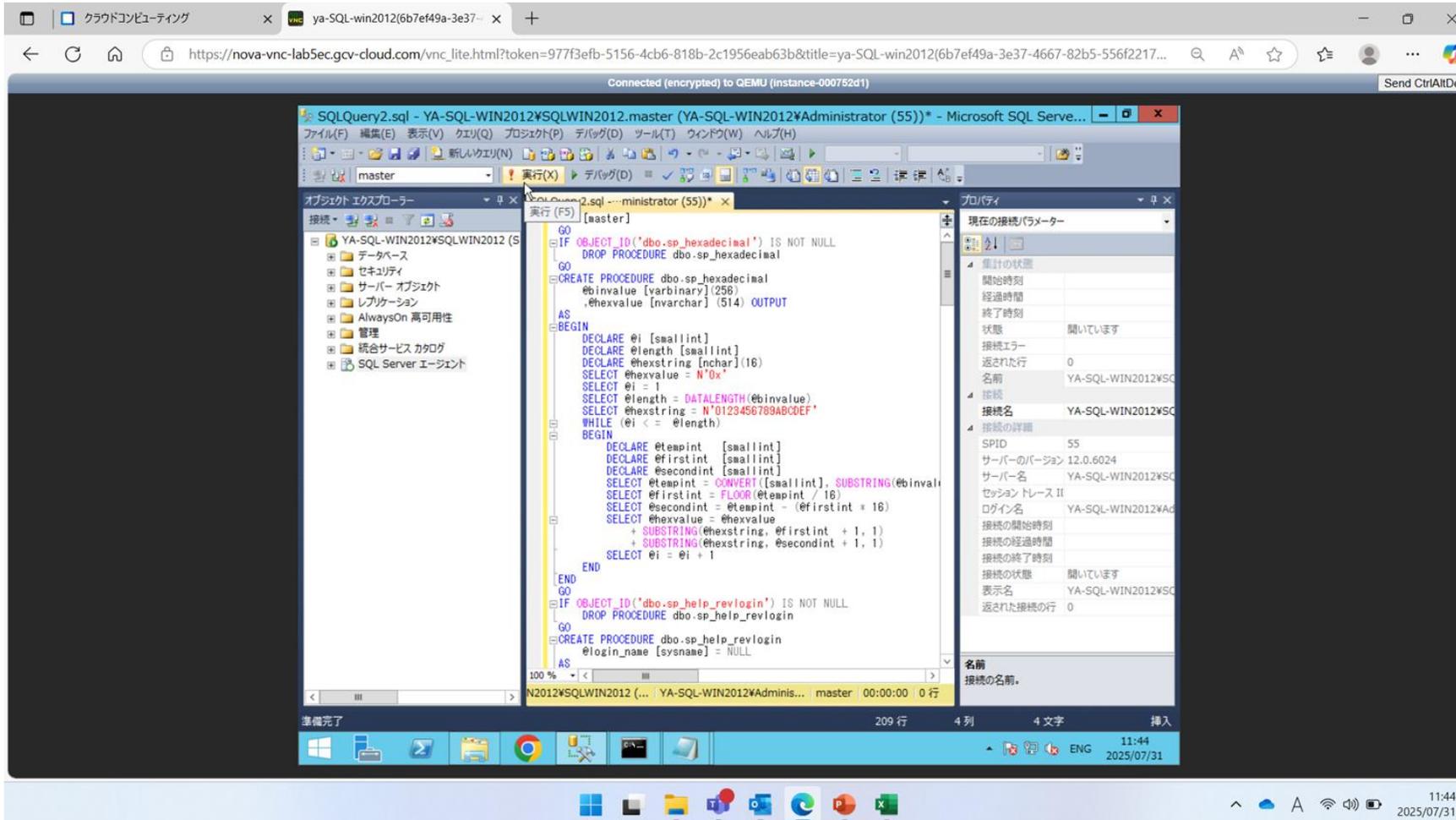
「新しいクエリ」を選択する。



4. バックアップ作業

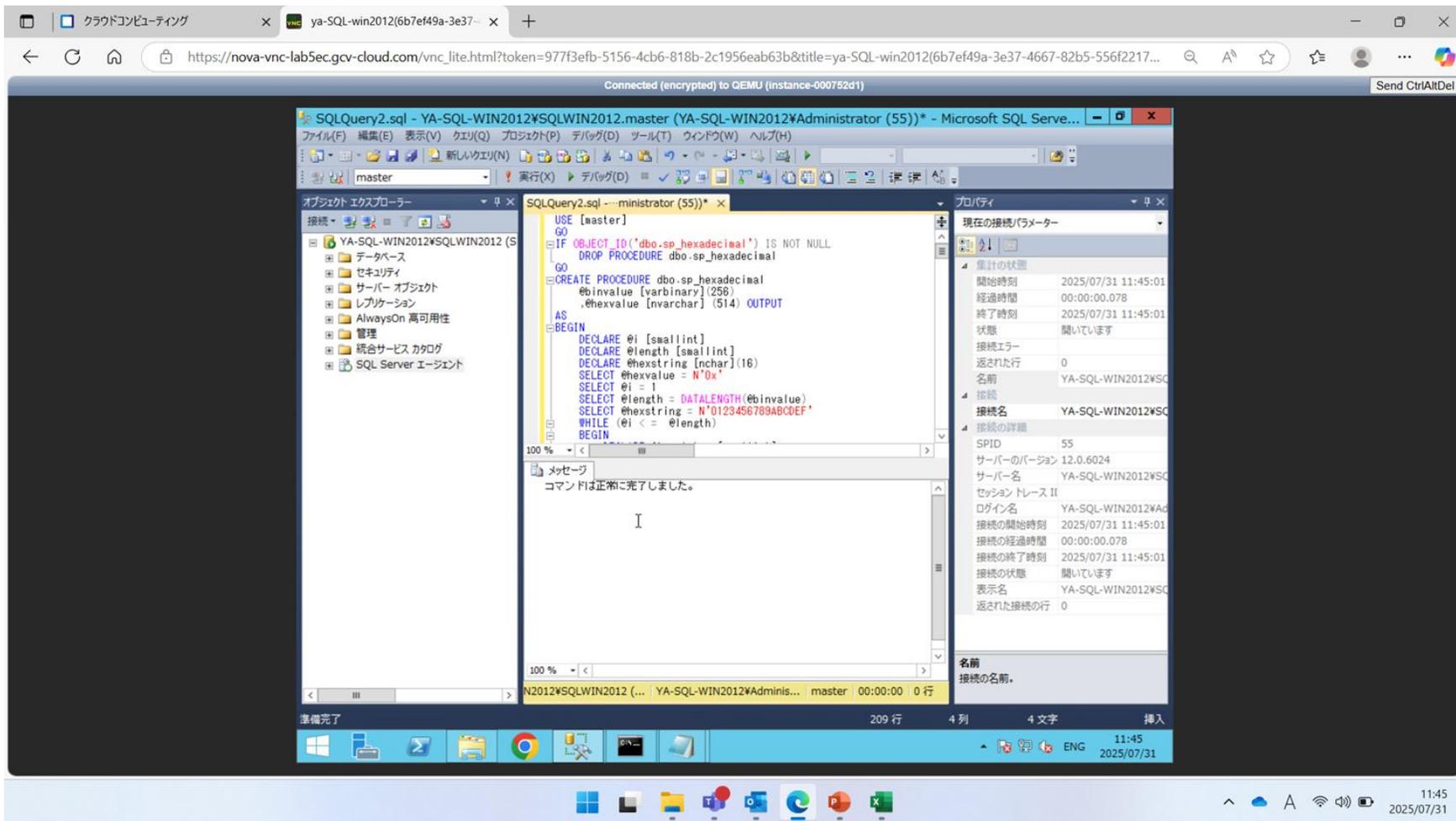
下記のサイトからスクリプトをコピーし貼り付け、「実行」を選択する。

<https://learn.microsoft.com/ja-jp/troubleshoot/sql/database-engine/security/transfer-logins-passwords-between-instances#method-2-transfer-logins-and-passwords-to-the-destination-server-server-b-using-scripts-generated-on-the-source-server-server-a>



4. バックアップ作業

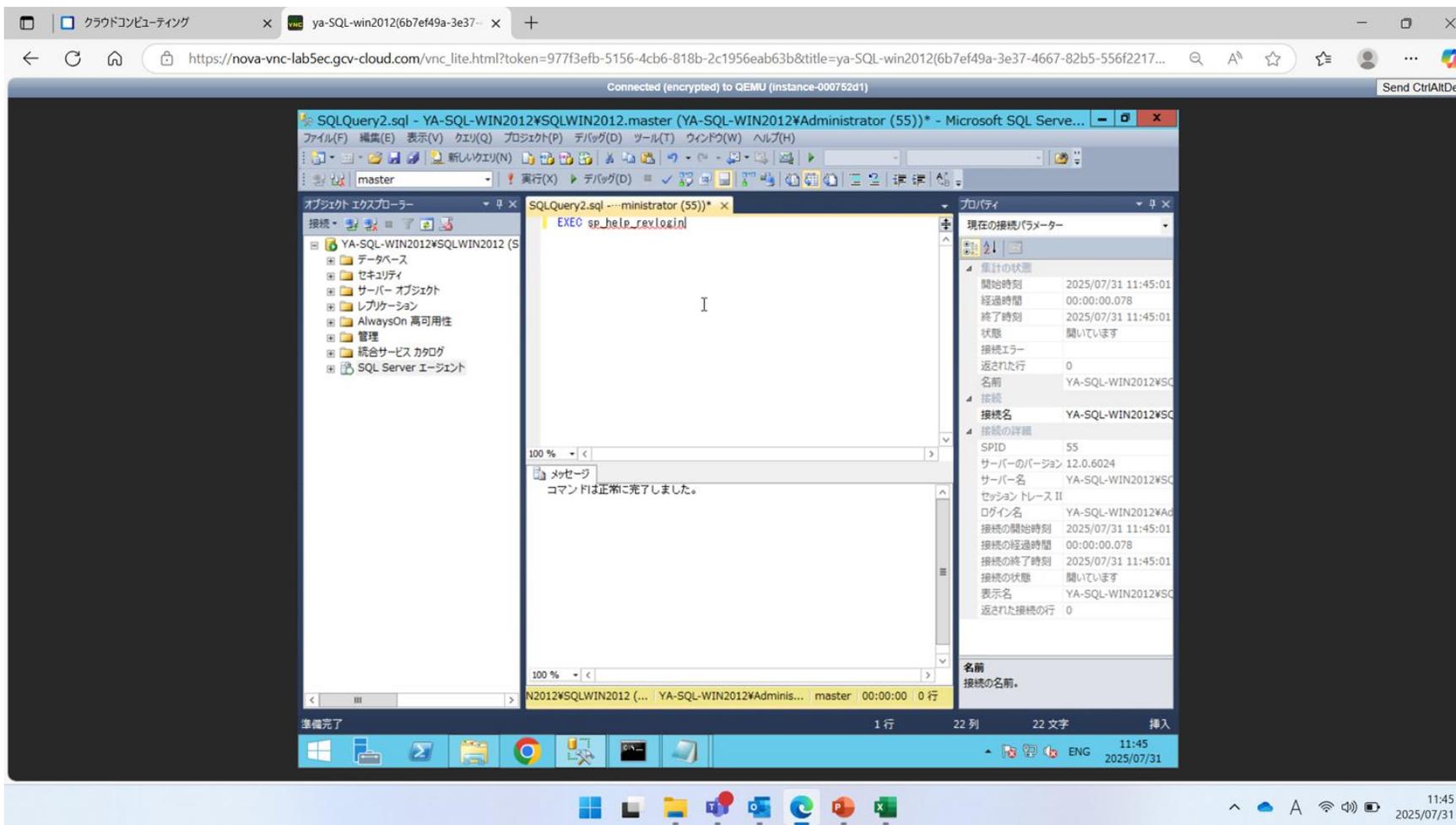
「コマンドは正常に完了しました。」のメッセージが出力されていることを確認する。



4. バックアップ作業

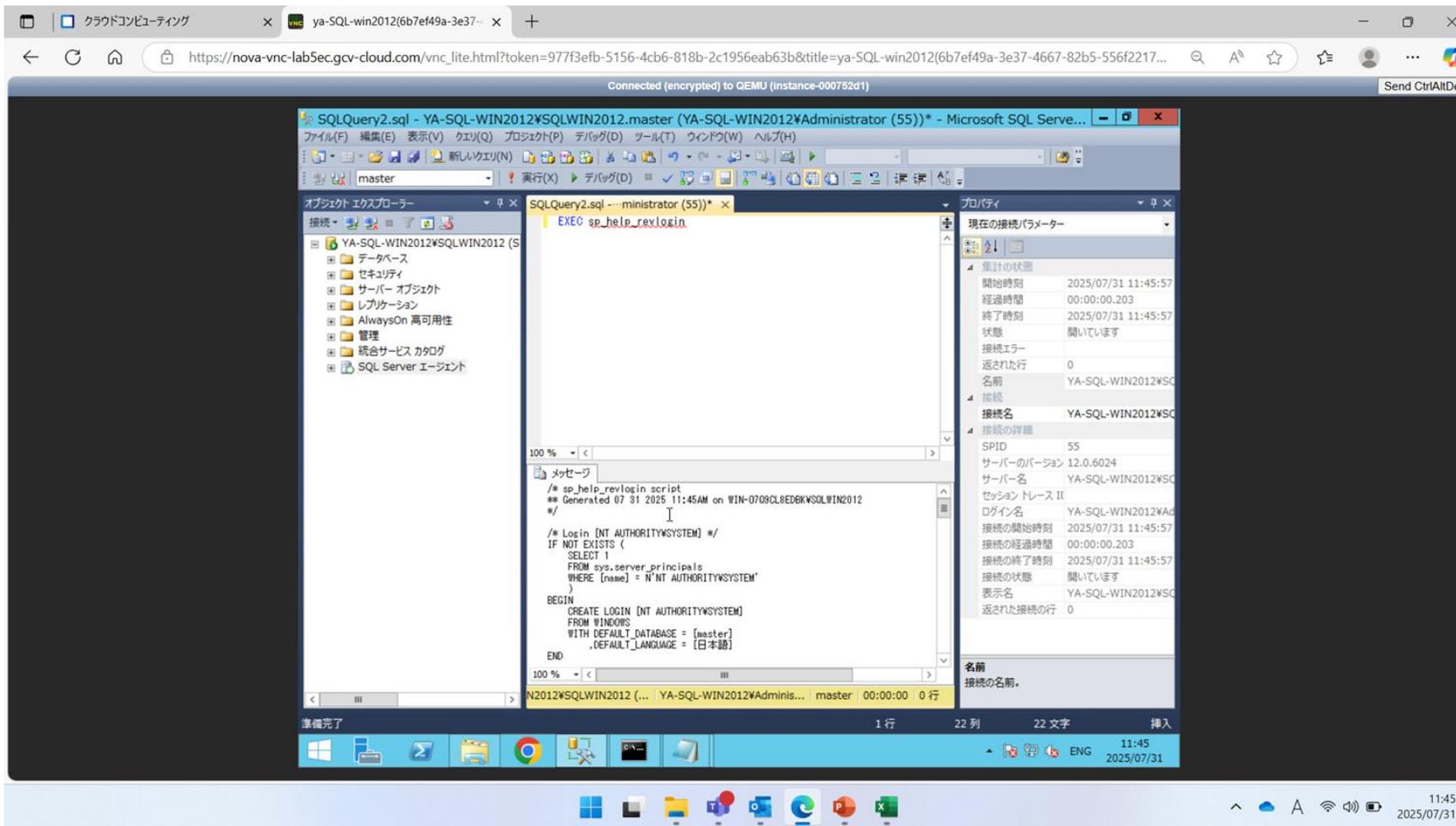
入力していた内容を削除し、下記のコマンドを入力する。

`EXEC sp_help_revlogin`



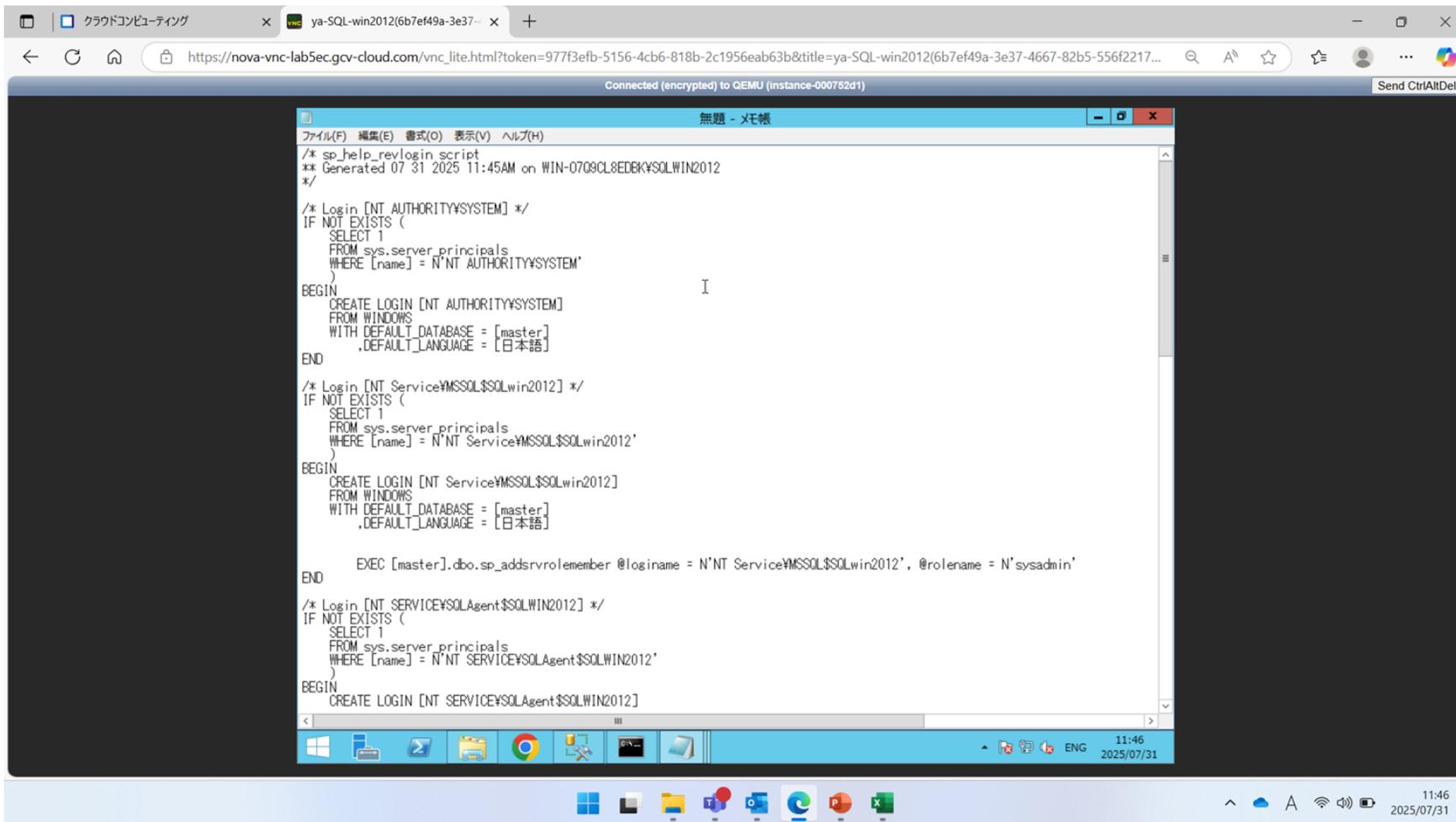
4. バックアップ作業

ログイン情報移行用スクリプトが出力されることを確認する。



4. バックアップ作業

メモ帳を開き、出力された内容を全て張り付ける。



The screenshot shows a remote desktop connection to a Windows machine. A Notepad window titled '無題 - XE帳' is open, displaying the following T-SQL code:

```
/* sp_help_revlogin script
** Generated 07 31 2025 11:45AM on WIN-0709CL8EDBK¥SQLWIN2012
*/

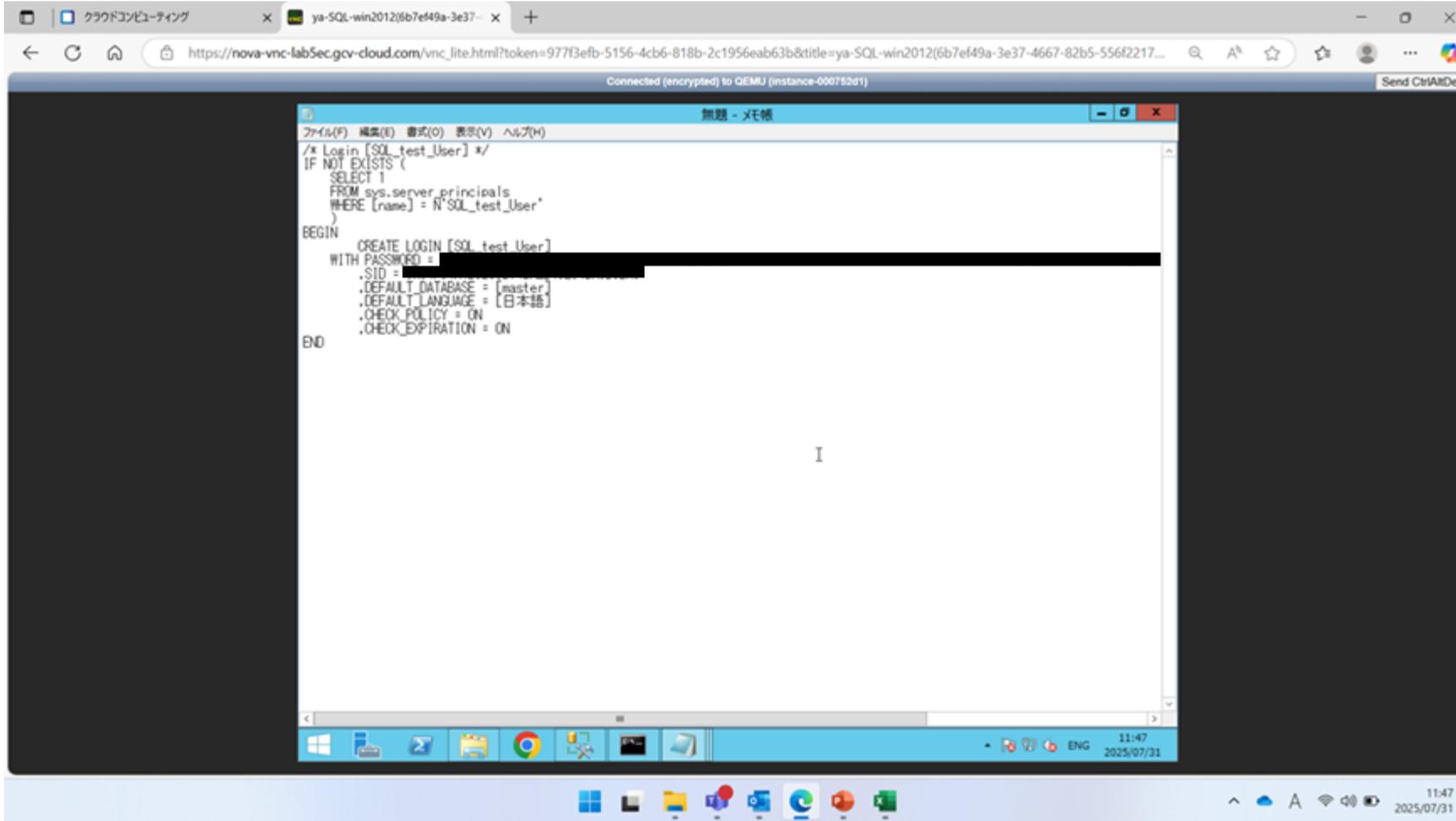
/* Login [NT AUTHORITY¥SYSTEM] */
IF NOT EXISTS (
    SELECT 1
    FROM sys.server_principals
    WHERE [name] = N'NT AUTHORITY¥SYSTEM'
)
BEGIN
    CREATE LOGIN [NT AUTHORITY¥SYSTEM]
    FROM WINDOWS
    WITH DEFAULT_DATABASE = [master]
    ,DEFAULT_LANGUAGE = [日本語]
END

/* Login [NT Service¥MSSQL¥SQLwin2012] */
IF NOT EXISTS (
    SELECT 1
    FROM sys.server_principals
    WHERE [name] = N'NT Service¥MSSQL¥SQLwin2012'
)
BEGIN
    CREATE LOGIN [NT Service¥MSSQL¥SQLwin2012]
    FROM WINDOWS
    WITH DEFAULT_DATABASE = [master]
    ,DEFAULT_LANGUAGE = [日本語]
    EXEC [master].dbo.sp_addsrvrolemember @loginame = N'NT Service¥MSSQL¥SQLwin2012', @rolename = N'sysadmin'
END

/* Login [NT SERVICE¥SQLAgent¥SQLWIN2012] */
IF NOT EXISTS (
    SELECT 1
    FROM sys.server_principals
    WHERE [name] = N'NT SERVICE¥SQLAgent¥SQLWIN2012'
)
BEGIN
    CREATE LOGIN [NT SERVICE¥SQLAgent¥SQLWIN2012]
```

4. バックアップ作業

移行するログイン情報のみを残し、他のログイン情報は削除する。



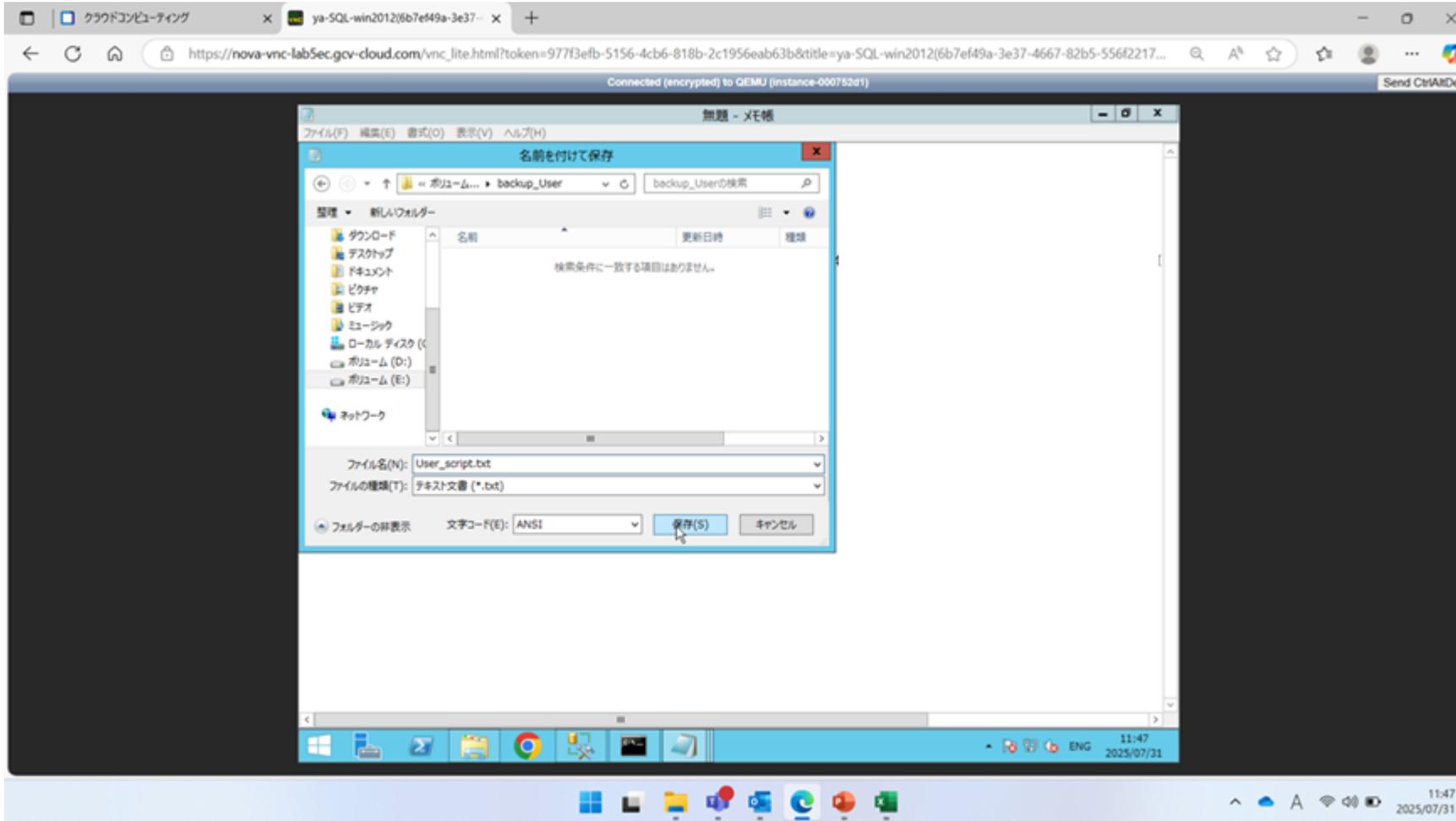
The screenshot shows a web browser window displaying a remote desktop session. The desktop environment is Windows 10. A Notepad window titled '無題 - x64 帳' is open, containing the following SQL script:

```
/* Login [SQL_test_User] */
IF NOT EXISTS (
  SELECT 1
  FROM sys.server_principals
  WHERE [name] = N'SQL_test_User'
)
BEGIN
  CREATE LOGIN [SQL_test_User]
  WITH PASSWORD = [REDACTED]
  , SID = [REDACTED]
  , DEFAULT_DATABASE = [master]
  , DEFAULT_LANGUAGE = [日本語]
  , CHECK_POLICY = ON
  , CHECK_EXPIRATION = ON
END
```

The script is designed to create a new login user named 'SQL_test_User' if it does not already exist. The password and SID fields are redacted with black boxes. The script sets the default database to 'master', the default language to '日本語', and enables both 'CHECK_POLICY' and 'CHECK_EXPIRATION'.

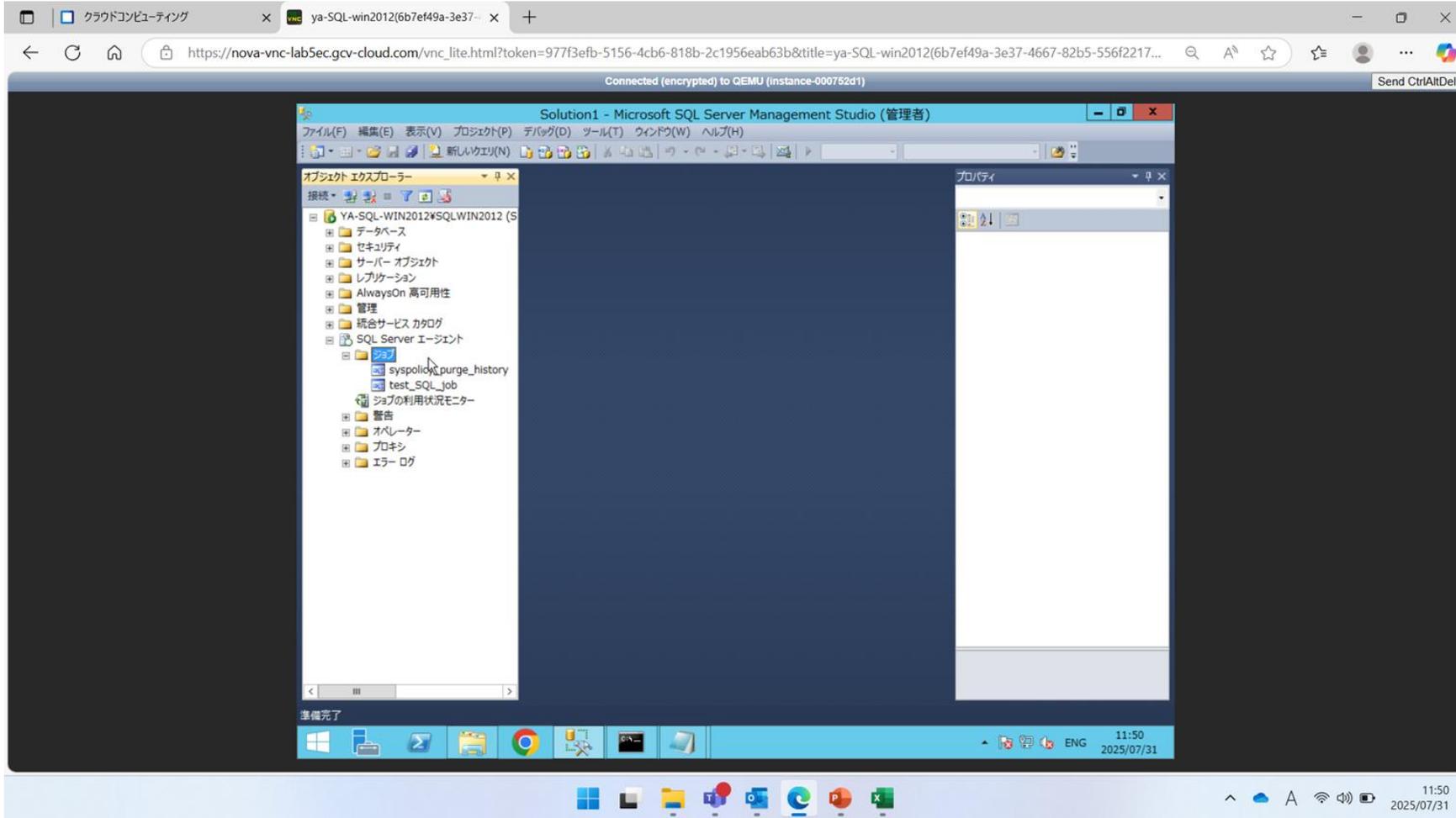
4. バックアップ作業

「ファイル」→「名前を付けて保存」を選択する。
□グイン情報のエクスポートデータ保存先フォルダへ移動し、任意の名称で保存します。



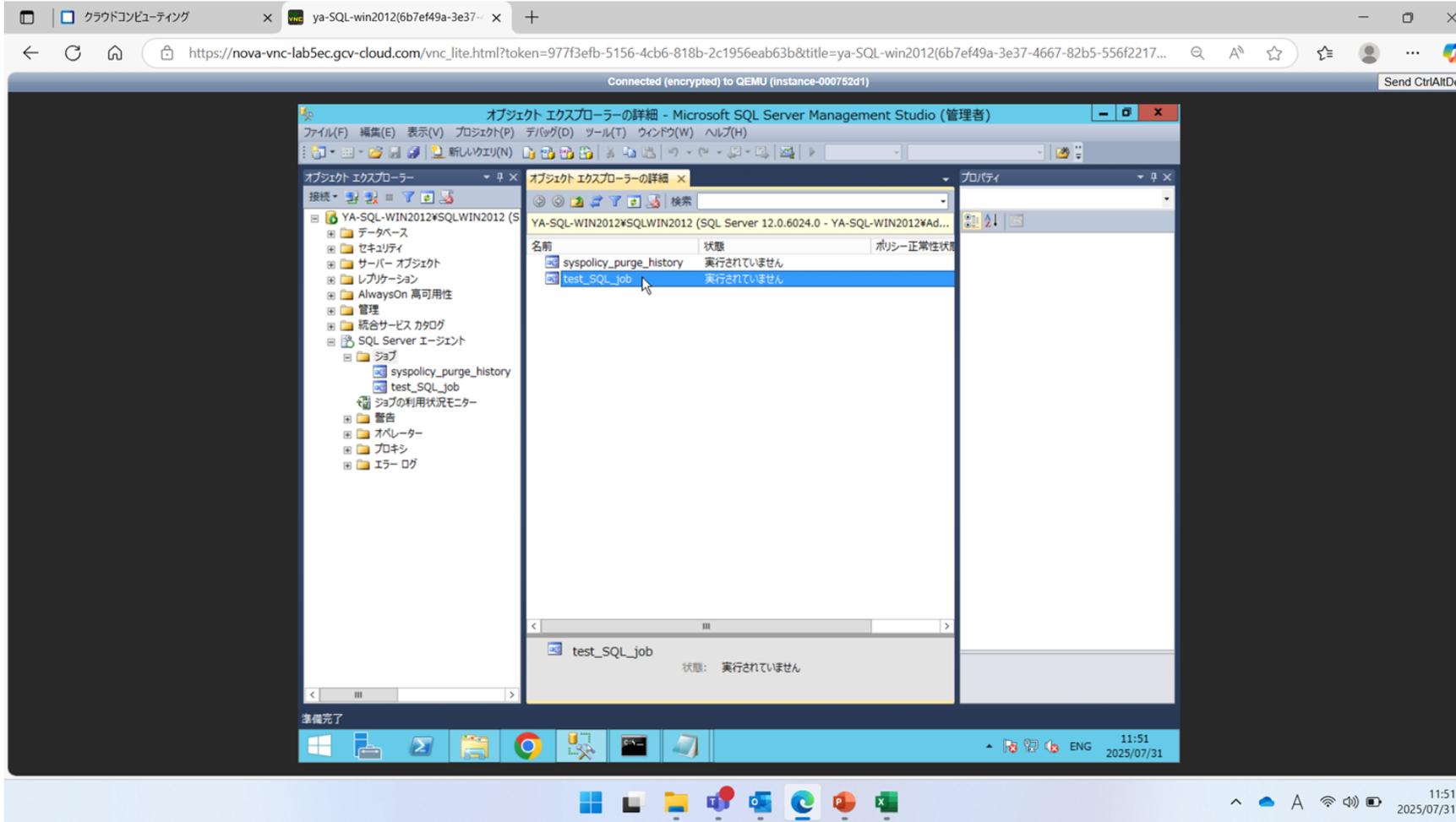
4. バックアップ作業

左側のカラムからジョブを選択した状態で「F7」を押下する。



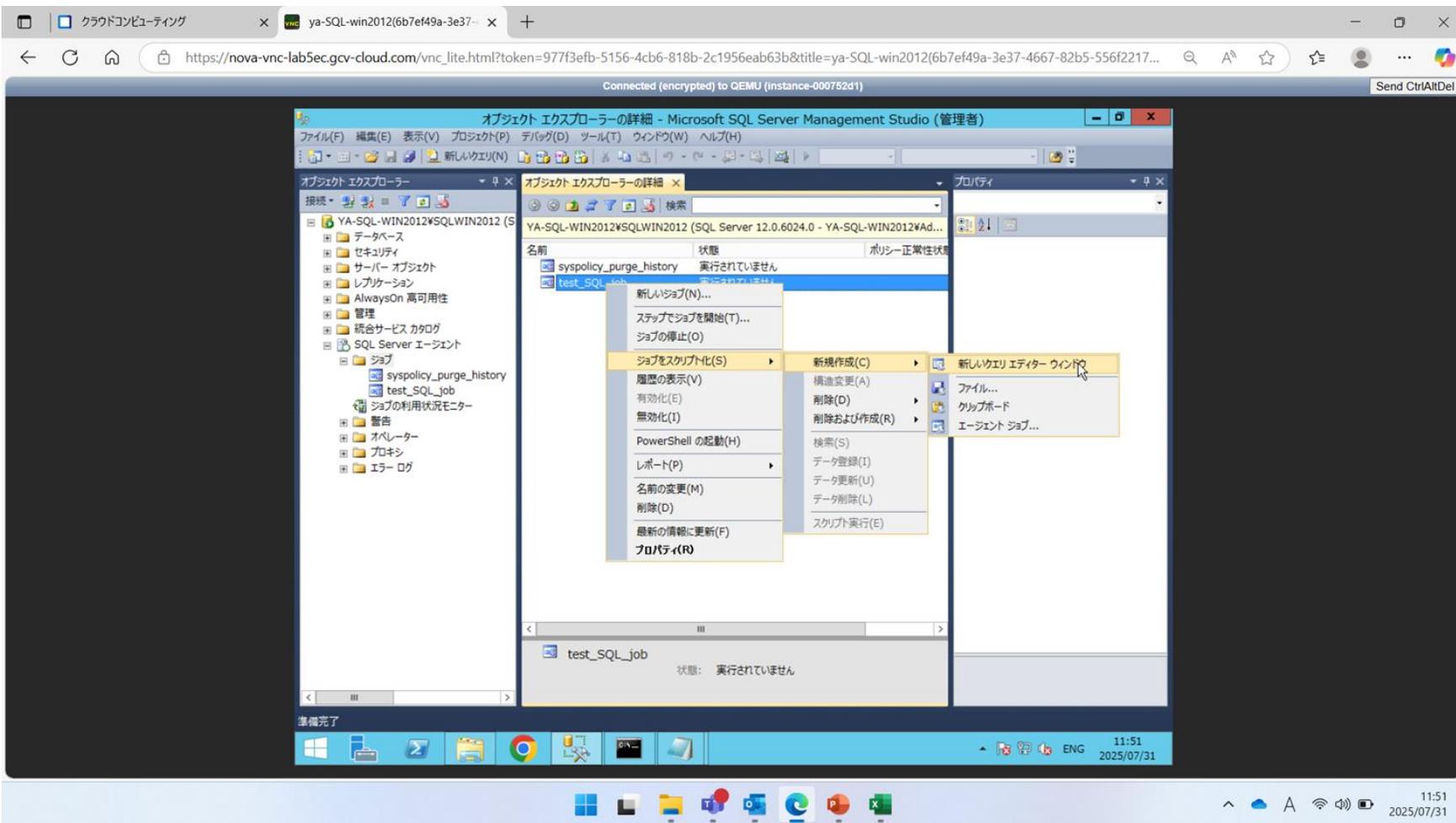
4. バックアップ作業

ジョブの一覧が表示されるため、移行したいジョブを選択する。(複数選択可)



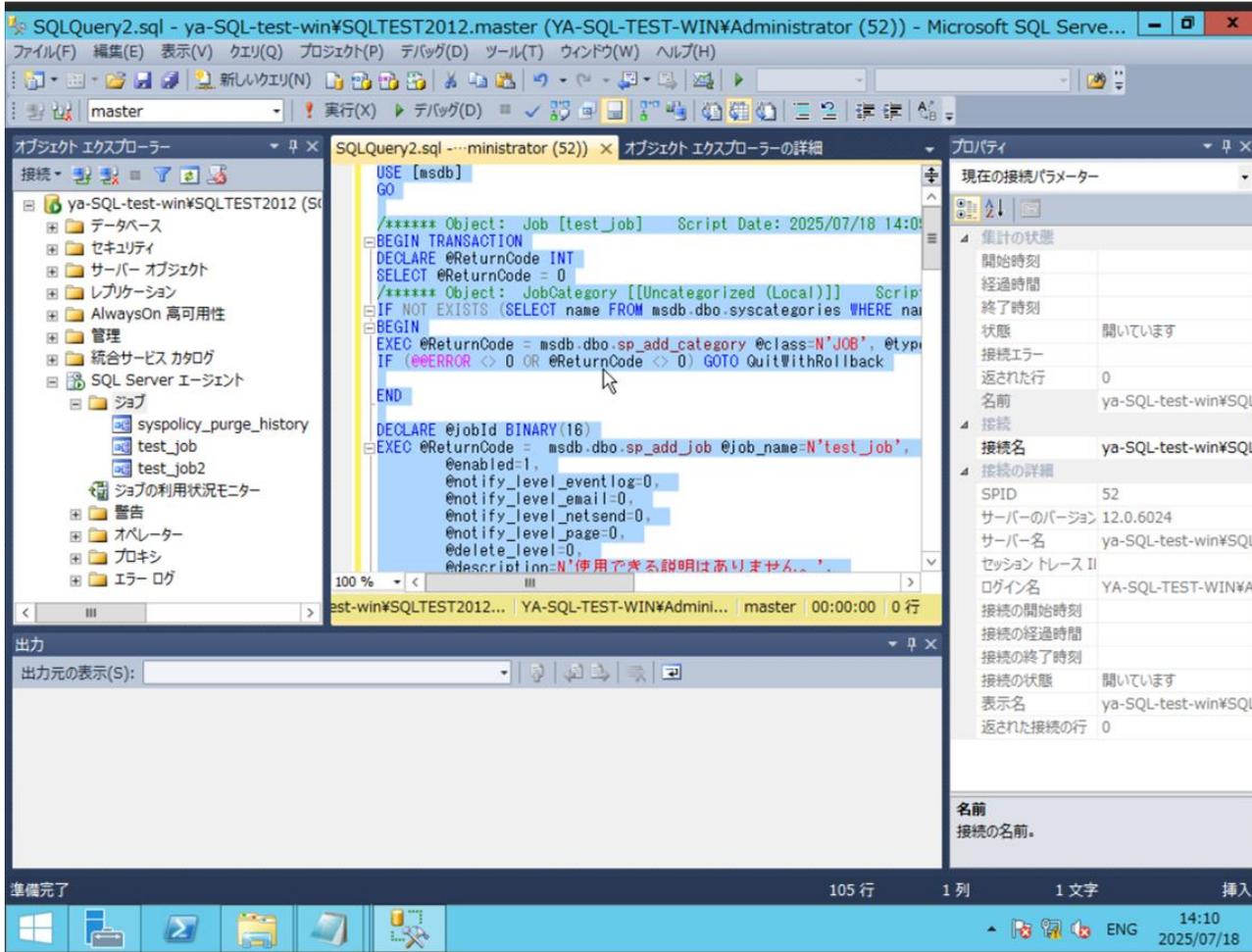
4. バックアップ作業

選択したジョブを右クリックし、「ジョブをスクリプト化」→「新規作成」→「新しいクエリエディター ウィンドウ」を選択する。



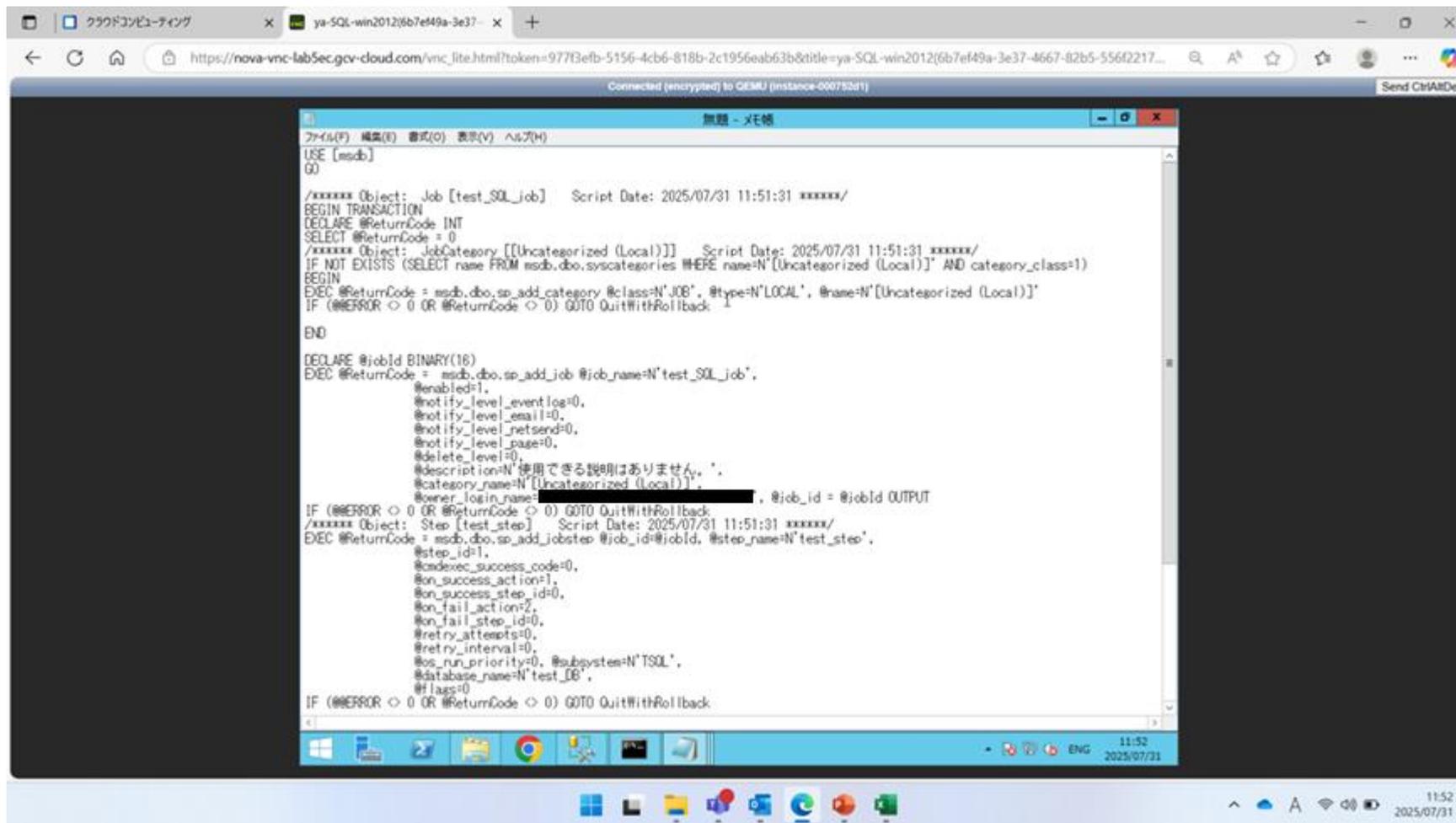
4. バックアップ作業

スクリプトが出力されるため、全て選択しコピーする。



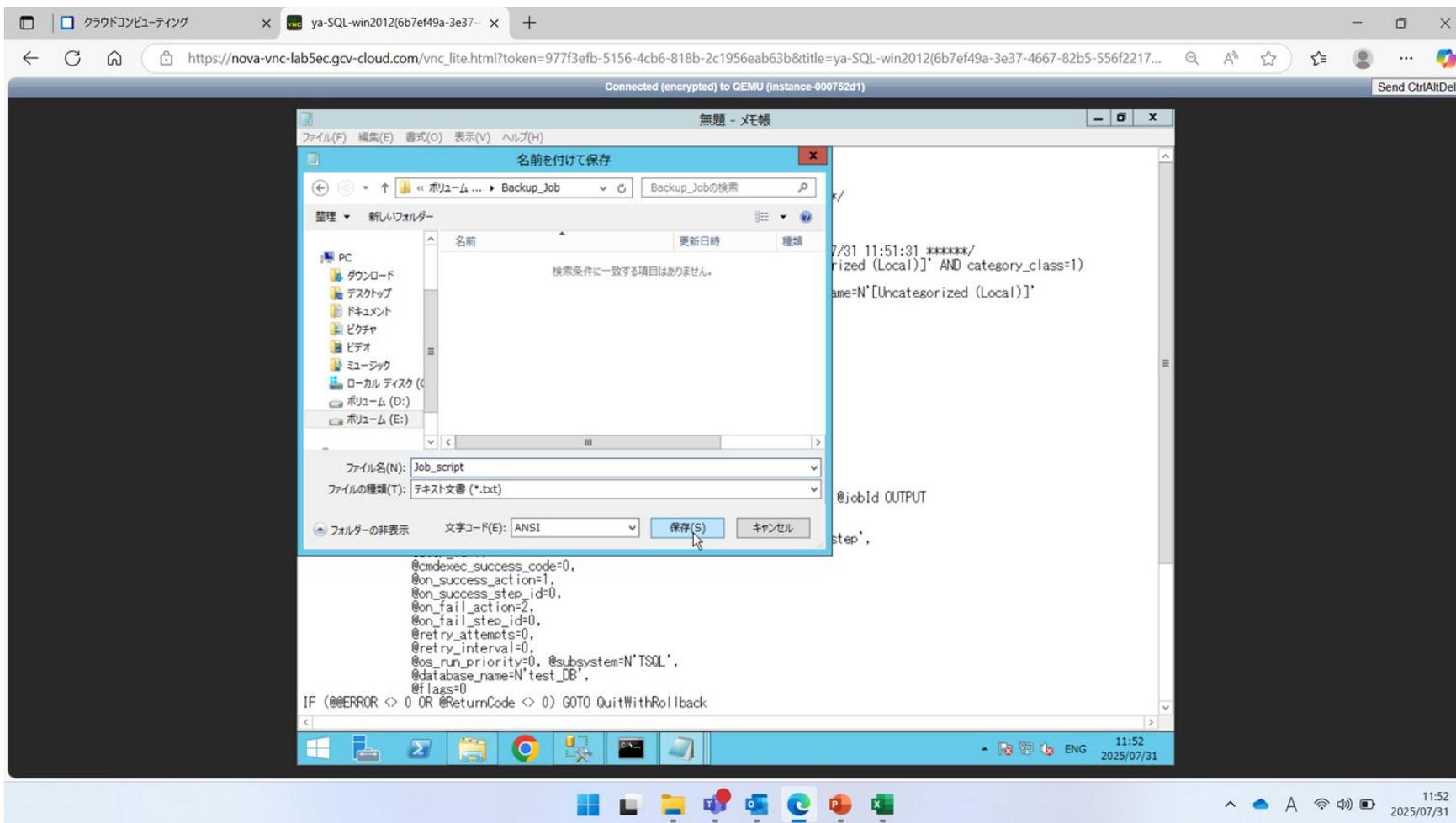
4. バックアップ作業

メモ帳を開き、出力された内容を全て張り付けます。



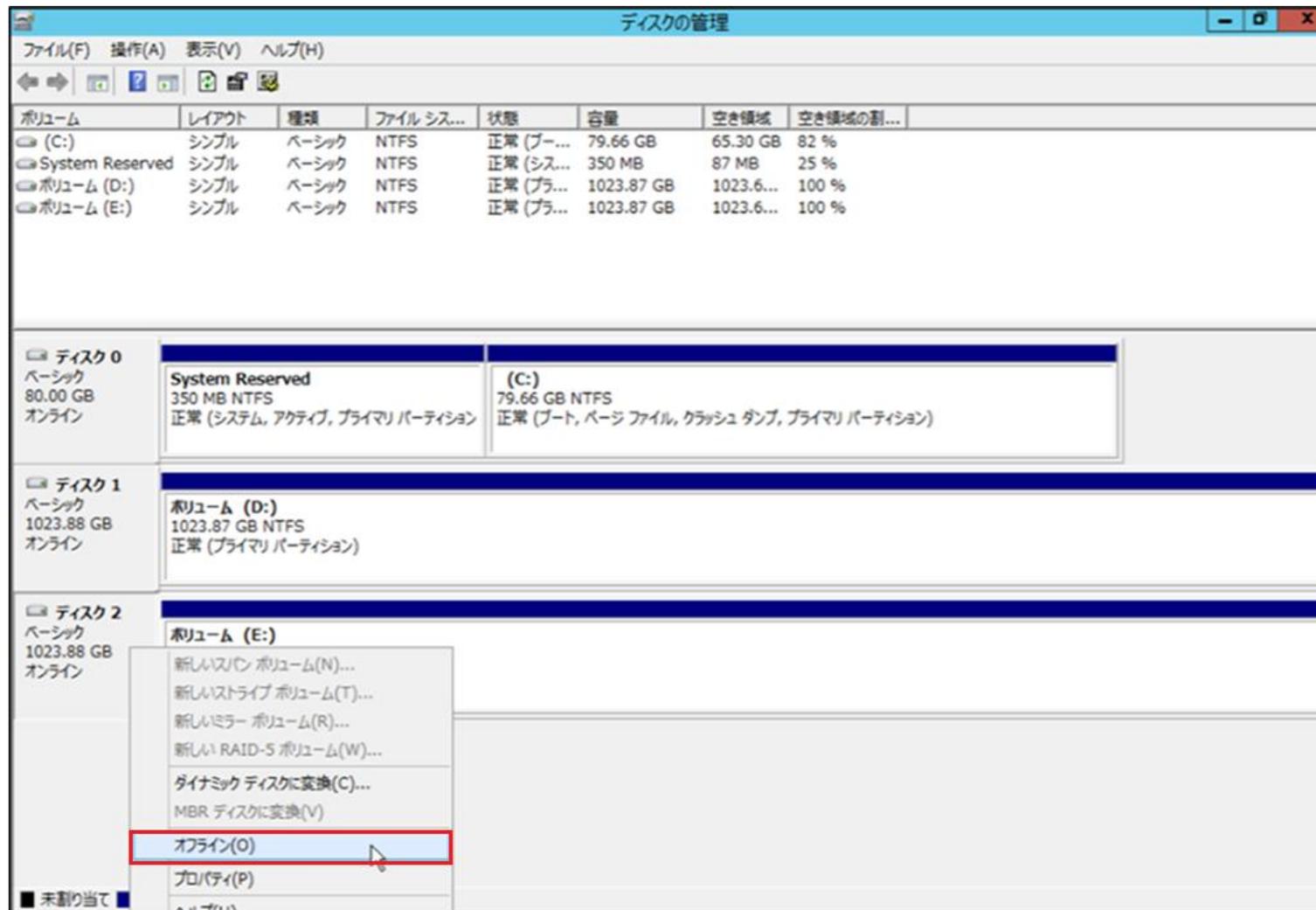
4. バックアップ作業

「ファイル」→「名前を付けて保存」を選択します。
ジョブのエクスポートデータ保存先フォルダへ移動し、任意の名称で保存します。



5. バックアップデータ保存用ボリュームの移行

移行元サーバのコンソール画面を開き、「ディスクの管理」の画面で、バックアップデータ保存用ボリュームのディスクで右クリックで、「オフライン」を押下します。



5. バックアップデータ保存用ボリュームの移行

SDPFポータル画面を開き、「仮想サーバ」→「サーバーインスタンス」→「ボリューム」画面で、バックアップデータ保存用ボリュームを選択し、「接続の管理」を選択します。

※「接続の管理」からボリュームの切断（デタッチ）を行います。下記URL事象が発生する可能性があるため、デタッチ実施の際は、仮想サーバーインスタンスを停止した状態で実施してください。

<https://sdpf.ntt.com/faq/virtual-server-35/>

The screenshot shows the 'ボリューム' (Volumes) management page in the SDPF portal. The left sidebar contains navigation options like '仮想サーバ' (Virtual Server), 'サーバーインスタンス' (Server Instance), and 'ボリューム' (Volume). The main area displays a table of volumes. The table has columns: 名前 (Name), 説明 (Description), ゾーングループ (Zone Group), サイズ (Size), 種別 (Type), 接続先 (Connection), 起動可能 (Startable), ステータス (Status), and アクション (Action). One volume is highlighted in yellow, and its '接続の管理' (Connection Management) action is selected, opening a dropdown menu with options like 'ボリュームの切断' (Detach Volume).

名前	説明	ゾーングループ	サイズ	種別	接続先	起動可能	ステータス	アクション
	-	zone1-group	100GB	-		はい	利用可能	ボリュームの編集
	-	zone1-group	80GB	Type-A		はい	reserved	ボリュームの編集
	-	zone1-group	80GB	Type-B		はい	利用可能	ボリュームの編集
	-	zone1-group	1024GB	Type-B		はい	利用可能	ボリュームの編集
	-	zone1-group	1024GB	Type-B	の /dev/sdi に接続中	いいえ	使用中	ボリュームの編集
	-	zone1-group	1024GB	Type-B	の /dev/sdi に接続中	いいえ	使用中	接続の管理
	-	zone1-group	1024GB	Type-B	の /dev/sdi に接続中	いいえ	使用中	ボリュームの切断
	-	zone1-group	1024GB	Type-B	の /dev/sdi に接続中	いいえ	使用中	ボリュームの切断

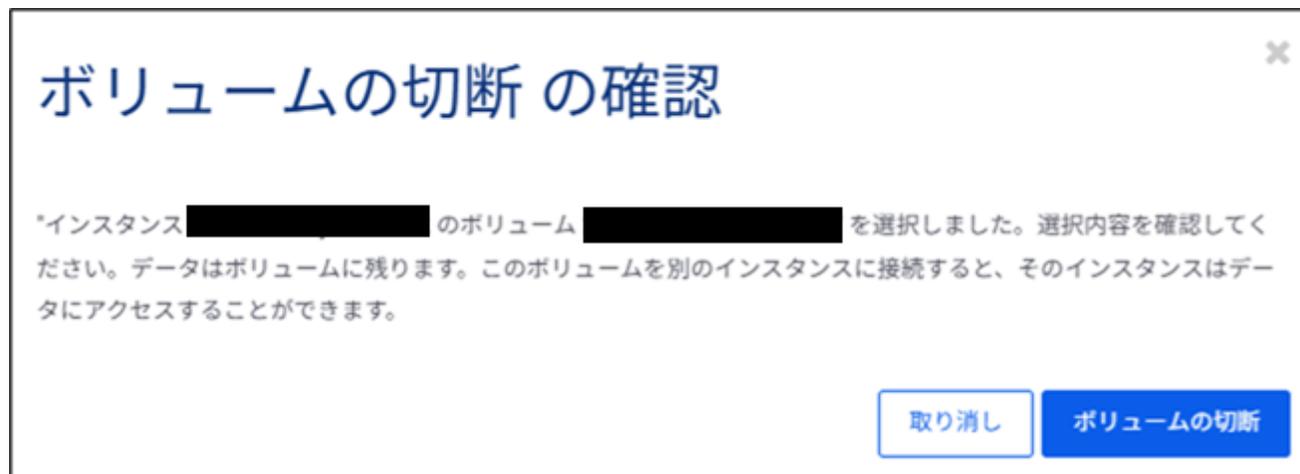
5. バックアップデータ保存用ボリュームの移行

「ボリュームの接続の管理」画面で、「ボリュームの切断」を押下します。



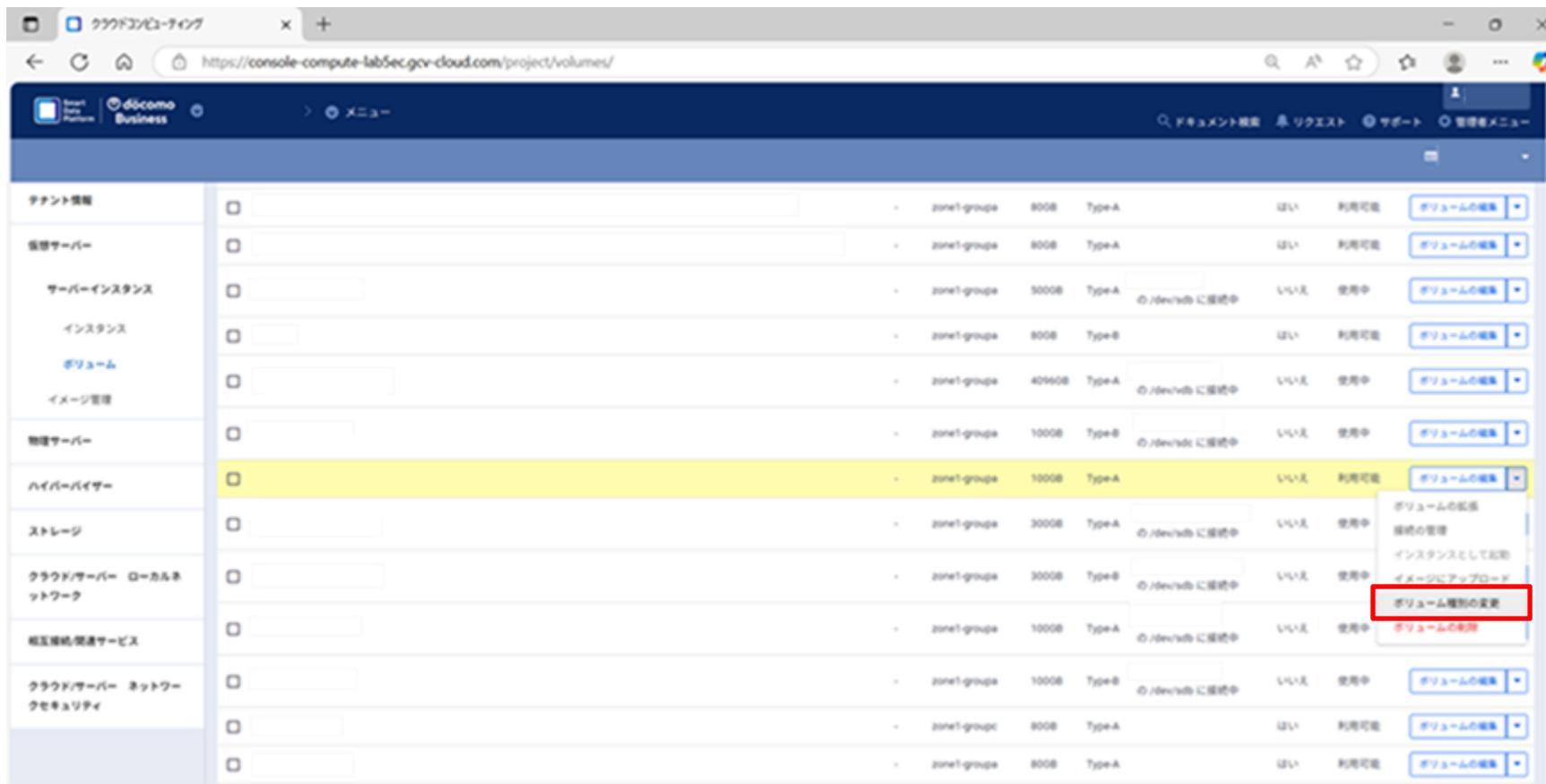
5. バックアップデータ保存用ボリュームの移行

「ボリュームの切断の確認」画面で、「ボリュームの切断」を押下します。



5. バックアップデータ保存用ボリュームの移行

先ほど作成したバックアップデータ保存用ボリュームを選択し、アクションリストから「ボリューム種別の変更」を選択します。



5. バックアップデータ保存用ボリュームの移行

ボリューム種別がType-Bになっていることを確認し、「ボリューム種別の変更」を選択します。

ボリューム種別の変更 ×

ボリューム種別

Type-B ▼

ドライランモードを有効にする

取り消し

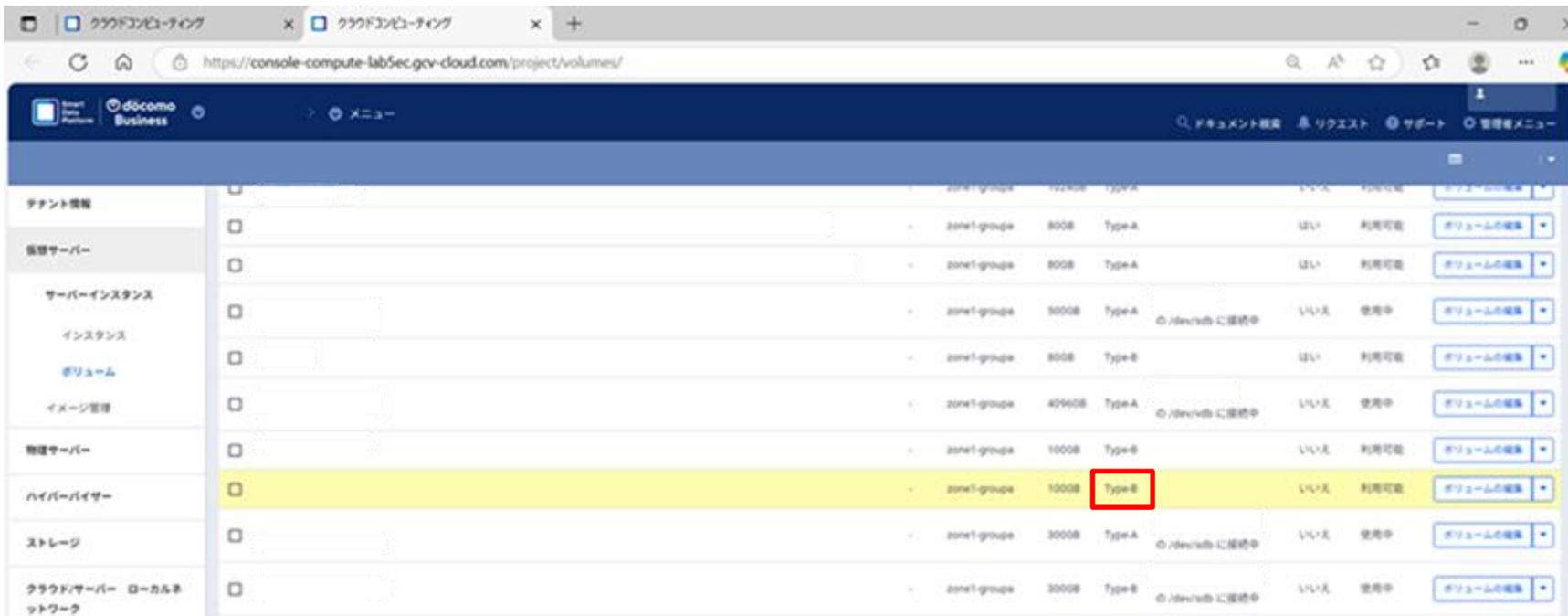
ボリューム種別の変更

5. バックアップデータ保存用ボリュームの移行

つながろう。驚きを。幸せを。

 docomo Business

バックアップデータ保存用ボリュームのタイプが“Type-B”になっていることを確認します。



テナント情報	ゾーン	容量	タイプ	接続状況	状態	操作
zone1-group	1024GB	Type-A	いいえ	利用可能	ボリュームの編集	
zone1-group	800GB	Type-A	はい	利用可能	ボリュームの編集	
zone1-group	800GB	Type-A	はい	利用可能	ボリュームの編集	
zone1-group	300GB	Type-A	の /dev/sdb に接続中	使用中	ボリュームの編集	
zone1-group	800GB	Type-B	はい	利用可能	ボリュームの編集	
zone1-group	4096GB	Type-A	の /dev/sdb に接続中	使用中	ボリュームの編集	
zone1-group	100GB	Type-B	いいえ	利用可能	ボリュームの編集	
zone1-group	100GB	Type-B	いいえ	利用可能	ボリュームの編集	
zone1-group	300GB	Type-A	の /dev/sdb に接続中	使用中	ボリュームの編集	
zone1-group	300GB	Type-B	の /dev/sdb に接続中	使用中	ボリュームの編集	

5. バックアップデータ保存用ボリュームの移行

次に、バックアップデータ保存用ボリュームを移行先サーバーに接続します。
以下リンクの「4.1.2インスタンスへのデータボリュームのアタッチ」を参考に実施します。

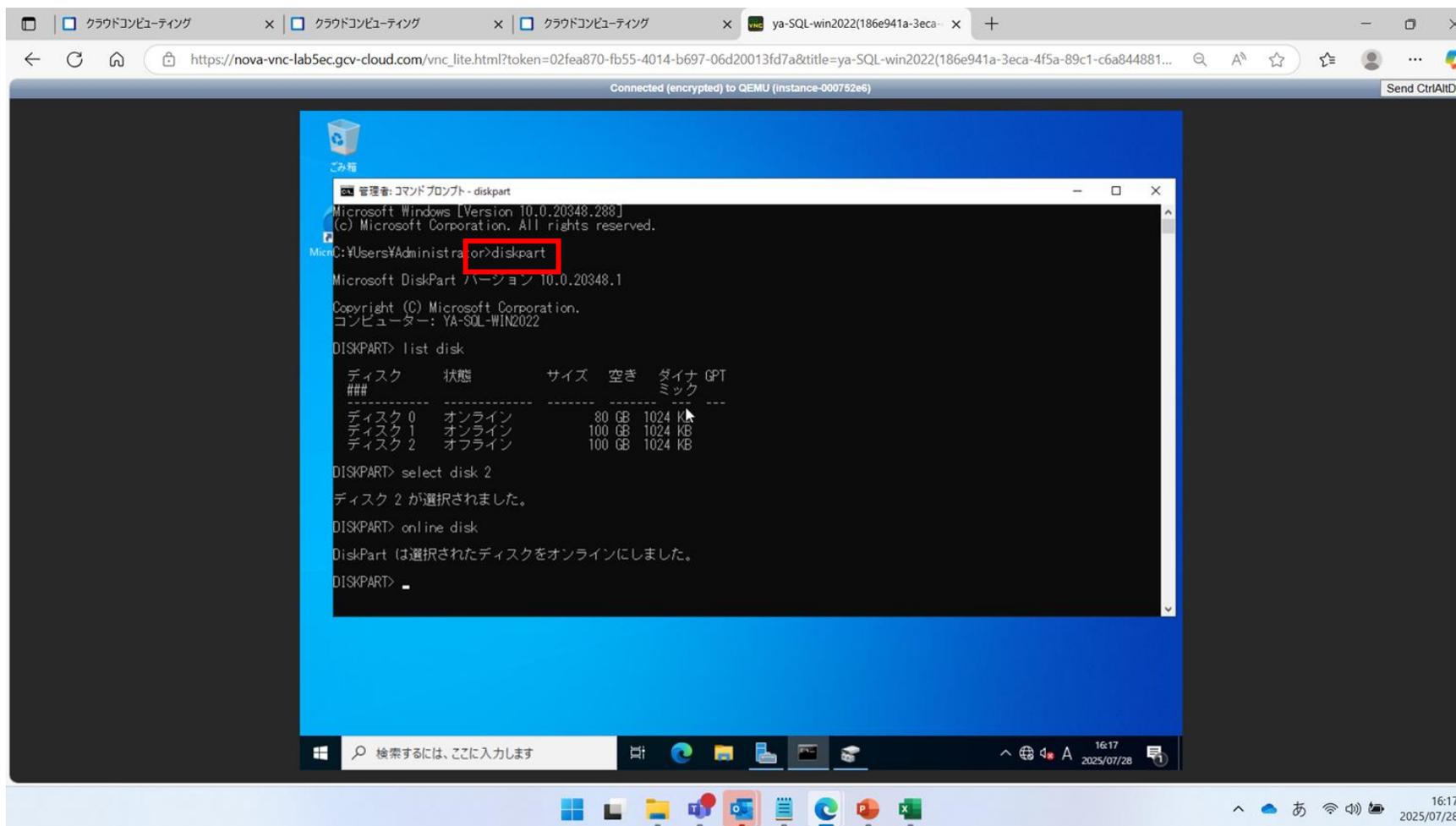
[4.1.データボリュームの新規作成方法 - サーバーインスタンス チュートリアル](#)

※ボリュームのアタッチ/デタッチは仮想サーバーインスタンスを“停止”した状態で行ってください。
<https://sdpf.ntt.com/faq/virtual-server-35/>

5. バックアップデータ保存用ボリュームの移行

コマンドプロンプトを開いて、下記のコマンドを実行します。

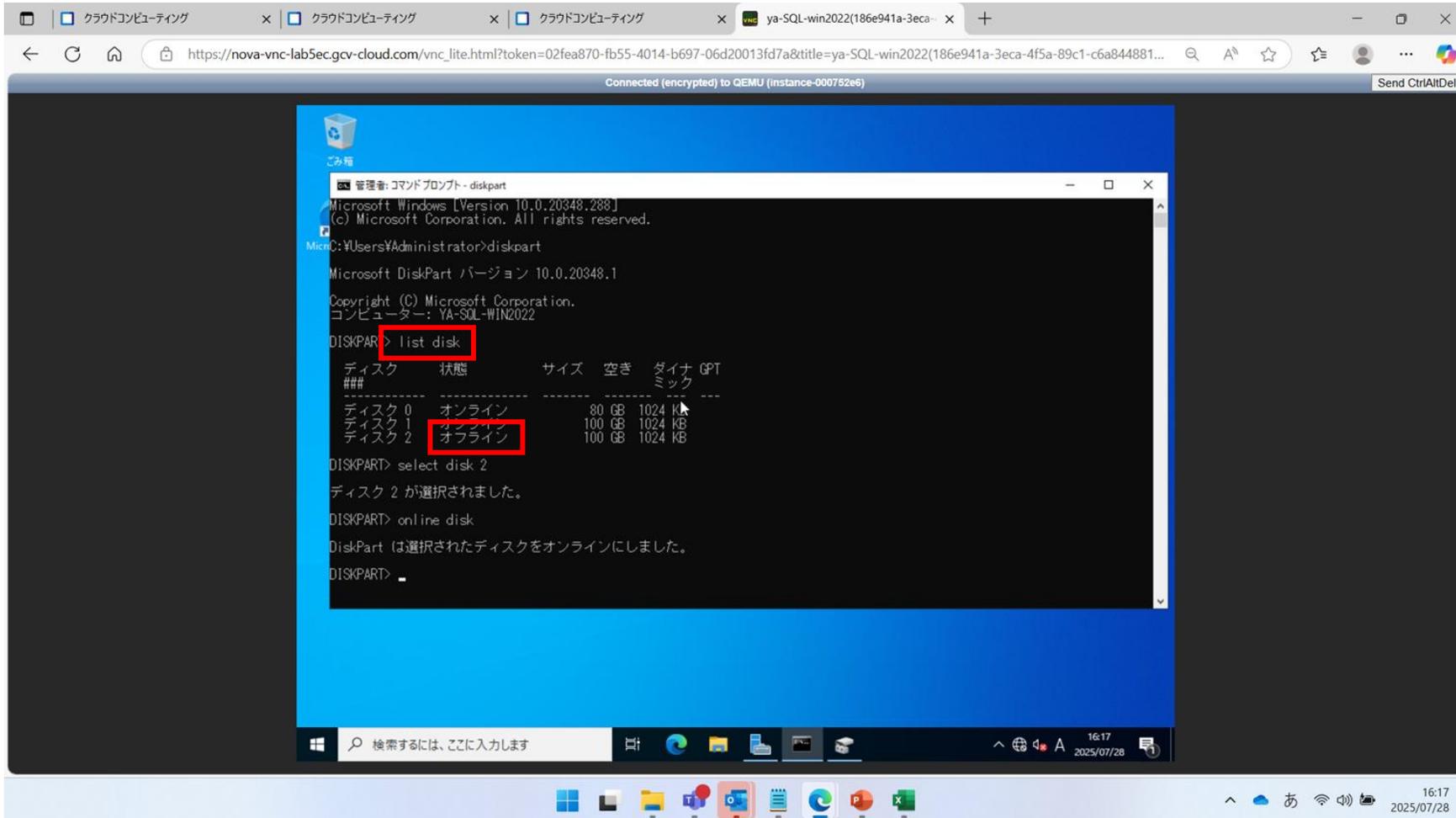
diskpart



5. バックアップデータ保存用ボリュームの移行

下記のコマンドを実行し、オフライン状態になっているディスクが存在していることを確認します。

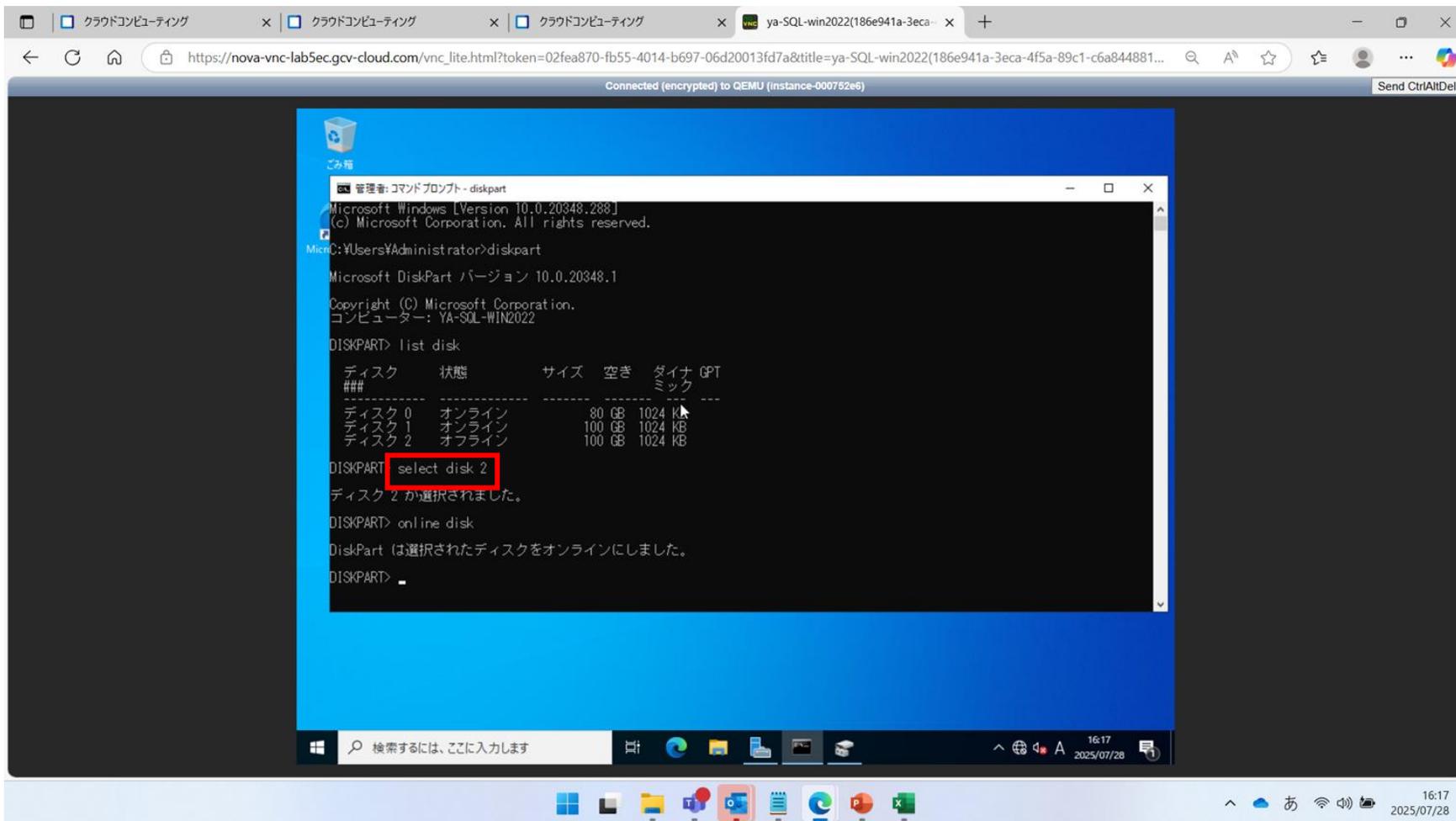
list disk



5. バックアップデータ保存用ボリュームの移行

下記のコマンドを実行し、操作するディスクを選択します。

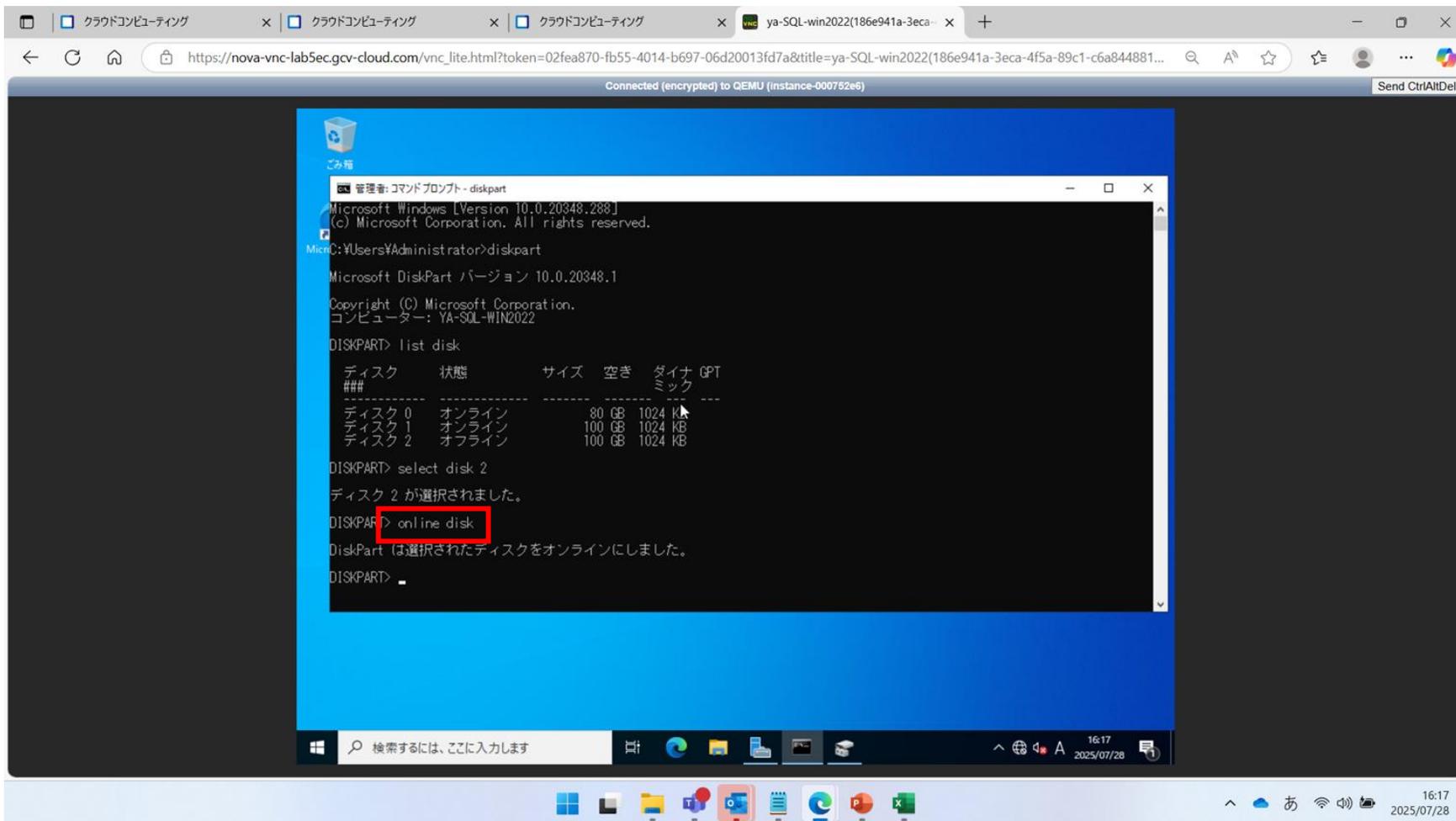
`select disk <対象ディスク番号>`



5. バックアップデータ保存用ボリュームの移行

下記のコマンドを実行し、ディスクをオンライン状態に切り替えます。

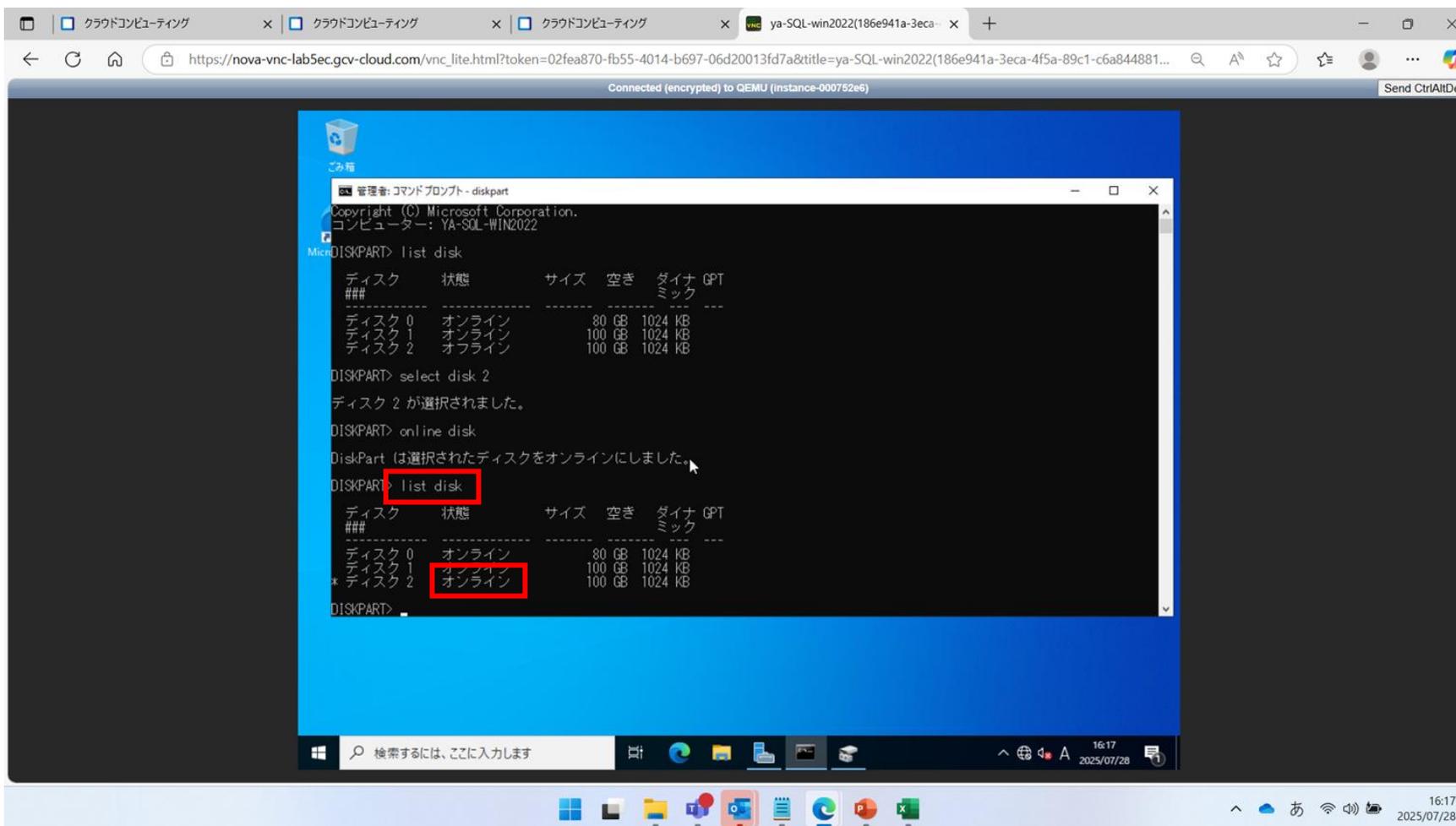
online disk



5. バックアップデータ保存用ボリュームの移行

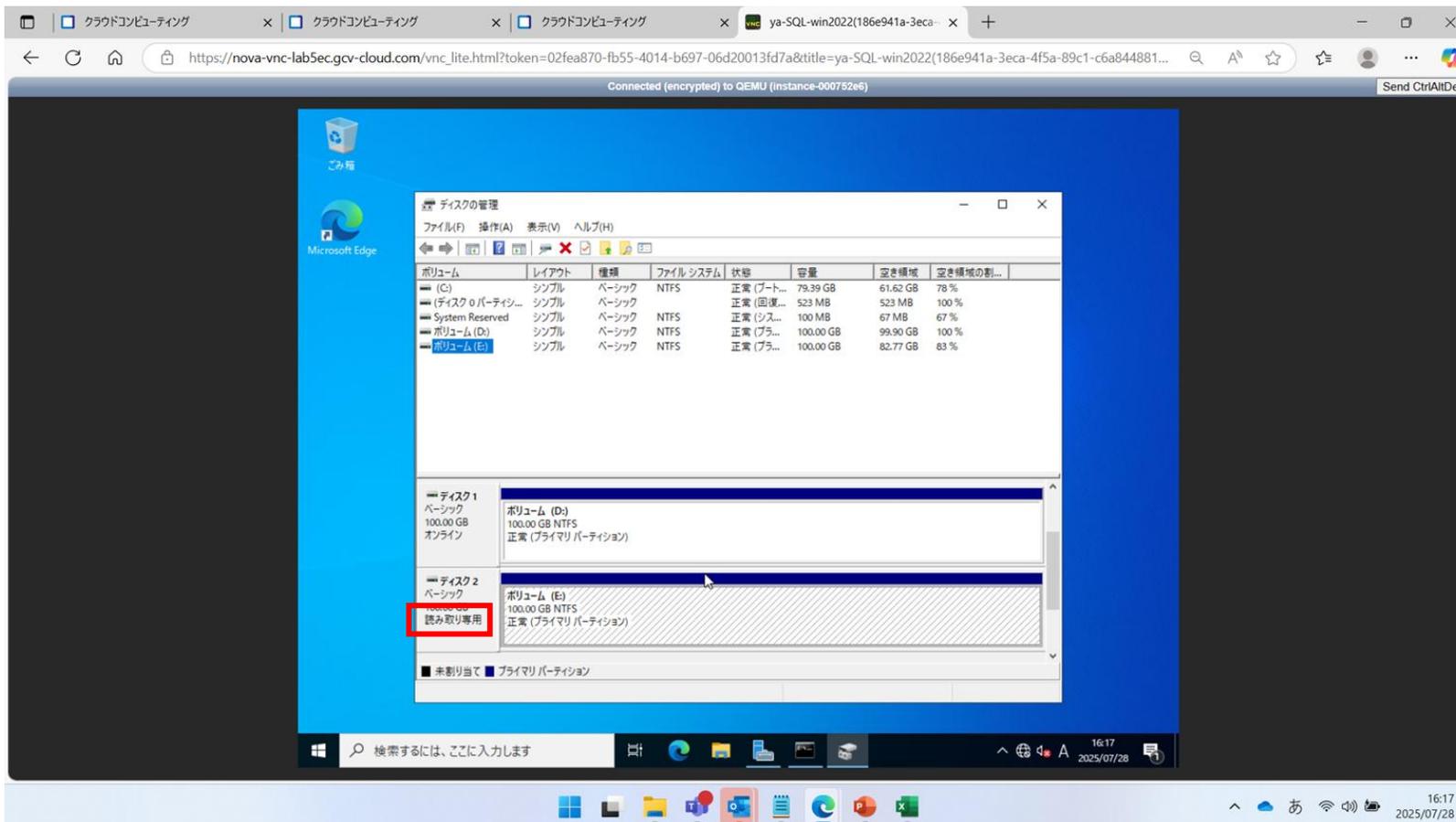
下記のコマンドを実行し、対象のディスクがオンライン状態になっていることを確認します。

list disk



5. バックアップデータ保存用ボリュームの移行

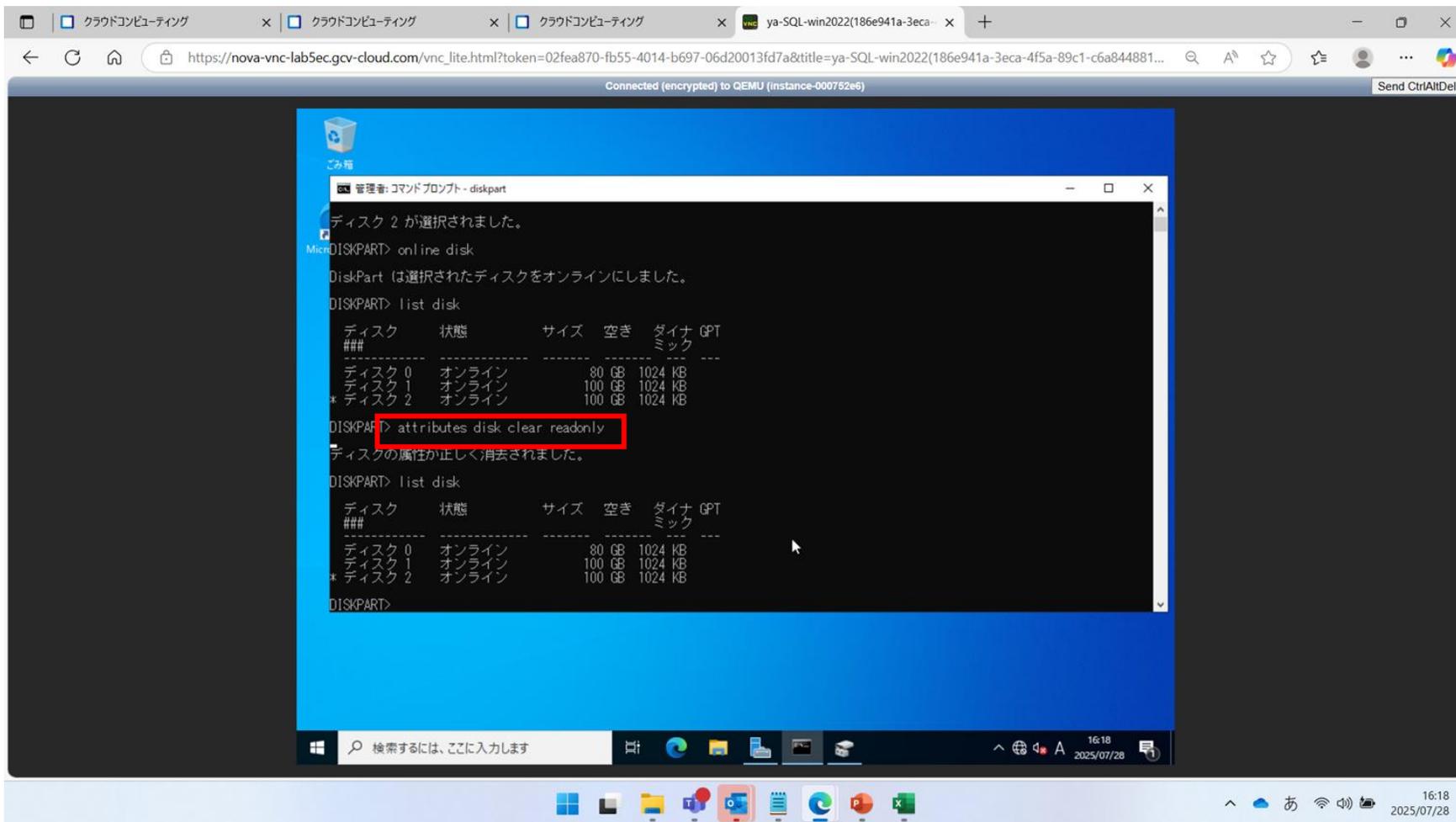
ディスクの状態を確認し、ディスクが表示されていることを確認します。
接続したバックアップデータ保存用ボリュームが「読み取り専用」と表示されている場合は以降の手順を実施します。
表示されている場合は6-1. DBインポート以降の手順を実施してください。



5. バックアップデータ保存用ボリュームの移行

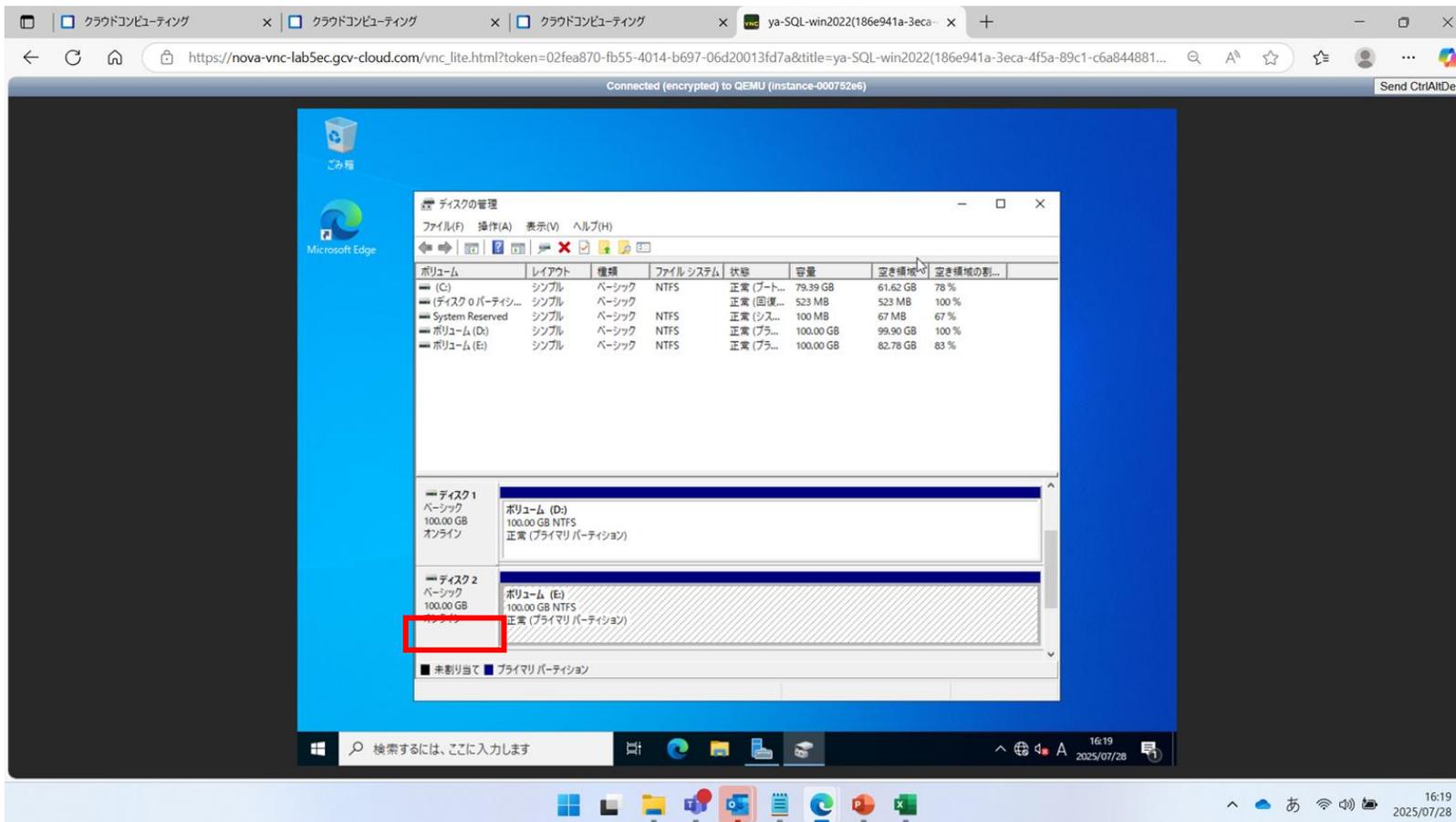
下記のコマンドを実行し、読み取り専用の属性を削除します。

```
attributes disk clear readonly
```



5. バックアップデータ保存用ボリュームの移行

ディスクの状態を確認し、ディスクに読み取り専用と表示されていないことを確認します。



6. リストア作業

つながり。驚きを。幸せを。

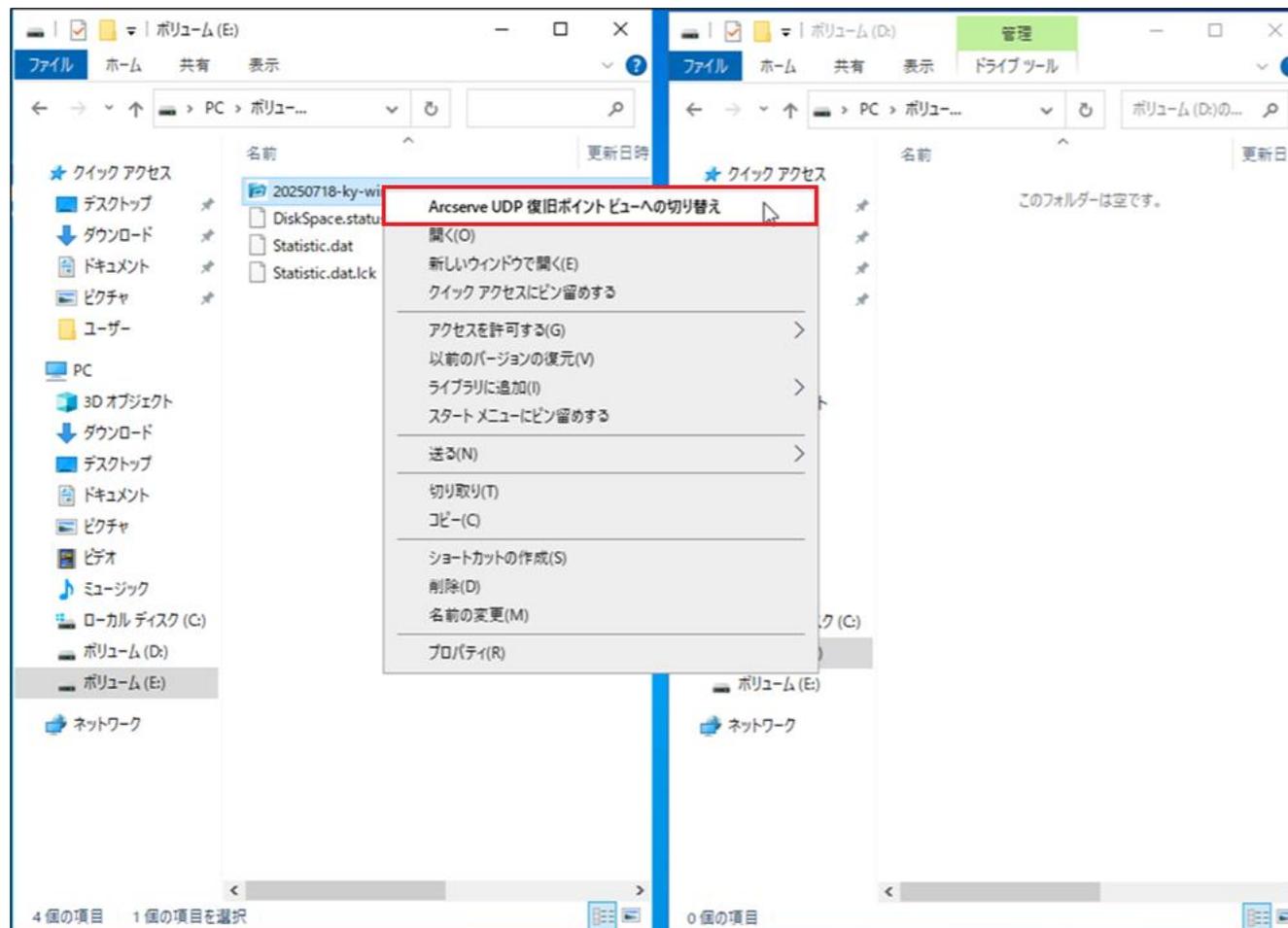


Windows serverの場合

6. リストア作業

移行先サーバへバックアップデータボリュームから必要なデータをリストアします。

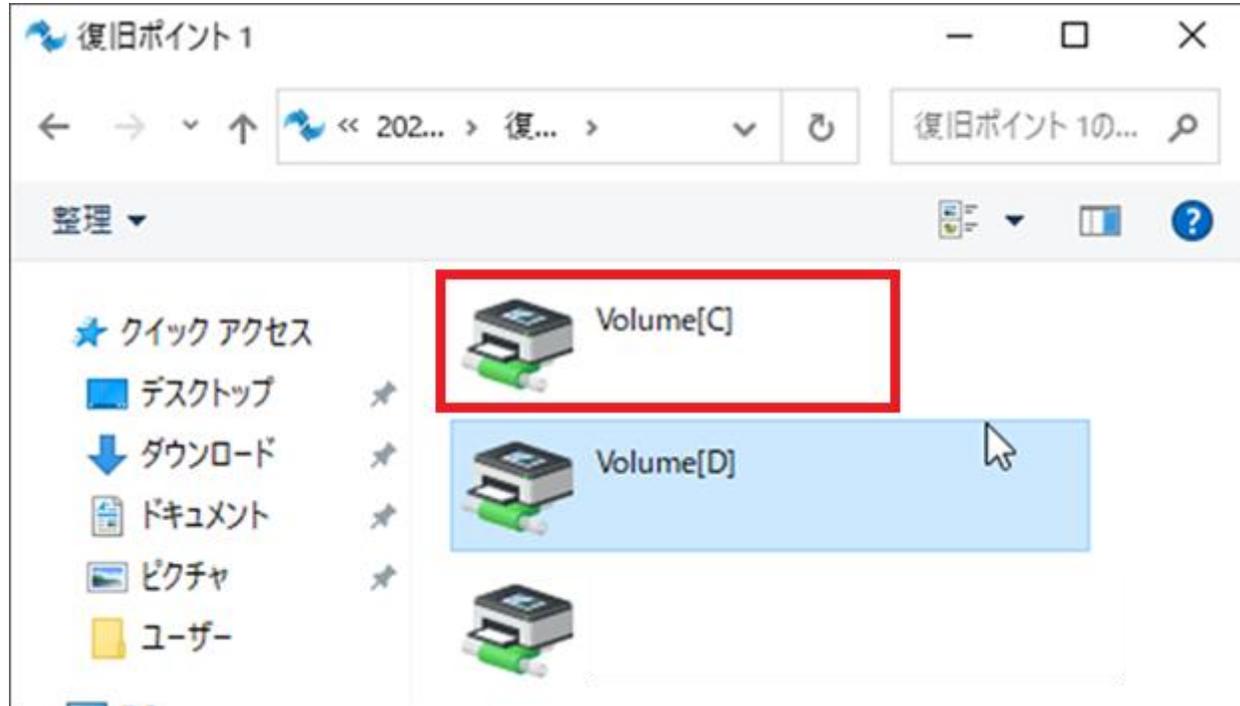
バックアップファイルを選択し、右クリック>「Arcserve UDP復旧ポイントビューへの切り替え」を押下します。



6. リストア作業

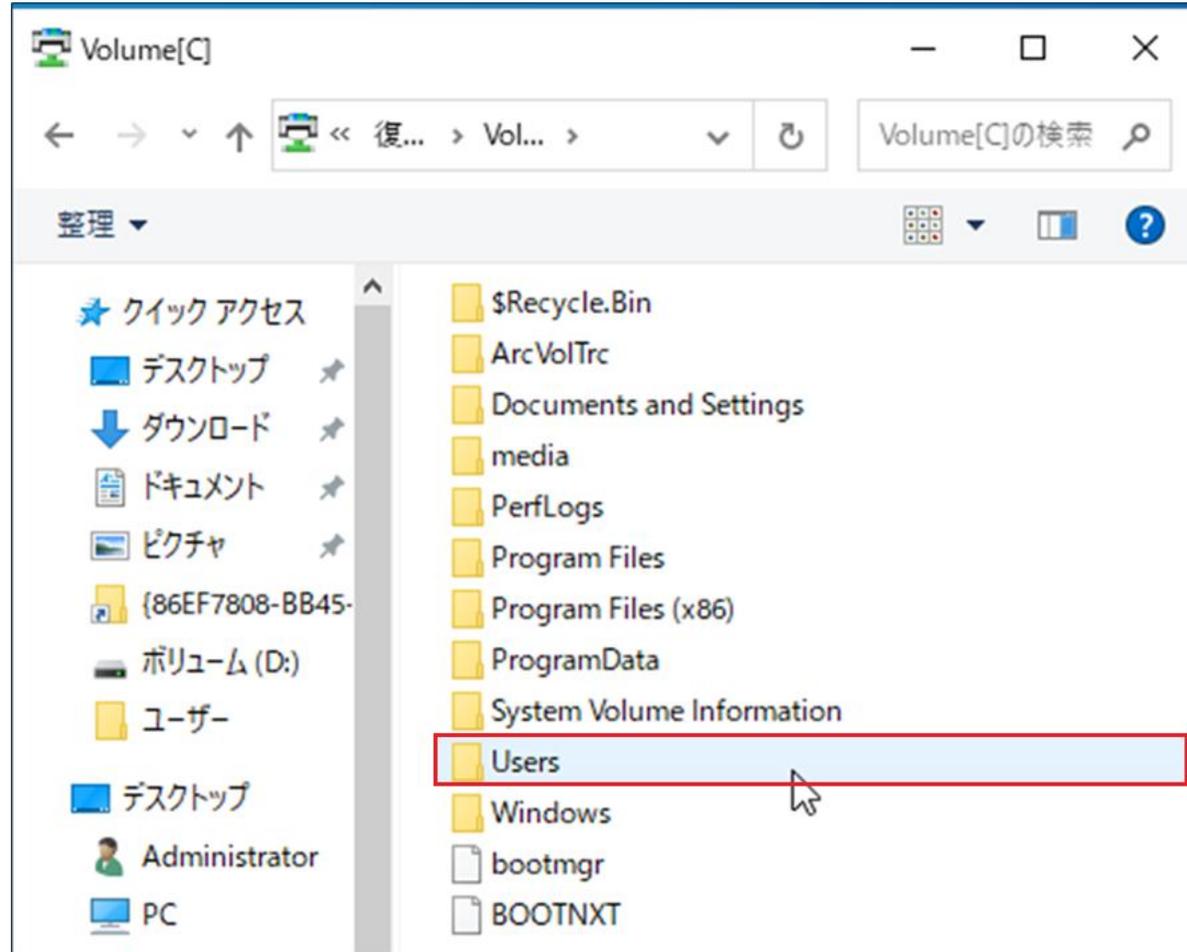
移行対象のデータが含まれるドライブを選択します。

※手順書では「Volume C」を選択し、ユーザデータ（デスクトップ上のファイル等）の移行手順を記載します。



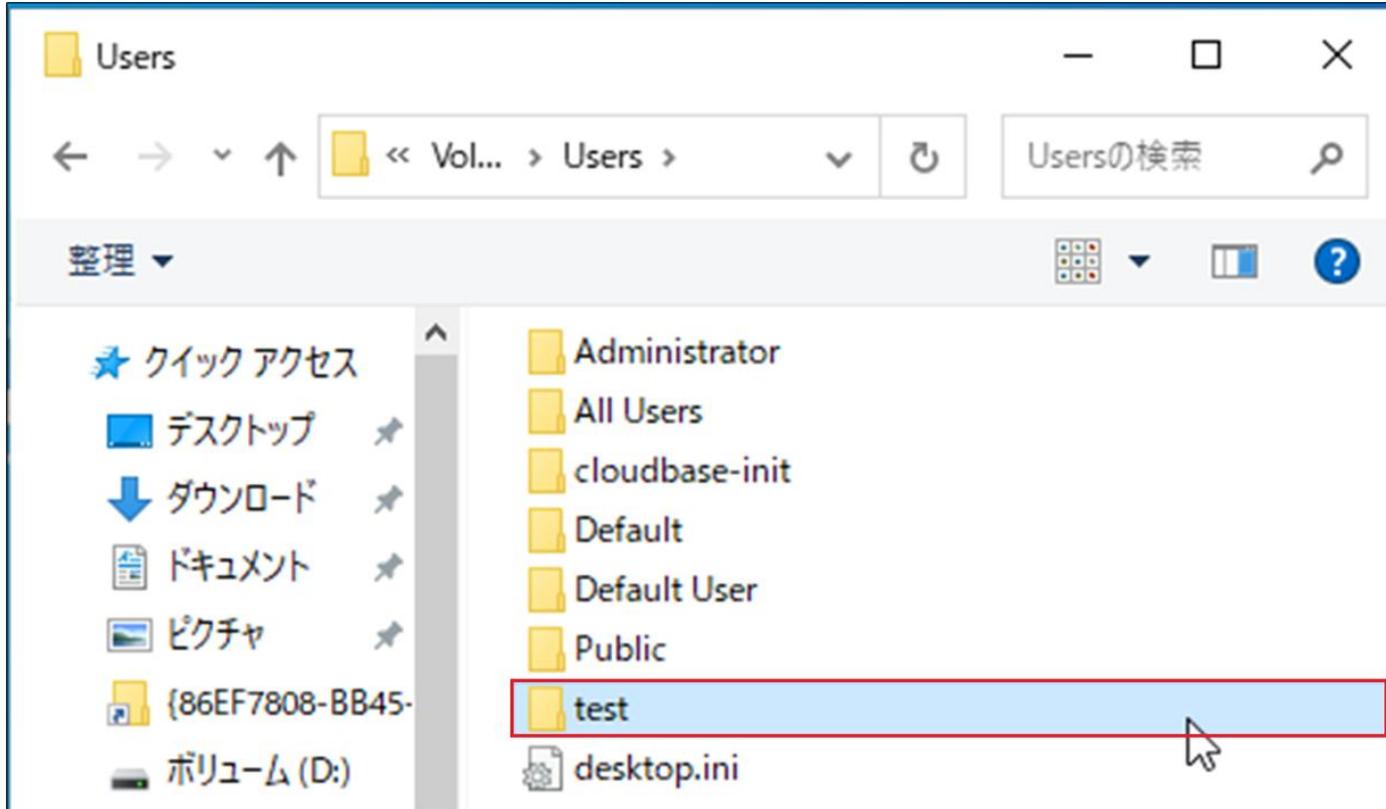
6. リストア作業

「Users」を選択します。



6. リストア作業

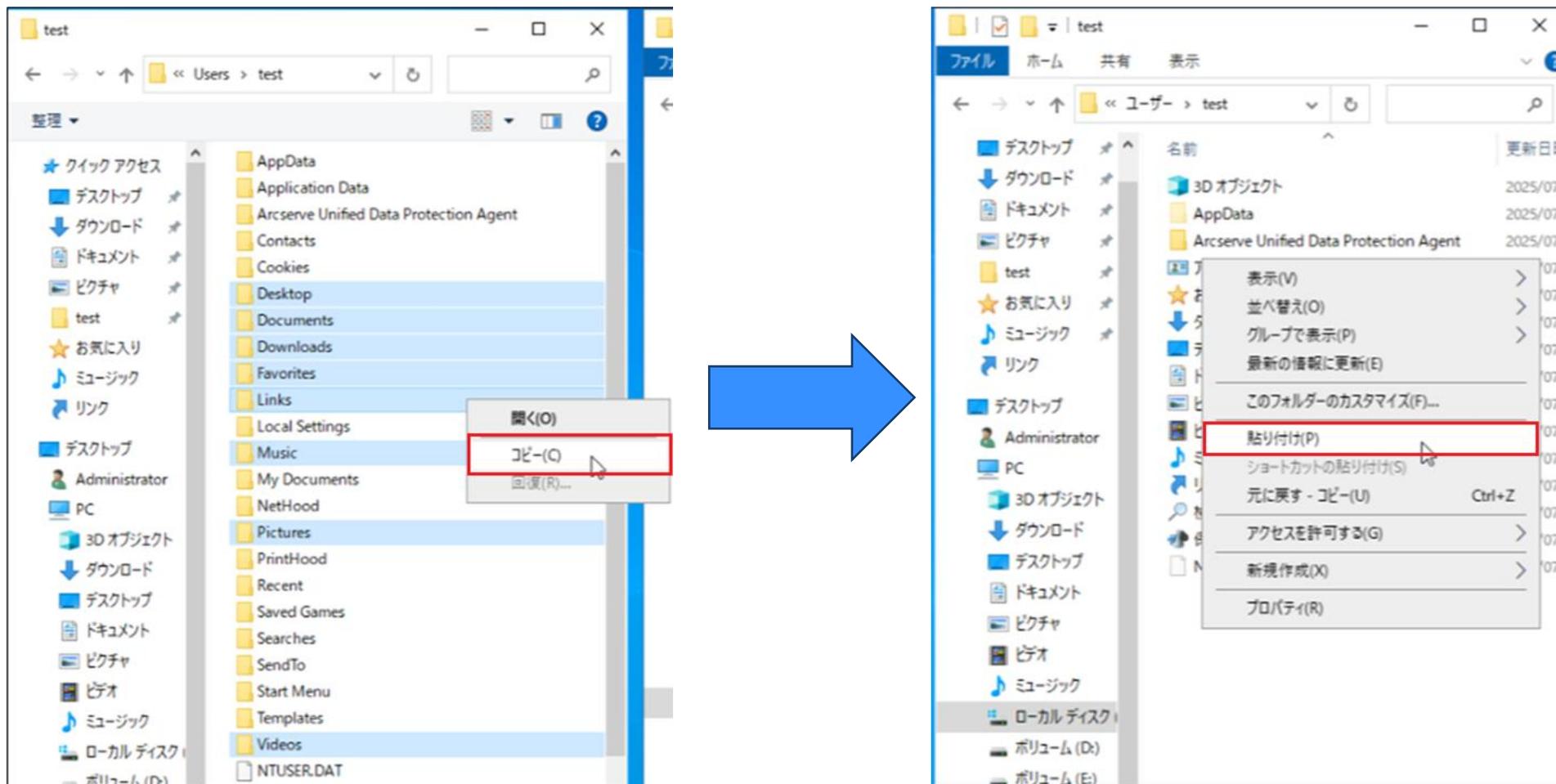
移行対象データが含まれるユーザのフォルダを選択します。



6. リストア作業

移行対象データのフォルダをコピーし、移行先のフォルダへ貼り付けます。

※手順書では、Cドライブ上の同一名のユーザフォルダへデスクトップファイル等をコピーしています。

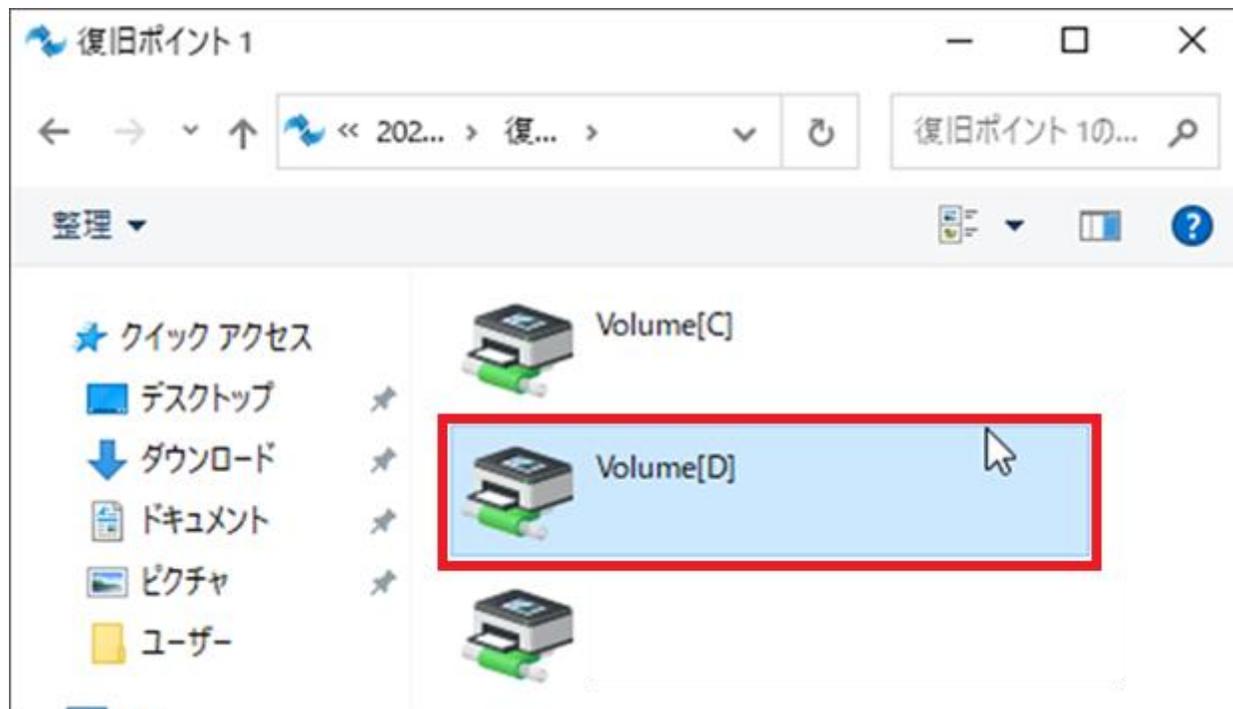


6. リストア作業

次に、Dドライブ等のデータが含まれるドライブを選択します。

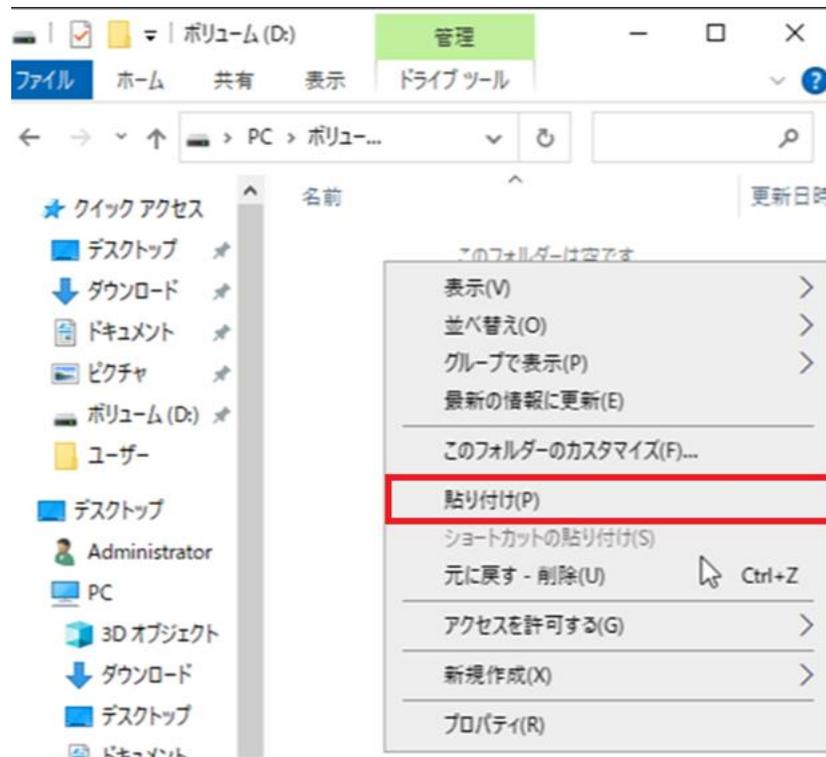
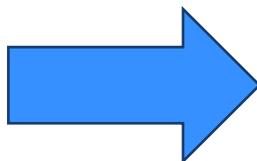
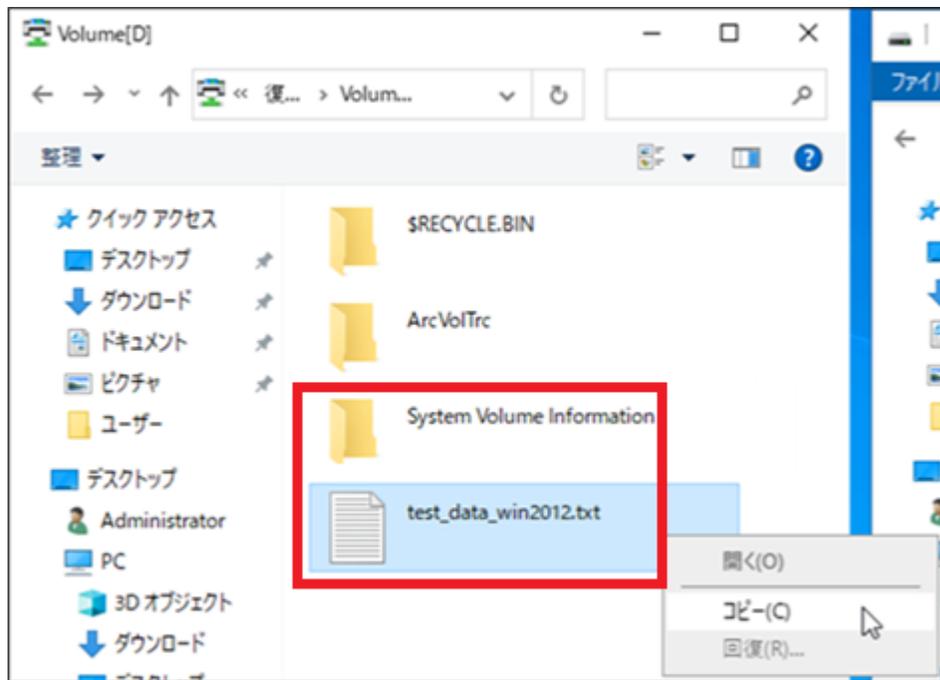
※移行対象に、Dドライブ等のデータボリュームが含まれない場合、本手順は実施不要です。

手順書では「Volume D」を選択し、データ移行を行います。



6. リストア作業

移行対象のデータをコピーし、移行先のフォルダに貼り付けます。



6. リストア作業

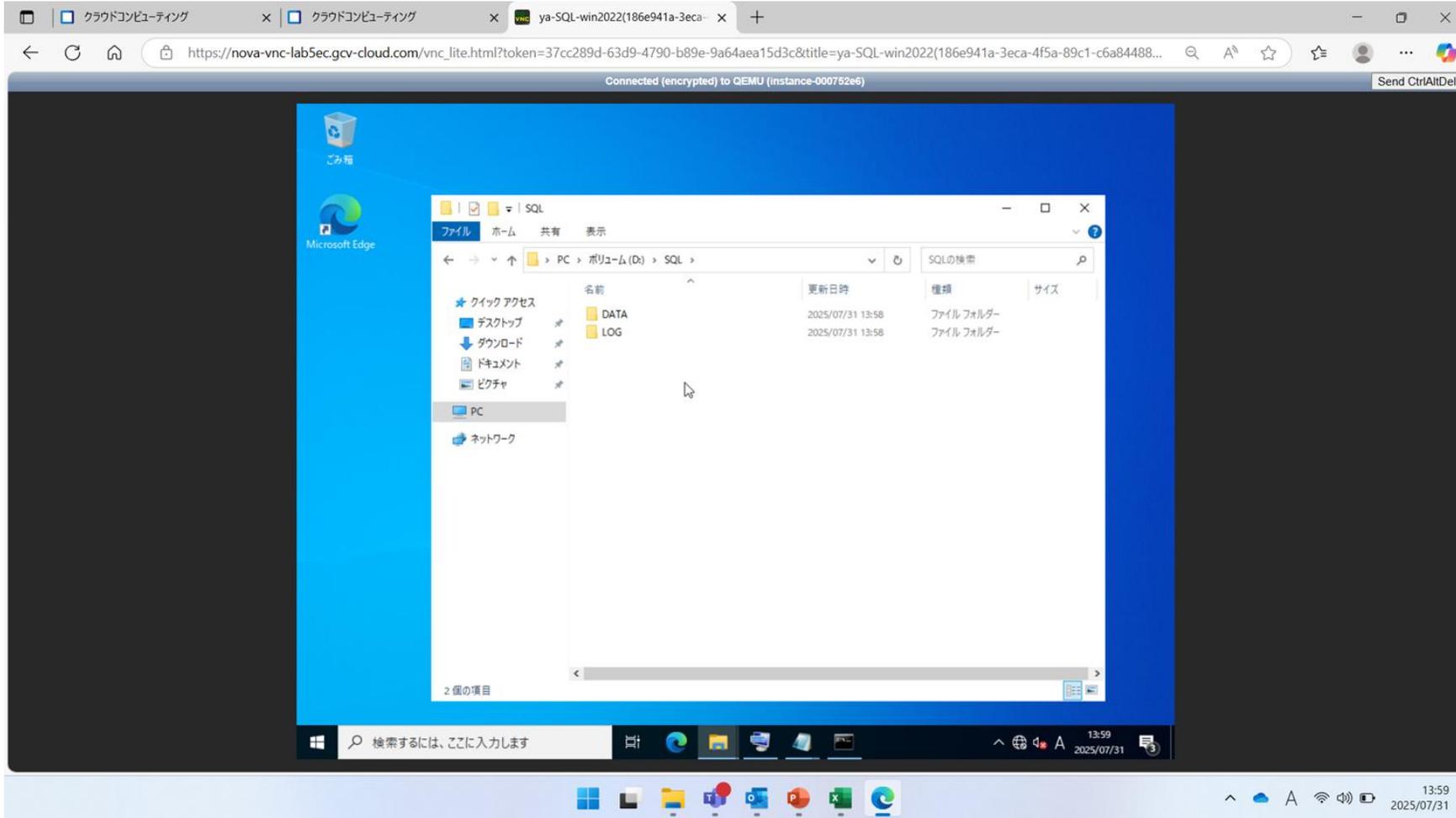
つながる。驚きを。幸せを。



SQL Serverの場合

6. リストア作業

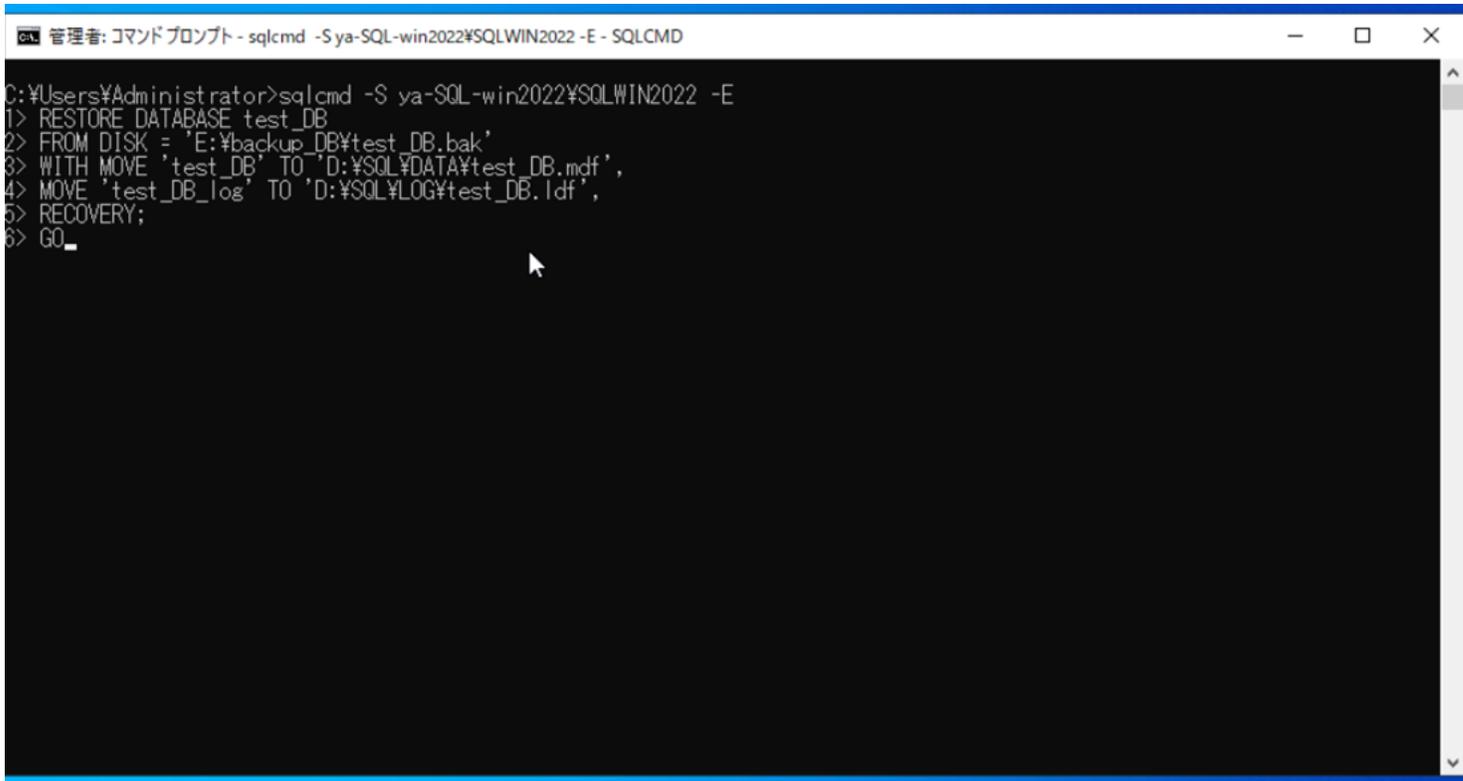
(必要に応じて)mdfファイルの格納先フォルダとldfファイルの格納先フォルダを作成します。



6. リストア作業

下記のコマンドを実行し、DBをインポートします。

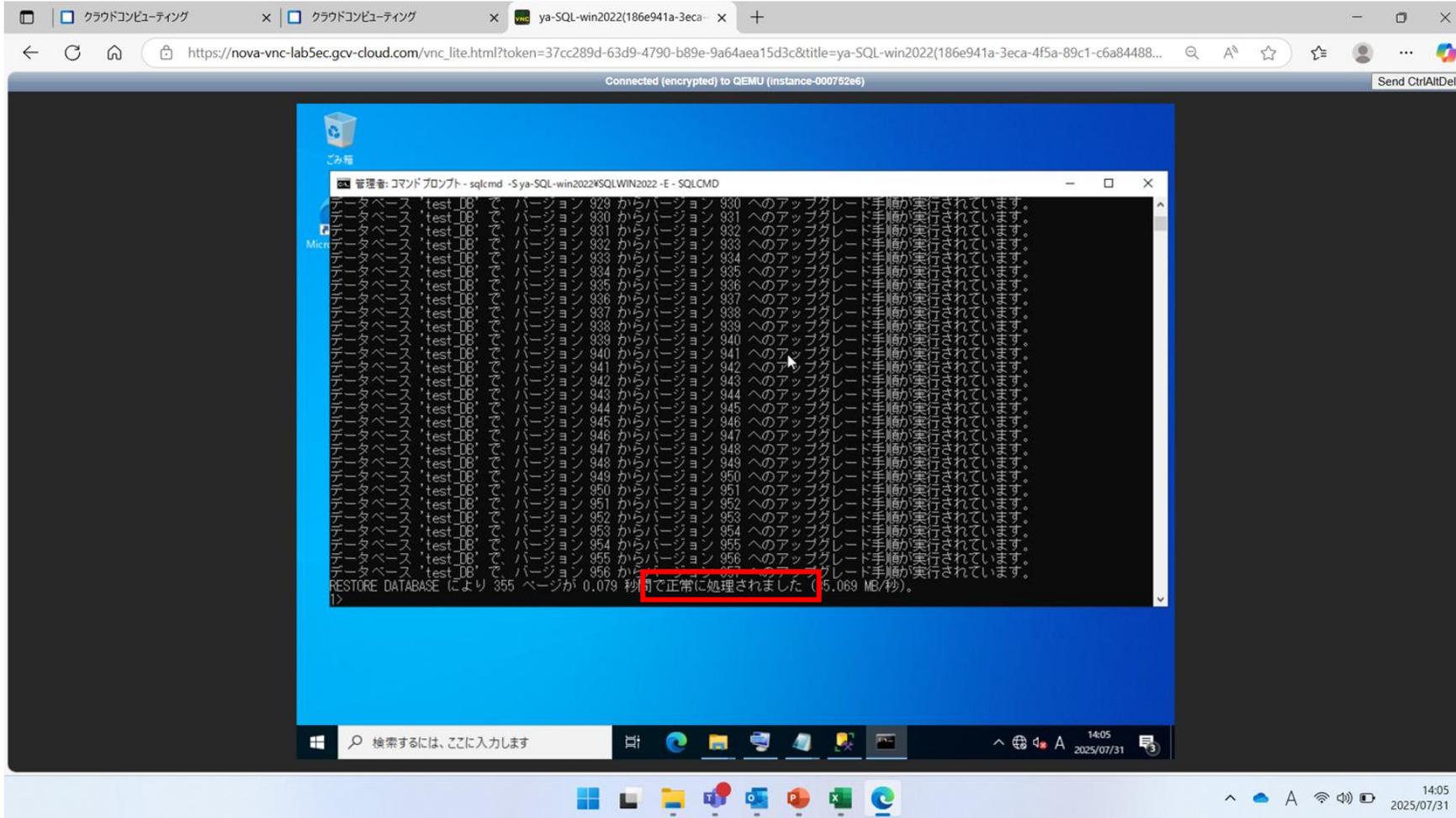
```
RESTORE DATABASE [DB名]  
FROM DISK = '<DBエクスポートデータ保存先>¥DB名.bak'  
WITH MOVE 'DB名' TO '<mdfファイル格納先>¥DB名.mdf',  
MOVE 'DB名_log' TO '<mdfファイル格納先>¥DB名.ldf',  
RECOVERY;
```



```
管理者: コマンドプロンプト - sqlcmd -S ya-SQL-win2022¥SQLWIN2022 -E - SQLCMD  
C:¥Users¥Administrator>sqlcmd -S ya-SQL-win2022¥SQLWIN2022 -E  
1> RESTORE DATABASE test_DB  
2> FROM DISK = 'E:¥backup_DB¥test_DB.bak'  
3> WITH MOVE 'test_DB' TO 'D:¥SQL¥DATA¥test_DB.mdf',  
4> MOVE 'test_DB_log' TO 'D:¥SQL¥LOG¥test_DB.ldf',  
5> RECOVERY;  
6> GO_
```

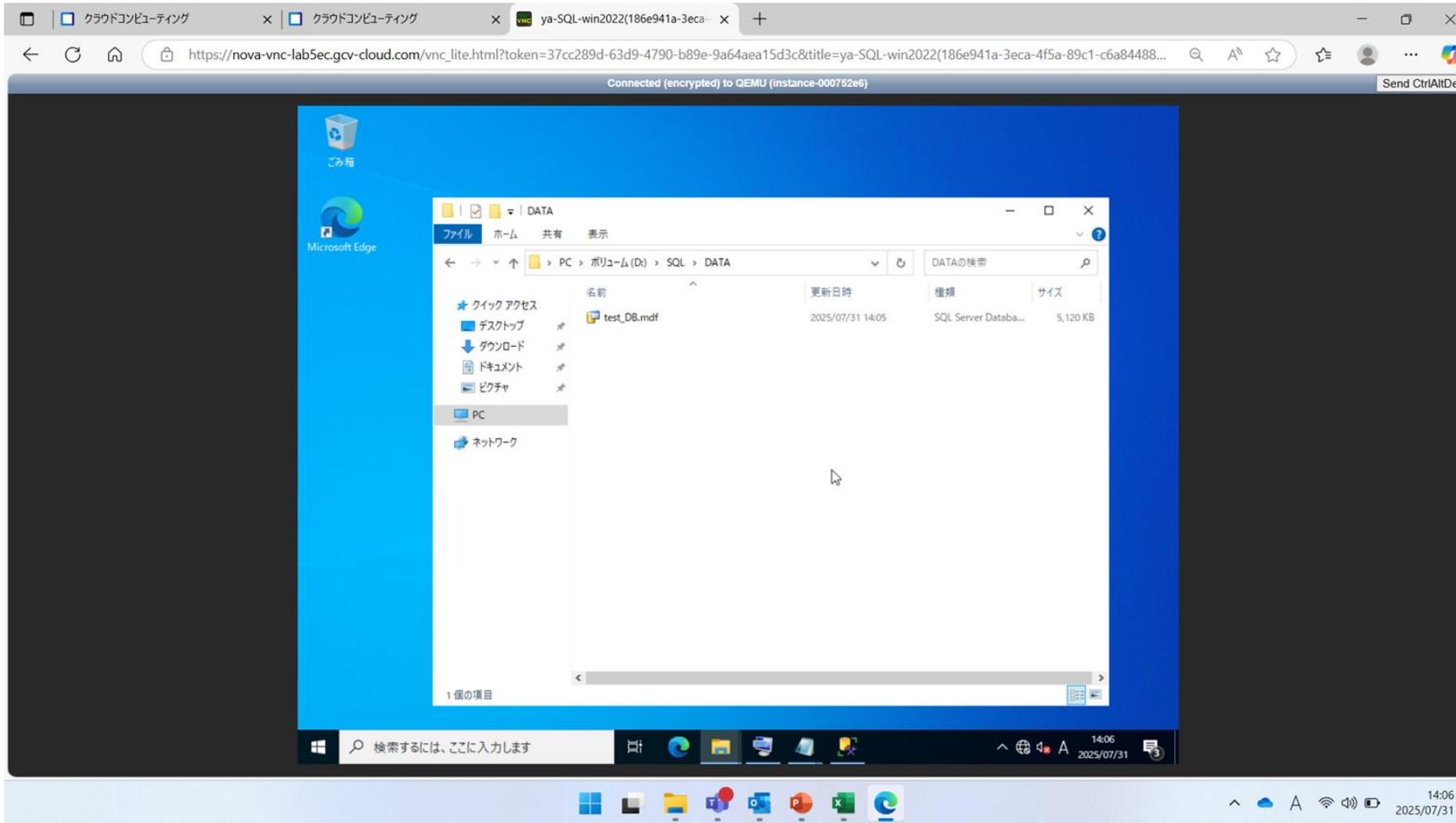
6. リストア作業

「正常に処理されました」のメッセージが表示されることを確認します。



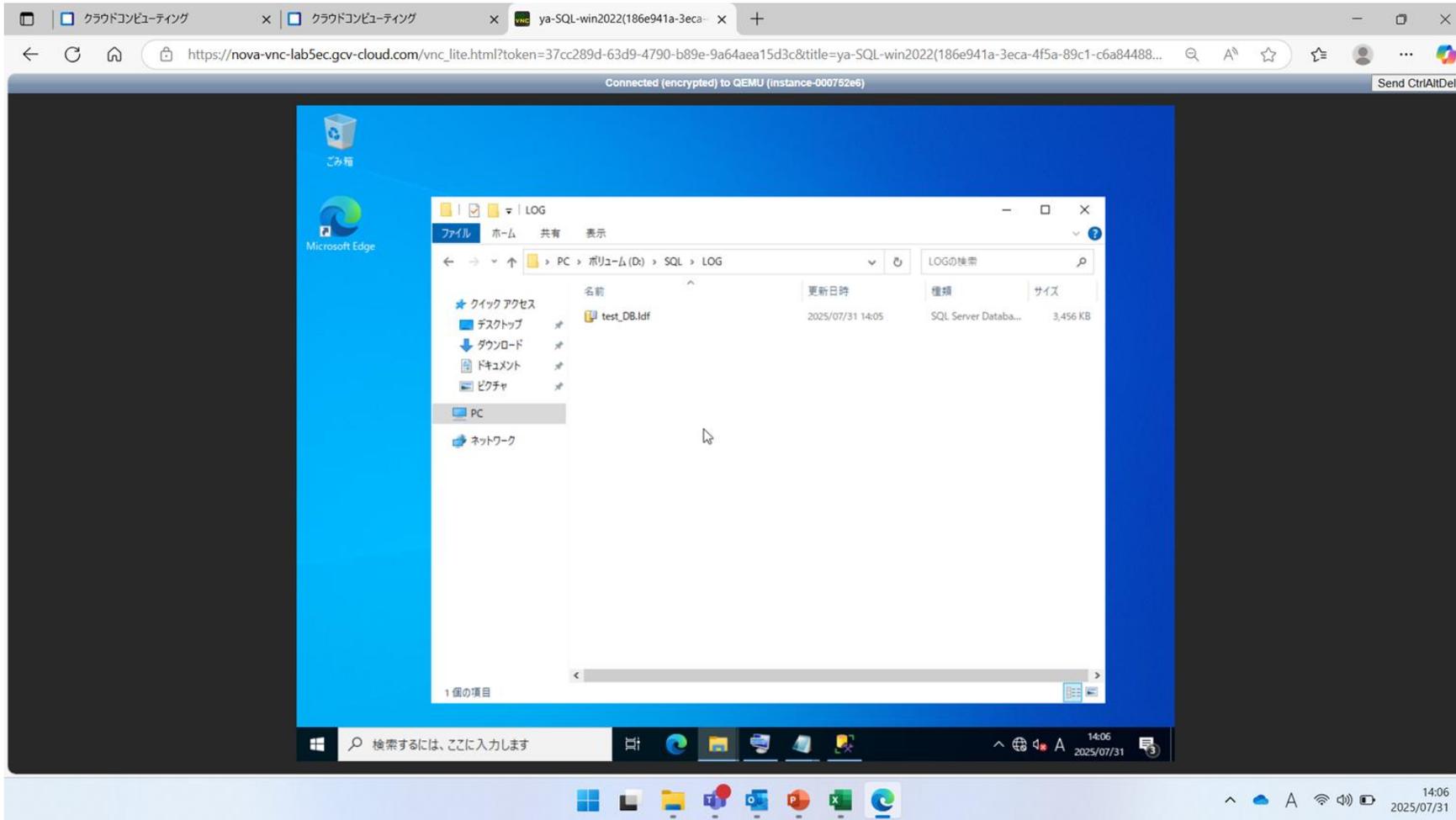
6. リストア作業

エクスプローラーからmdfファイルの格納先フォルダを確認し、mdfファイルが保存されていることを確認します。



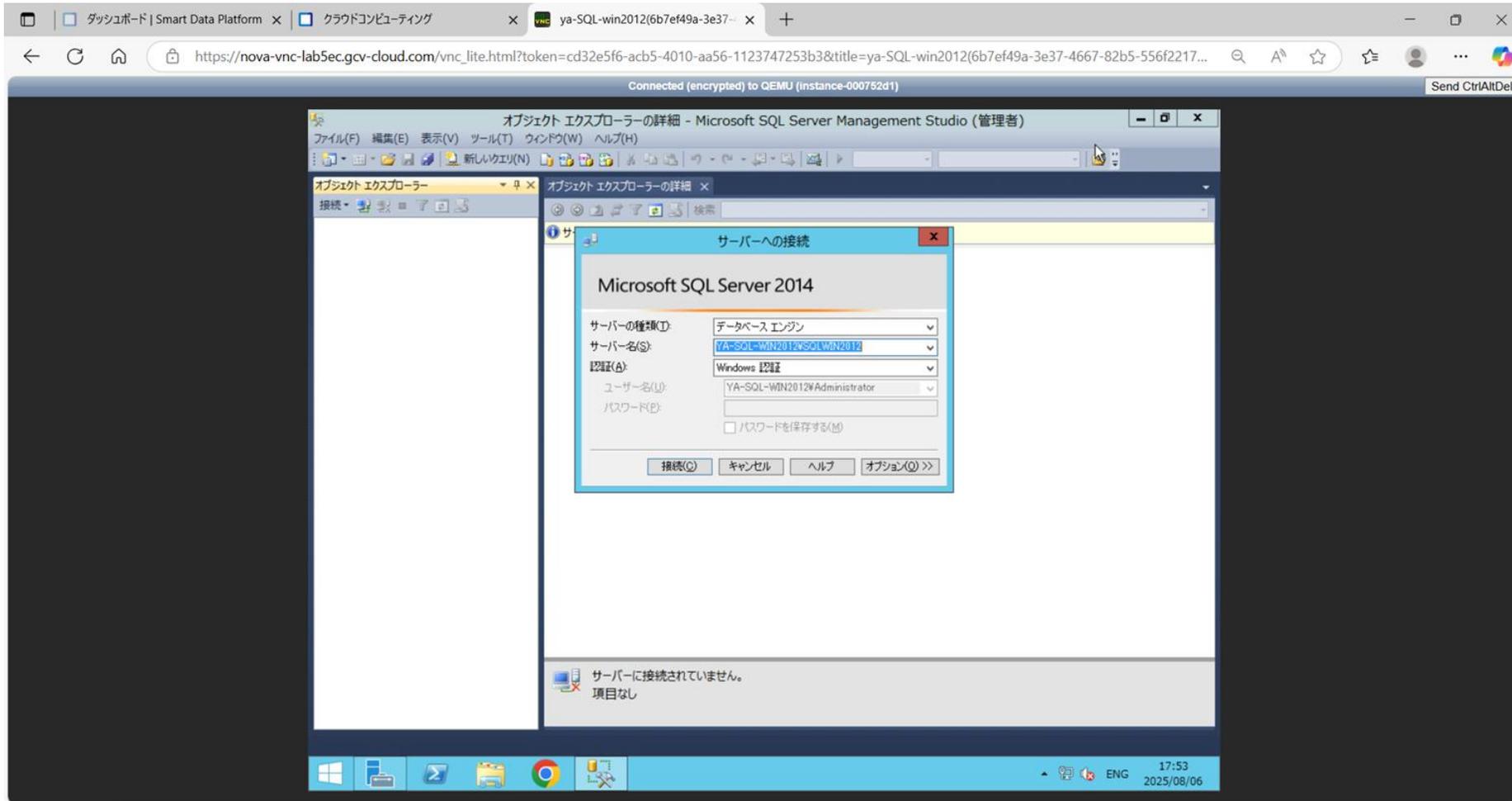
6. リストア作業

エクスプローラーからmdfファイルの格納先フォルダを確認し、ldfファイルが保存されていることを確認します。



6. リストア作業

SQL Server Management Studioを起動し、必要な情報を入力し「接続」を選択する。



6. リストア作業

「データベース」から対象のDBがインポートされていることを確認します。

The screenshot displays the Microsoft SQL Server Enterprise Manager interface. The left pane shows the 'Object Explorer' with the 'test_DB' database selected. The right pane shows the 'SQL Query Editor' with the query `select * from test_table` executed. The 'Results' pane shows the following data:

ID	NAME
1	Taro
2	Hanako

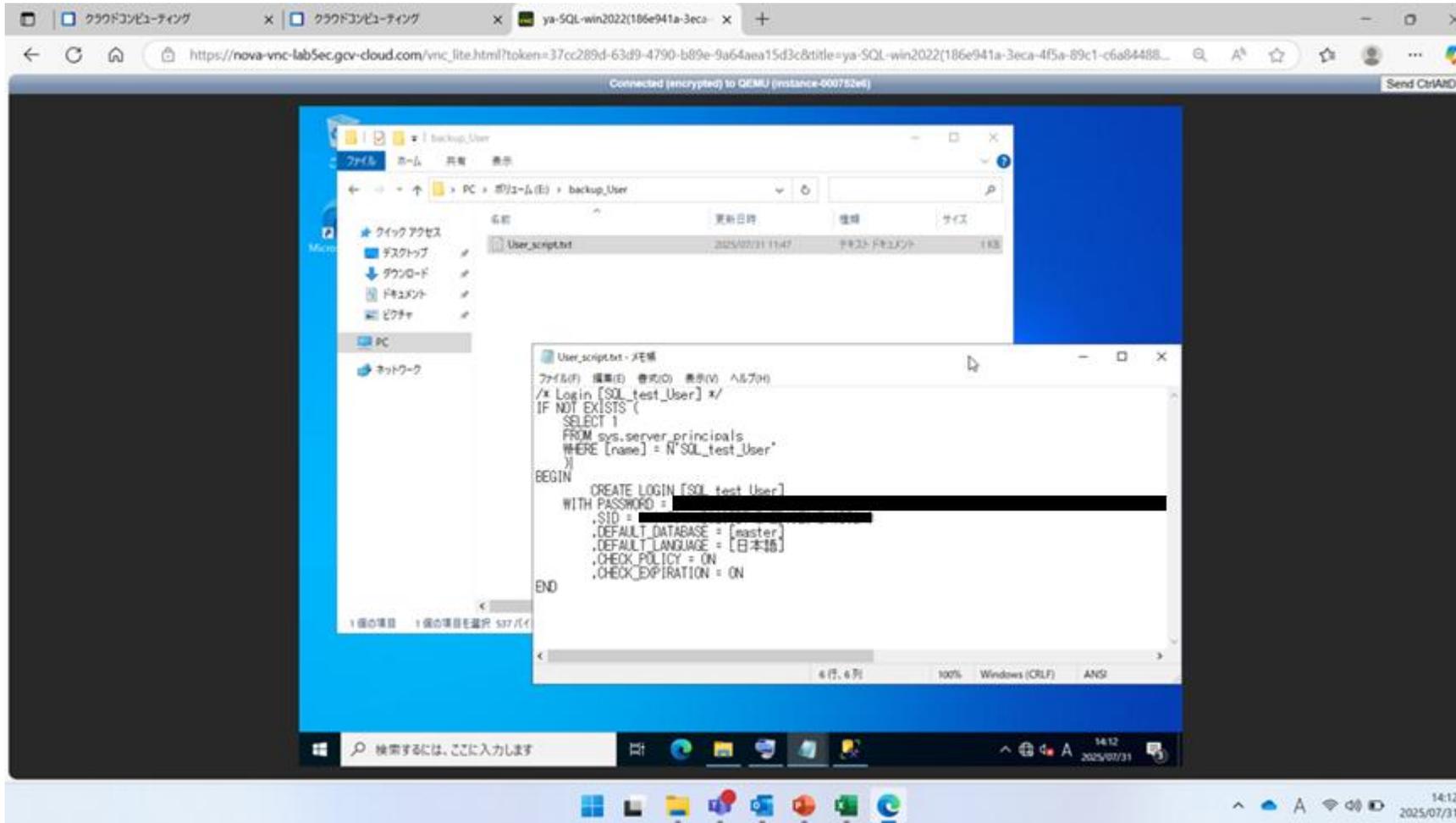
The status bar at the bottom indicates the query was executed successfully, returning 2 rows of data.

6. リストア作業

つながる。驚きを。幸せを。

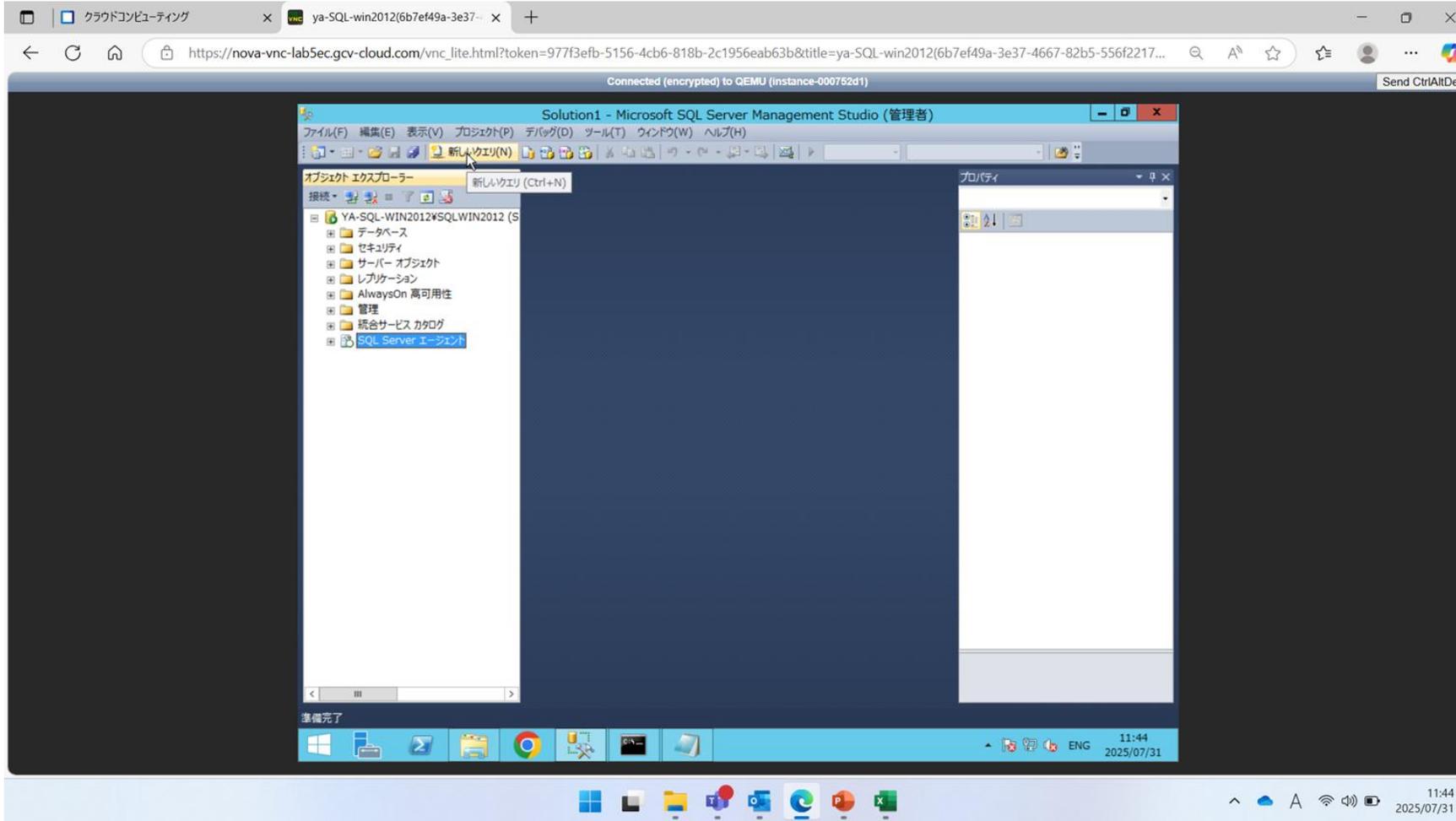
 NTT docomo Business

ログイン情報のエクスポートデータ保存先フォルダに保存したテキストファイルをメモ帳等で開き、内容を全てコピーします。



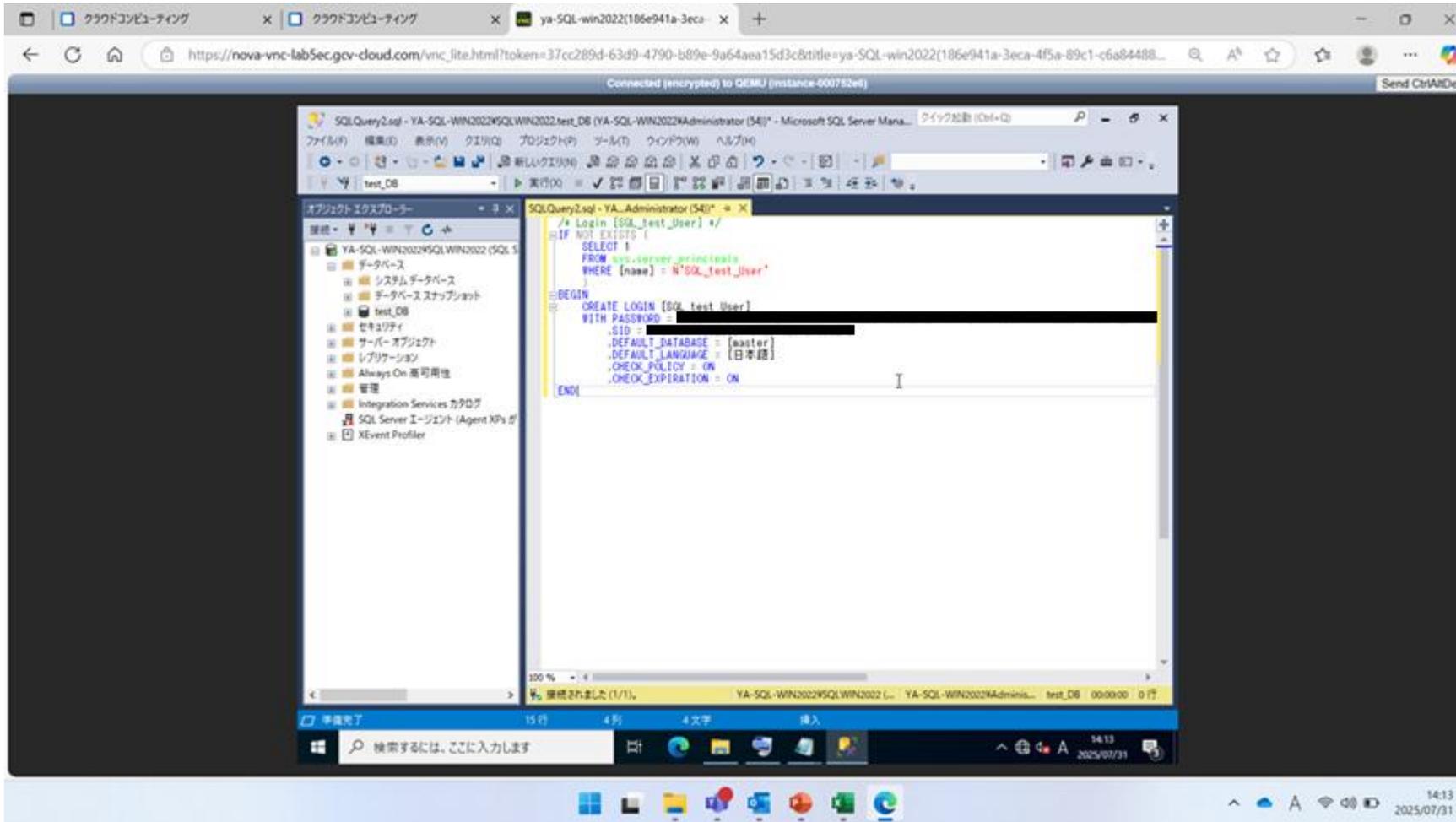
6. リストア作業

SQL Server Management Studioから「新しいクエリ」を選択する。



6. リストア作業

コピーした内容を全て貼り付け、「実行」を選択します。

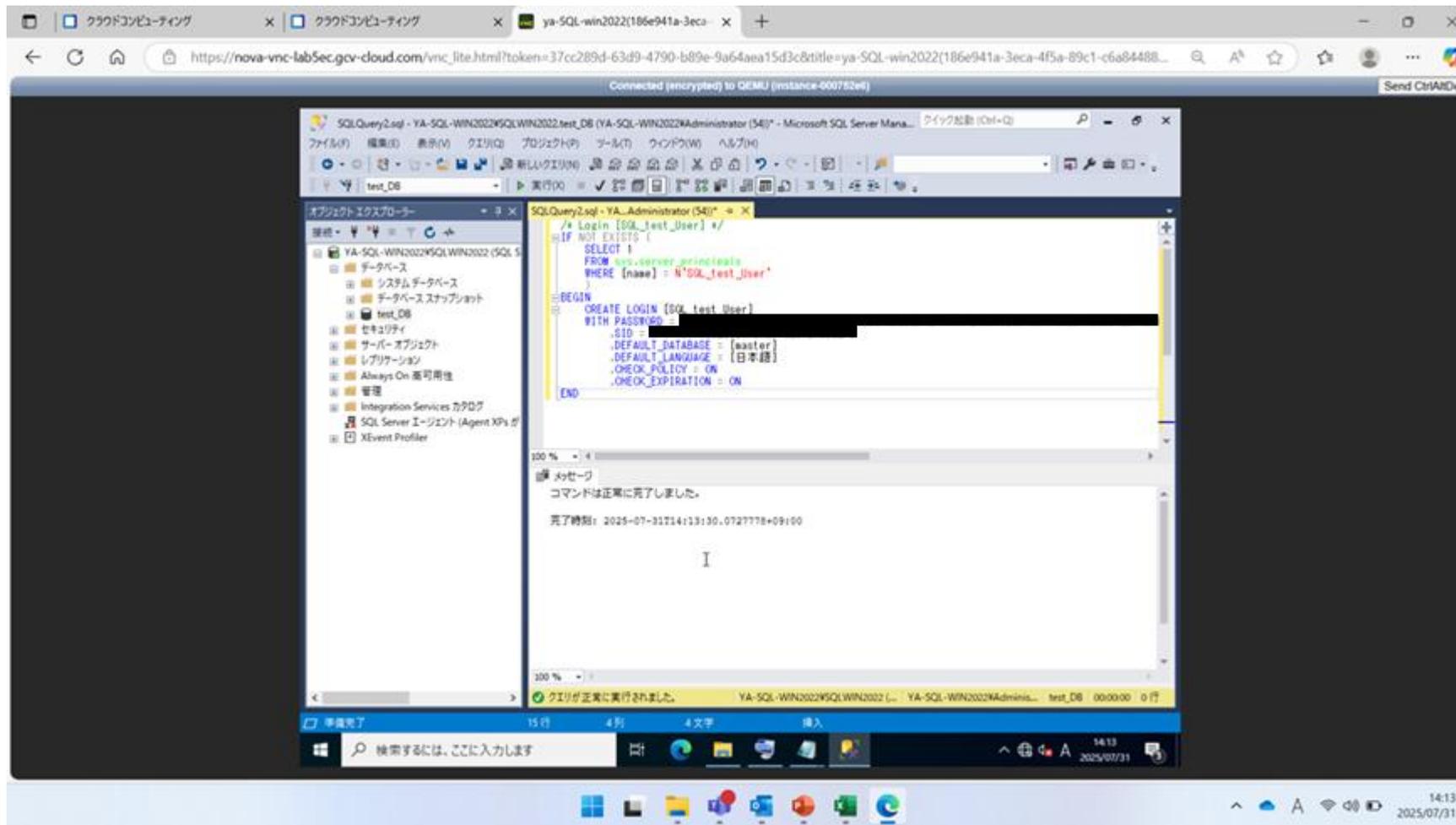


6. リストア作業

つながり。驚きを。幸せを。

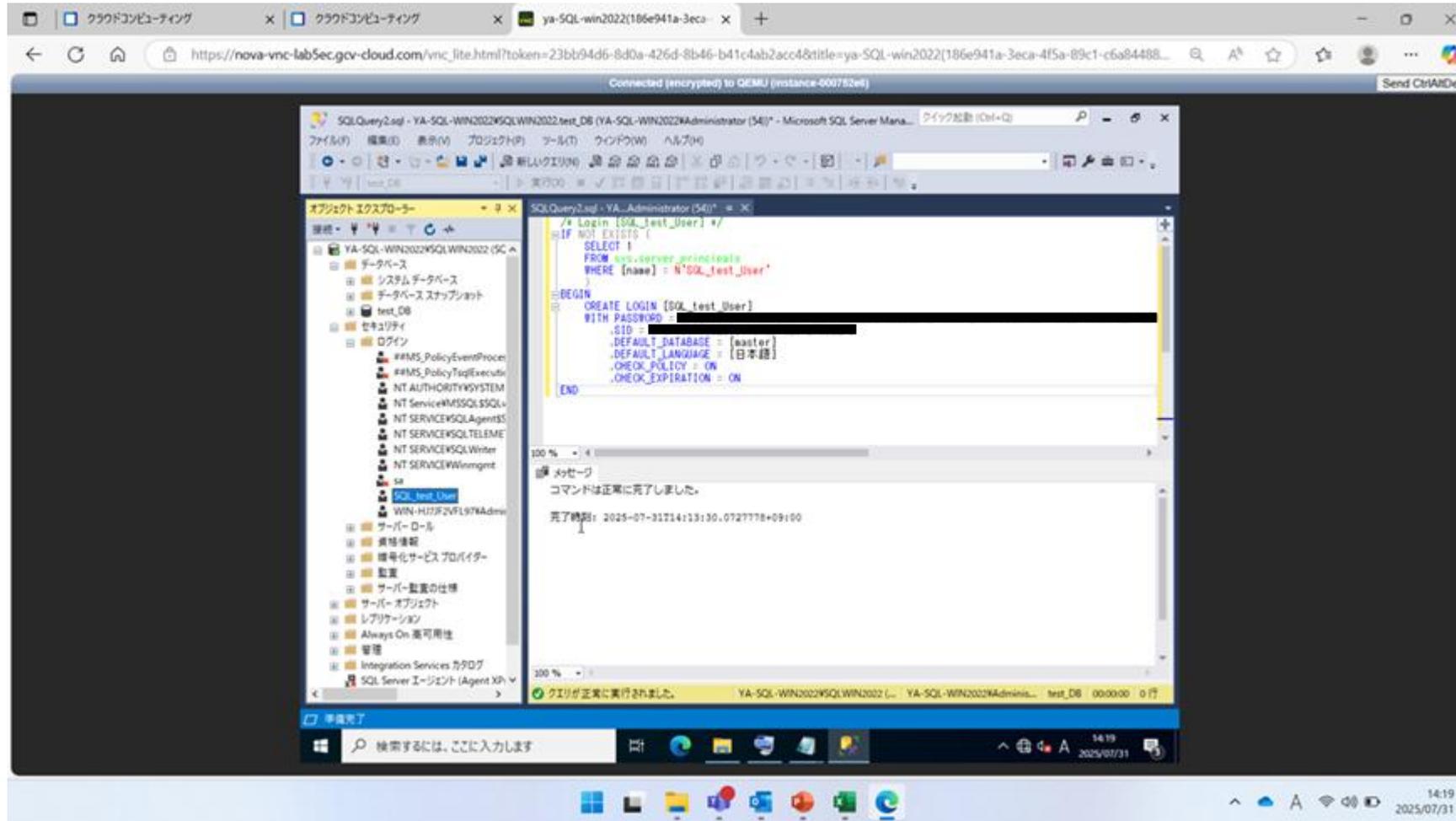
 NTT docomo Business

「コマンドは正常に完了しました。」のメッセージが出力されていることを確認する。



6. リストア作業

「セキュリティ」→「ログイン」から対象のログイン情報がインポートされていることを確認します。

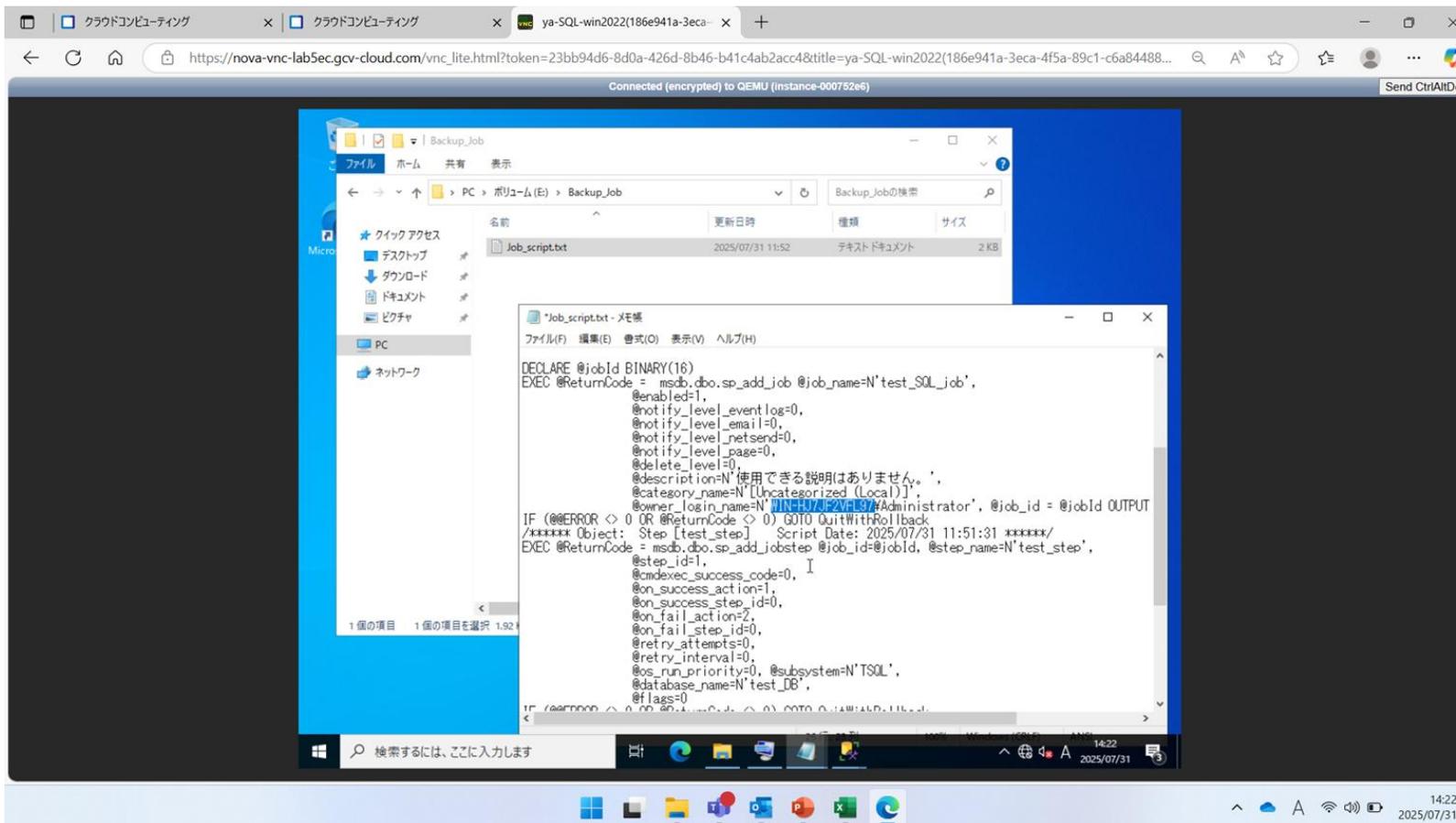


6. リストア作業

つながろう。驚きを。幸せを。

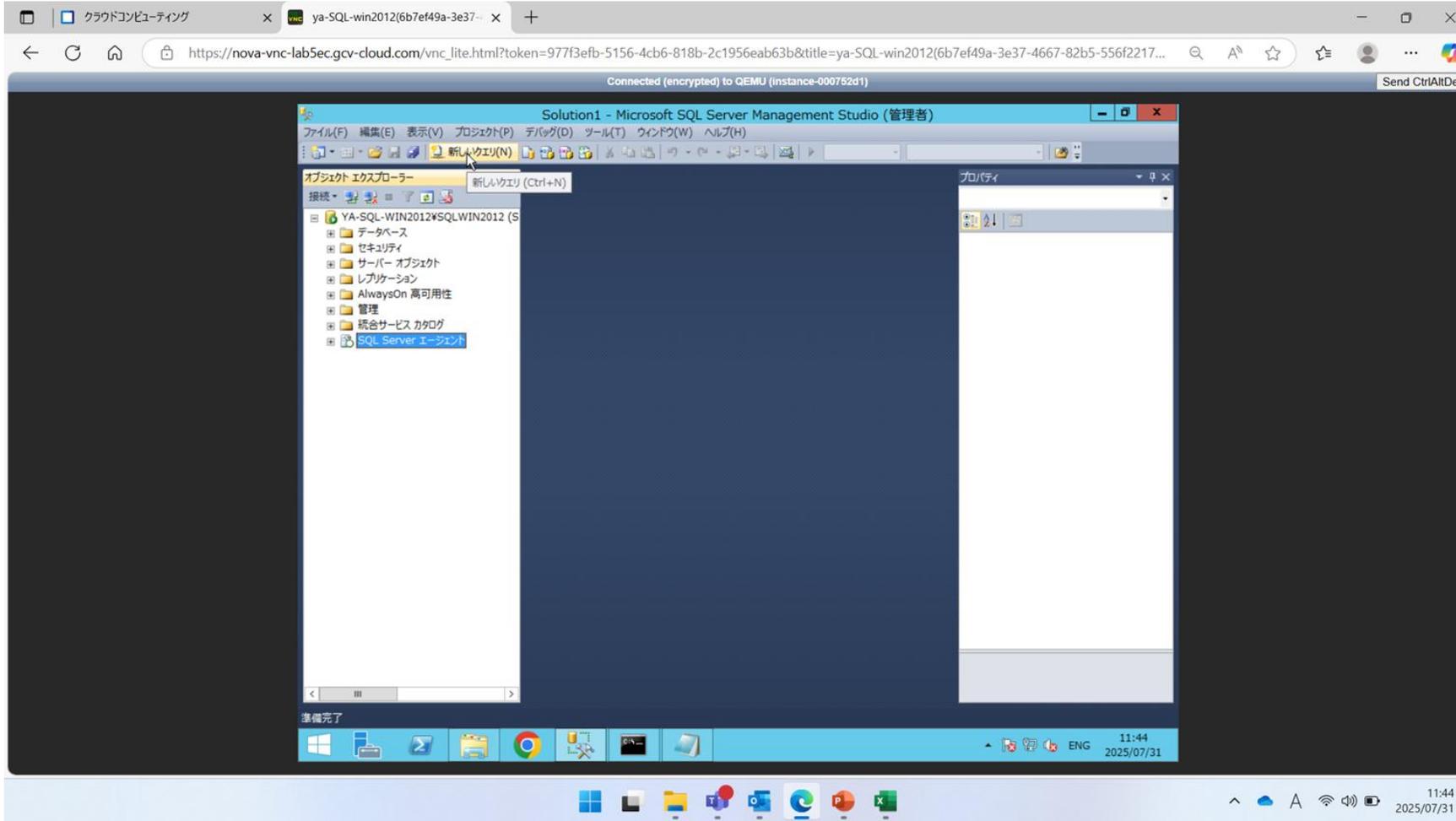
 NTT docomo Business

ジョブのエクスポートデータ保存先フォルダに保存したテキストファイルをメモ帳等で開き、内容を全てコピーします。
(テキスト内に移行元のサーバーインスタンス名が含まれている場合は、移行先のサーバーインスタンス名で置換してからコピーを実施してください。)



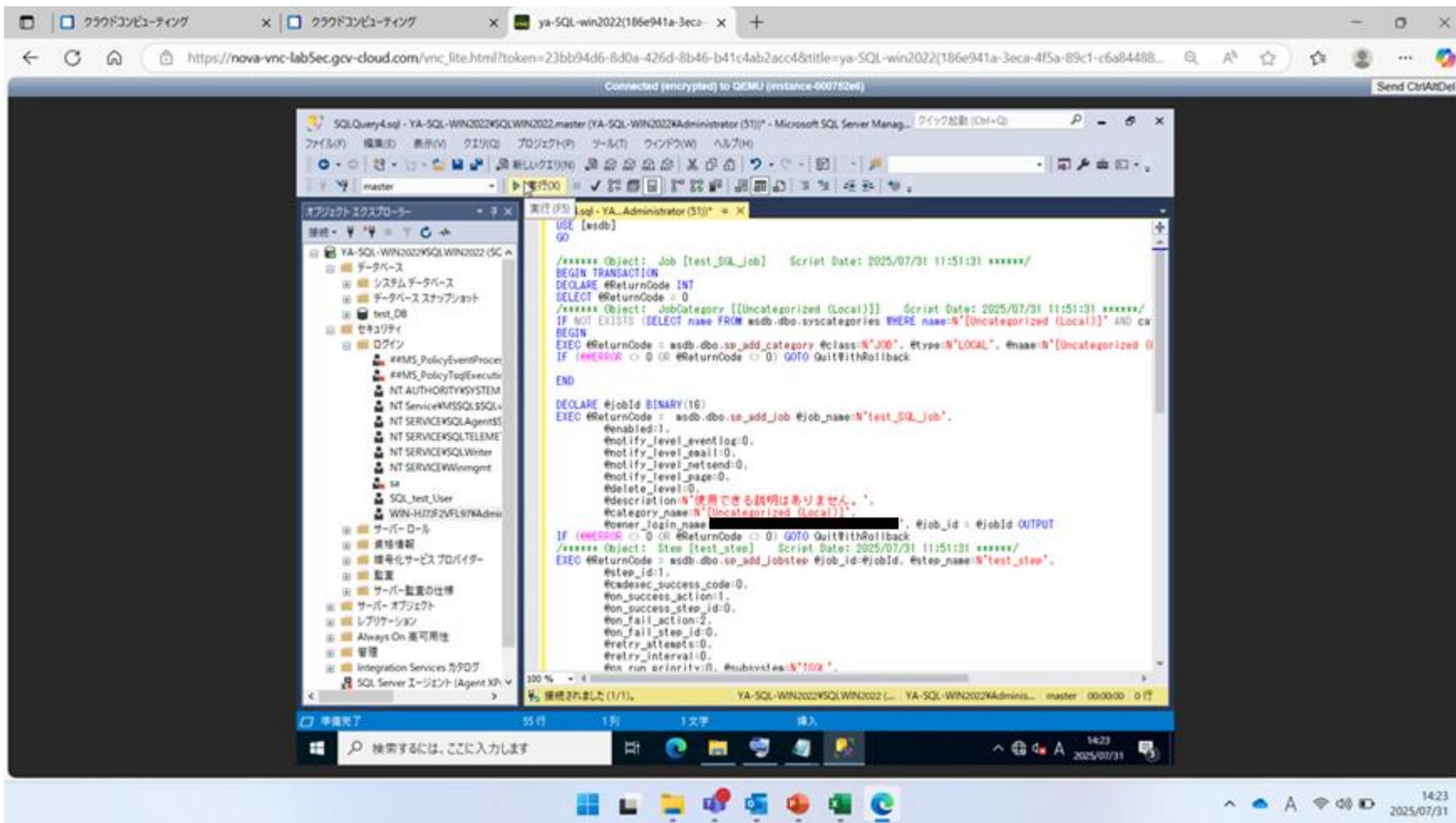
6. リストア作業

SQL Server Management Studioから「新しいクエリ」を選択する。



6. リストア作業

コピーした内容を全て貼り付け、「実行」を選択します。

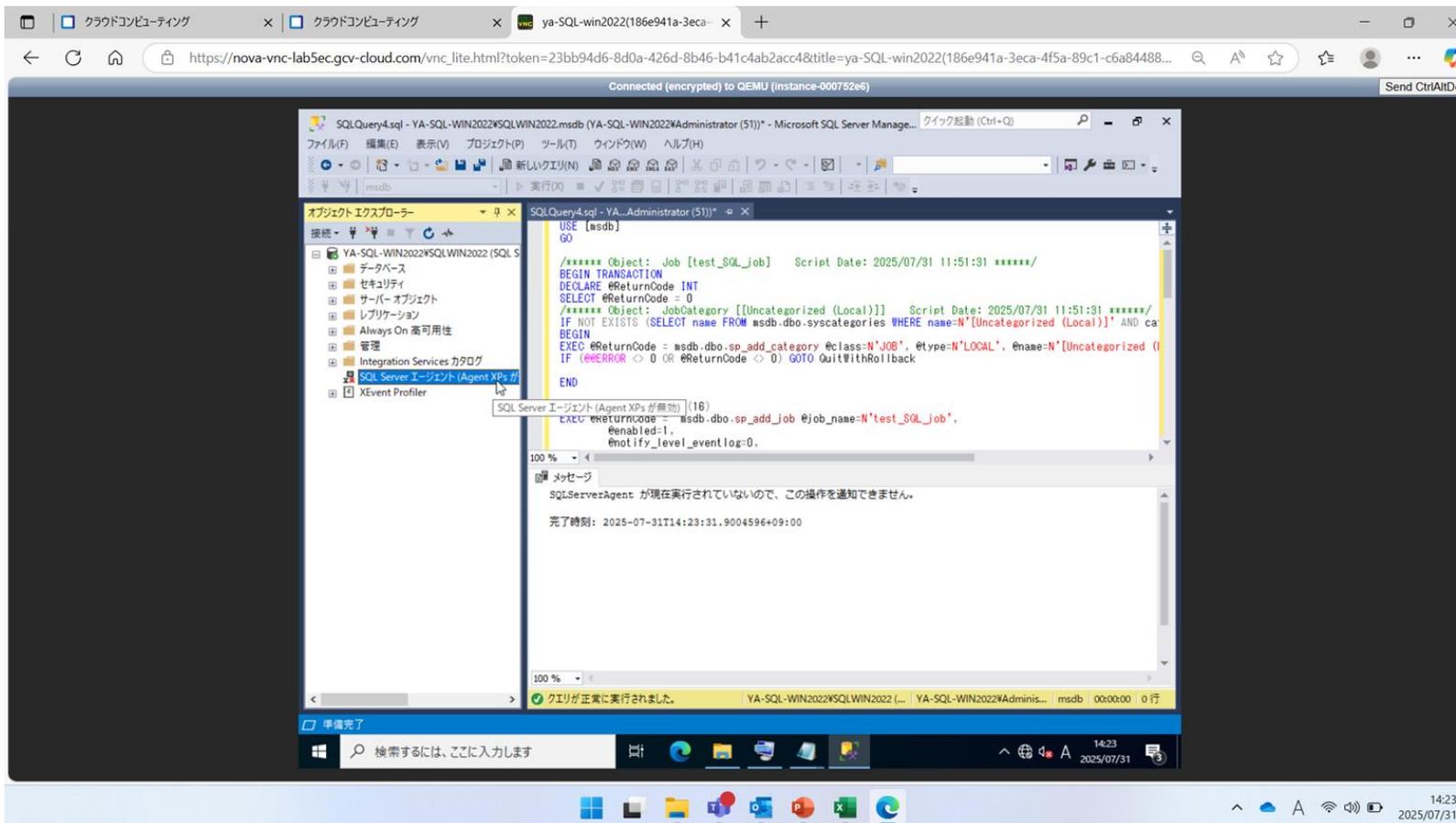


6. リストア作業

つながろう。驚きを。幸せを。

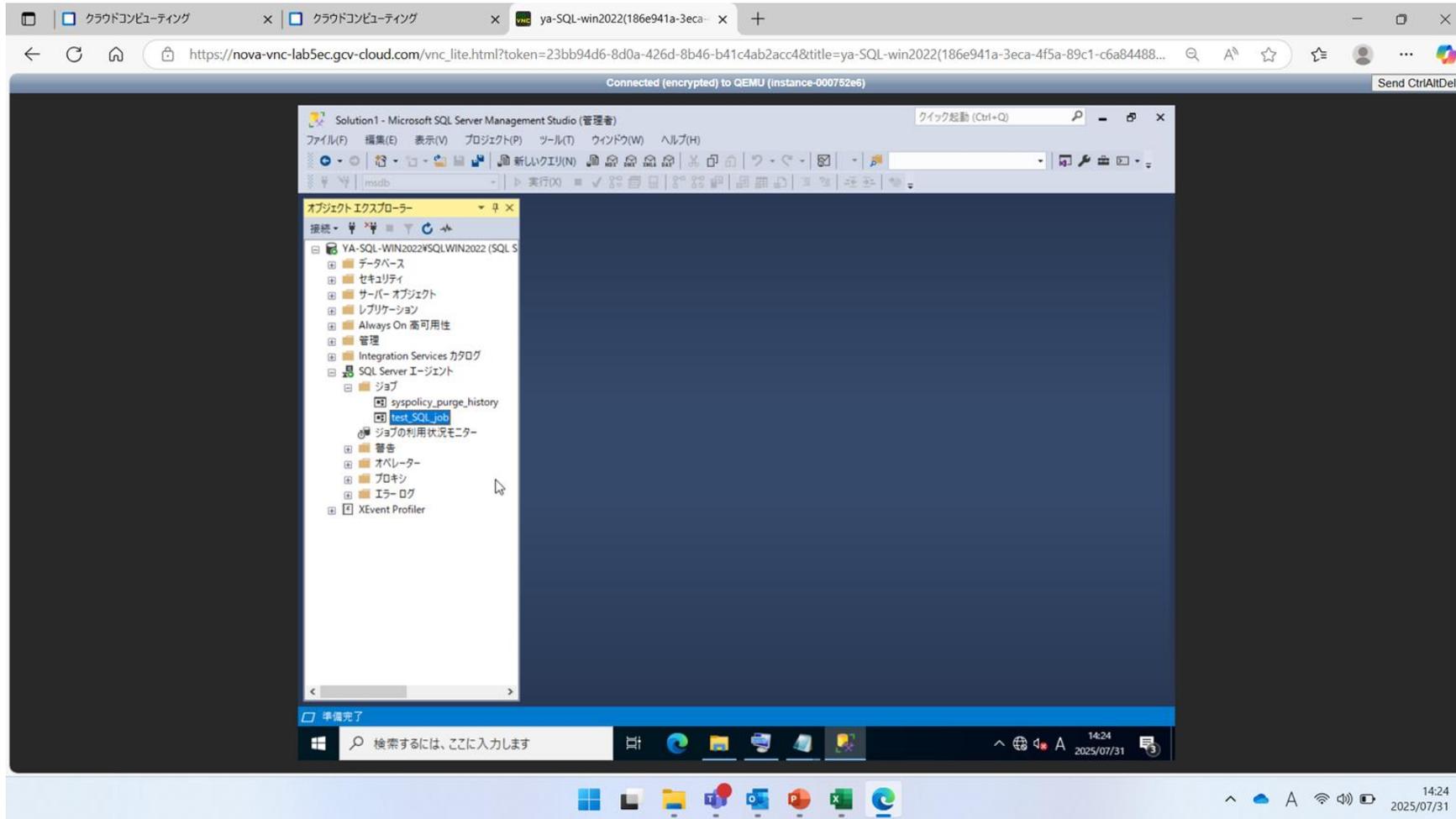
 NTT docomo Business

「コマンドは正常に完了しました。」のメッセージが出力されていることを確認する。
SQL Server エージェントを事前に起動していない場合、「SQL Server Agentが～この操作を通知できません。」というメッセージが出力されることがありますが、インポート作業自体には影響ありません。



6. リストア作業

「SQL Server エージェント」 → 「ジョブ」 から対象のジョブがインポートされていることを確認します。



7. バックアップデータ保存用ボリューム・移行元サーバの削除

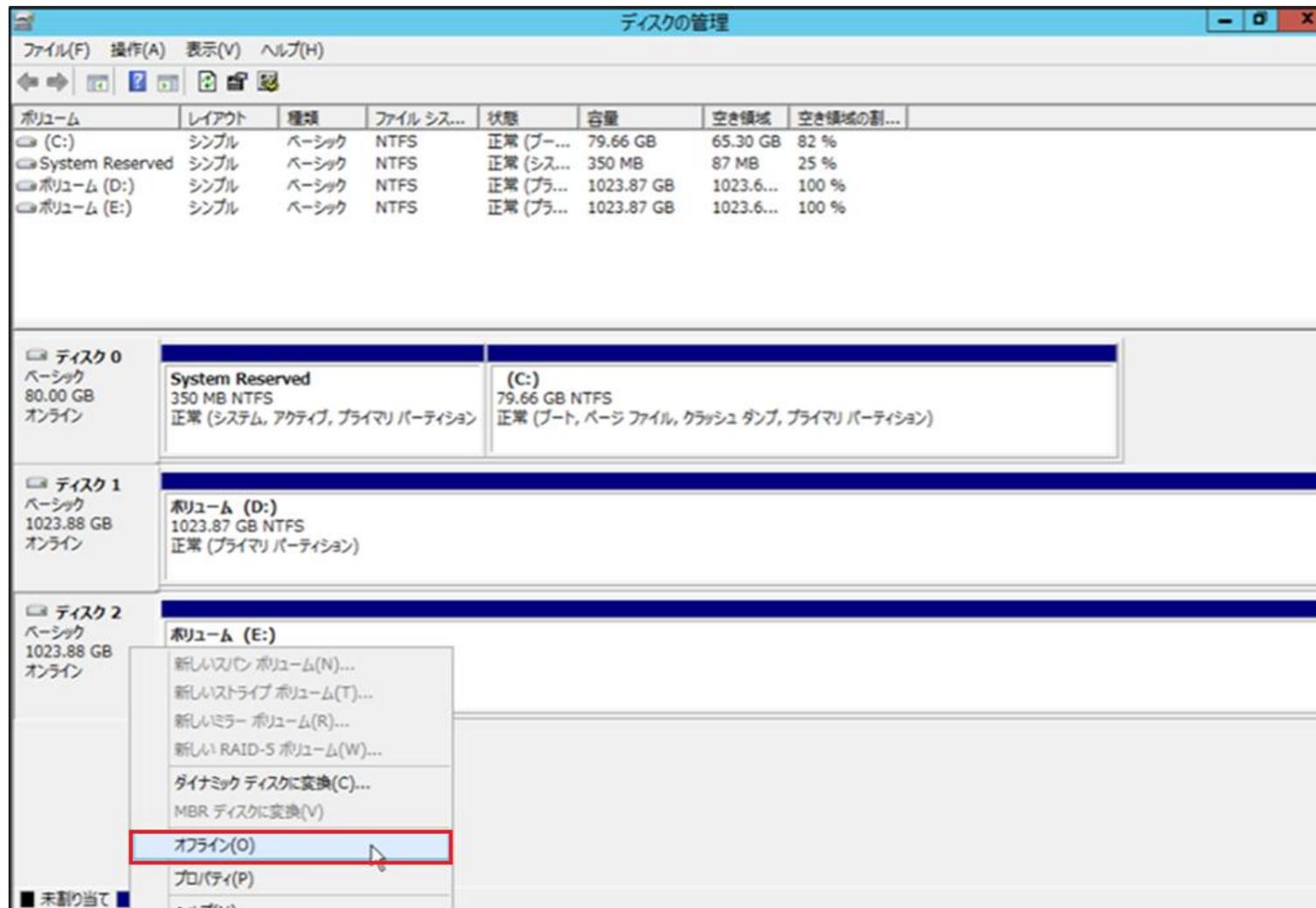
新環境へのデータ移行が完了し、アプリケーションが問題なく稼働することをご確認いただけましたら、バックアップデータ保存用ボリュームと移行元サーバを削除していきます。

7. バックアップデータ保存用ボリューム・移行元サーバの削除

【ボリュームの削除】

7. バックアップデータ保存用ボリューム・移行元サーバの削除

移行先サーバのコンソール画面を開き、「ディスクの管理」の画面で、バックアップデータ保存用ボリュームのディスクで右クリックで、「オフライン」を押下します。



7. バックアップデータ保存用ボリューム・移行元サーバの削除

SDPFポータル画面を開き、「仮想サーバ」→「サーバーインスタンス」→「ボリューム」画面で、バックアップデータ保存用ボリュームを選択し、「接続の管理」を選択します。

The screenshot shows the 'ボリューム' (Volumes) page in the SDPF portal. The left sidebar contains navigation options for tenant information, virtual servers, server instances, volumes, image management, physical servers, hypervisors, storage, cloud servers, and mutual connection services. The main content area displays a table of volumes with the following columns: 名前 (Name), 説明 (Description), ゾーン/グループ (Zone/Group), サイズ (Size), 種別 (Type), 接続先 (Connection), 起動可能 (Startable), ステータス (Status), and アクション (Action). A dropdown menu is open for the '接続の管理' (Connection Management) action of a volume.

名前	説明	ゾーン/グループ	サイズ	種別	接続先	起動可能	ステータス	アクション
	-	zone1-group	1000B	-		はい	利用可能	ボリュームの編集
	-	zone1-group	800B	Type-A		はい	reserved	ボリュームの編集
	-	zone1-group	800B	Type-B		はい	利用可能	ボリュームの編集
	-	zone1-group	10240B	Type-B		はい	利用可能	ボリュームの編集
	-	zone1-group	10240B	Type-B	の /dev/sdc に接続中	いいえ	使用中	ボリュームの編集
	-	zone1-group	10240B	Type-B	の /dev/sdc に接続中	いいえ	使用中	接続の管理 イメージのアップロード ボリューム種別の変更 ボリュームの削除
	-	zone1-group	10240B	Type-B	の /dev/sdc に接続中	いいえ	使用中	

7. バックアップデータ保存用ボリューム・移行元サーバの削除

「ボリュームの接続の管理」画面で、「ボリュームの切断」を押下します。



「ボリュームの切断の確認」画面が表示されるので、「ボリュームの切断」を押下します。



7. バックアップデータ保存用ボリューム・移行元サーバの削除

つながり。驚きを。幸せを。



以下を参照して、コントロールパネルのボリューム一覧画面から、削除したいボリュームを選択し、「ボリュームの削除」を実行します。

ボリュームの削除方法

7. バックアップデータ保存用ボリューム・移行元サーバの削除

【移行元サーバの削除】

7. バックアップデータ保存用ボリューム・移行元サーバの削除

以下を参照して、移行元サーバを削除します。
[インスタンスの削除](#)

1.1.4 仮想サーバーインスタンス新環境移行（Windows Server+SQL Server）データ移行手順

- APIを利用した移行作業内容および詳細
 - APIを利用した手順について、現時点での準備はございません。

■ 切り戻し方法

- 「手順7. 移行元サーバの削除」前であれば、移行元環境が残っているため、切り戻しが可能です。
- 「手順7. 移行元サーバの削除」後の切り戻しはできません。
- 必要に応じて、以下手順を参考にサーバーインスタンスのスナップショット作成やバックアップの取得をご検討ください。

[2.6. インスタンスのスナップショットを作成する - サーバーインスタンス チュートリアル](#)

[5.2. ボリュームをイメージ管理へアップロードする - サーバーインスタンス チュートリアル](#)

[4. Arcserve UDP 10.0を用いたSmart Data Platform でのバックアップリストア運用例](#)

1.1.3 仮想サーバーインスタンス新環境移行（Windows Server）データ移行手順

つながり。驚きを。幸せを。



■ 手順通り進まない場合の対処方法

- エラー等が発生した場合や手順に関する不明点がございましたら、チケットシステムよりチケット起票いただきお問い合わせください。

※チケット起票手順につきましては、「[SDPFクラウド/サーバー関連チケット起票方法](#)」をご参照ください。

お問い合わせ内容によって下記区分をご選択ください。

- | | | |
|---------------------|---|-----------------------------|
| Incident Submission | : | 故障・不具合に関するお問い合わせ |
| General Inquiry | : | 設備更改のガイドラインおよび手順書に関するお問い合わせ |